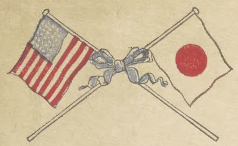
捃拾帖

十七

A 00
6010

A00-6010
東京大學圖書之印
B 61009
男爵田中[illegible]氏寄贈
先代田中芳男[illegible]舊藏書
昭和七年



一筆啓上仕候然者本月八日虎門内工部大學校ニ
於テ合衆國前大統領グランド君接待之爲メ夜會
相開候間同日午後九時ヨリ同校エ御來會被下度
此段申上候謹言

七月六日

東京接待委員總代
澁澤榮一
福地源一郎

田中芳男様
御内室様

尚々當夜小禮服若ハ羽織袴御着用被下度且ツ諾否ノ御答ハ
速ニ木挽町十丁目商法會議所ニ相設候接待委員局エ御報道
可被下候

通門切手

田中芳男様

東京接待委員

傍聽牌

明治十一年七月三十日

扶桑艦
比叡艦
金剛艦

拜見之證

一筆啓上仕候陳ハ今般府民ノ情願ニヨリ來ル廿五日午後二時三十分御出門ニテ上野公園へ　御臨幸被爲在候旨被　仰出候就テハ同日右御刻限前ニ同所へ御參會御坐候樣仕度此段御案内申上候也

明治十二年八月　日

御臨幸事務委員總代
澁澤榮一
福地源一郎

田中芳男様

追啓御諸否ノ儀ハ速ニ上野公園地内凌雲院ニ相設候御臨幸事務局へ御通示被下度此段添テ申上候也

午後第六時立食ノ晩餐ヲ呈ス

東□番
棧敷
壹人

明治十二年八月廿五日　雨天順延ノ事

（朱印）御臨幸委員章

[illegible]

（朱印）御臨幸委員章

本月十八日本港公園内物産陳列場開場式執行相成候ニ付同所ニ於テ祝宴相催候間當日午後第五時御光臨被下度右御案内ノ爲メ如此ニ御座候謹言

但シ御諸否ノ儀ハ同所祝宴事務所へ御報道被下度候也

明治十三年四月

接待委員
伏島近藏
大關定次郎
椎野正兵衛
山口直治
箕田長次郎
小野光景
茂木惣兵衛
原善三郎
野村靖

田中芳男殿

横濱公園
物産陳列場開場式祝宴會
通門之證

横濱公園
物産陳列場開場式祝宴會
人力車切符
接待委員

御誂
萬小間物類
鼈甲櫛笄所
銀かん
幸手屋平吉

一筆啓上仕候陳ハ今般府民ノ情願ニヨリ來ル廿五日午後二時三十分御出門ニテ上野公園ヘ　御臨幸被爲在候旨被　仰出候就テハ同日右御刻限前ニ同所ヘ御參會御坐候樣仕度此段御案內申上候也

明治十二年八月　日

御臨幸事務委員總代
澁澤榮一
福地源一郎

田中芳男樣

追啓御諸否ノ儀ハ速ニ上野公園地內凌雲院ニ相設候御臨幸事務局ヘ御通示被下度此段添テ申上候也

平常

一御着服ハ大小禮服之事但シ御差支之向ハ羽織袴ニテモ不苦候事
一木履下駄ハ御無用ノ事
一晩餐ノ節ハ此切手御示シノ事
一諸人ノ爲折詰赤飯用意仕置候得共御從者並ニ車夫等ヘ別段辨當ノ設仕置不申候事

本月十八日本港公園內物產陳列場開場式執行相成候ニ付同所ニ於テ祝宴相催候間當日午後第五時御光臨被下度右御案內ノ爲メ如此ニ御座候謹言
但シ御諾否ノ儀ハ同所祝宴事務所ヘ御報道被下度候也

明治十三年四月

接待委員
伏島近藏
大關定次郎
椎野正兵衛
山口直治
簑田長次郎
小野光景
茂木惣兵衛
原善三郎
野村靖

田中芳男殿

横濱公園
物產陳列場開場式祝宴會
通門之證

横濱公園
物產陳列場開場式祝宴會
人力車切符
接待委員

御誂

萬小間物類
鼈甲櫛笄所
銀かん
幸手屋平吉

田中内務権大書記官殿

寺島文部卿
送呈

農學校農學科生徒卒業試驗點數表

等級	姓名	農學	化學	記簿法	平均點數
甲等	熊本縣 横井時敬	四六一、〇	四七〇、〇	四三四、〇	四五五、〇
甲等	兵庫縣 酒匂常明	四四九、六	四五二、五	四二〇、一	四四〇、七
甲等	東京府 大内健	四四二、三	四四八、五	四一九、〇	四三六、六
甲等	山形縣 今井秀之助	四一〇、六	四三九、〇	四一八、一	四二二、五
甲等	靜岡縣 渡部朔	四二一、一	四四二、〇	四〇一、七	四二一、六
甲等	岐阜縣 大塚由成	四三四、五	四一四、〇	三九四、八	四一四、四
甲等	島根縣 山本龜三	四一二、八	四四一、五	三七五、一	四〇九、八
甲等	兵庫縣 澤野淳	四〇三、二	四一五、五	三九七、七	四〇五、四
甲等	鹿兒島縣 押川則吉	四三三、八	四一二、〇	三五〇、五	三九八、七
甲等	石川縣 青山元	四一八、八	四〇四、〇	三五七、〇	三九三、二
甲等	青森縣 原田清太郎	四〇九、五	四一六、五	三四三、八	三八九、九
甲等	山口縣 井原百介	四二三、七	三八七、〇	三三八、一	三八二、九
甲等	大分縣 恒藤規隆	四一四、一	三七七、五	三五五、一	三八二、二
甲等	福島縣 齋藤萬吉	四一七、〇	三六八、五	三一〇、二	三六五、二
甲等	兵庫縣 谷口謙之助	四一三、四	三七一、〇	三一一、〇	三六五、一
甲等	高知縣 高橋昌	四二六、六	三三三、〇	三二一、五	三六〇、三
甲等	宮城縣 作間餘三郎	三九八、五	三三一、五	三一一、八	三四七、二
乙等	東京府 小花春吉	四〇〇、六	三五二、五	二九三、七	三四八、九
乙等	長崎縣 中村元保	三七五、六	三六二、〇	二八〇、二	三三九、二
乙等	靜岡縣 小宮彌三郎	三五二、三	三五六、五	二三一、二	三一三、三
乙等	靜岡縣 津田省一	四一〇、三	二九八、五	二九二、〇	三三三、六
乙等	山口縣 三吉米熊	三八〇、三	二四七、〇	二七五、一	三〇〇、八

農學教師ヂョン、デー、カスタンス
化學教師エドウアード、キンチ 試驗

明治十三年六月

農學校長勳五等關澤明清 調査

男鬢毛 一枚ニ付十銭 八十銭ヨリ
女鬢毛 一枚ニ付六銭 七十銭ヨリ

上州前橋横町
御入歯細工師
大石仙吉

鯨牙 蝋石 生歯 象牙 倭木 唐木

[illegible]

靴服肌着
羅紗類品々
毛織物類 小売
為替
川町壹番地
明進堂

御年玉

氷女丁三十番地
精養軒

五月廿二日麴町區三年町四番地ノ邸ニ於テ夜會相催候間同日午後八時三十分ヨリ御光臨被下度致希望候也

明治十三年五月十九日

諾否ノ回答ヲ乞フ

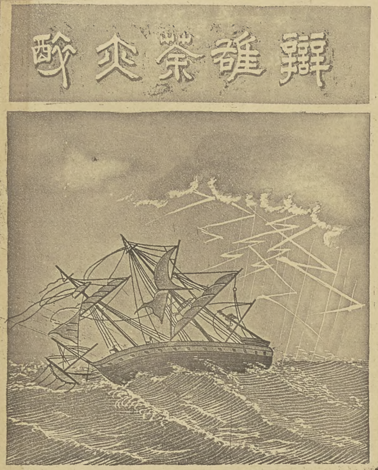
大木喬任

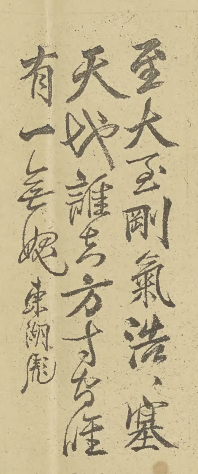
三井銀行本支店出張店一覧表

東京	名古屋	千葉	大津	長崎	伊勢山田	飛騨高山
大坂	仙臺	水戸	和歌山	札幌	横須賀	四日市
西京	函館	青森	出雲松江	土浦	丹波園部	越前敦賀
神戸	下ノ関	岐阜	山口	常陸下妻	但馬豊岡	肥前佐賀
横濱	松坂	伊勢津	廣島 小田原	小田原	丹後宮津	石州濱田

八王子

東京三井銀行





以書画雕銅恰與石版同此吾友中川昇氏新發明也故名此雕法曰中川雕

明治十一年八月

江都　中村正直

新發明中川雕　東京神田美土代町二丁目壱番地　東光舎中川昇銅製

精　許　官　製

神戸牛肉粕漬

貯蓄

BEST PRESERVED BEEF. KOYOSHA, TOKEI, JAPAN.

賣捌

本舗

東京尾張町二丁目廿六番地

康養社

本月十日拙邸ニ於テ夜會相催シ候間同日午後八時ヨリ御光臨被下度致希望候也

諾否ノ回答ヲ乞フ

明治十三年六月　一日

芝區白金猿町六十七番地

寺島宗則

田中芳男殿

記

一 [illegible] 一ツ

紙包 一ツ

如斯御座候也

十三年二月六日

河瀬 [illegible]

田中芳男様

御侍中

山林學共會廣告

山林事業ハ至大ニシテ且深遠ナルカ故ニ切瑳其理ヲ講究セズンバ近ク山林ニ接スルモ其措置ヲ知ラズ親ク樹木ヲ見ルト雖モ其効用ヲ知ルニ由ナシ然レトモ山林ノ事タル日尚淺クシテ學術實驗共ニ未タ到ラサル所アリ依テ有志者相謀リ府下牛込神樂町二丁目拾二番地ニ於テ毎週土曜日ノ午後ヲ以テ會議ヲ開キ此道ニ就キ各自見聞スル所及ヒ實驗スル所ヲ述ベテ互ニ智識ヲ交換セント欲ス篤志ノ諸君ハ入員シテ互ニ相ヒ質問討論アランヿヲ望ム尤當日論講セル事ハ悉ク雜誌ニ記シテ發兌致スベクニ付遠方有志ノ諸君モ入員アラバ郵書ヲ寄セテ疑事ヲ質ス等自由タルベシ故ニ遠近ノ論ナク入員ノ望アル諸君ハ宿所姓名御申越有之度候也

明治十二年十二月

會主

生島智雄
緒方道平
松野礀
片山直人

來明治十三年一月十七日午後一時ヨリ發會候事

領收証

記

[illegible]二個

[illegible]

證

一[illegible]

右正ニ請取候也

明治十三年十二月十五日

製紙分社

田中芳男様

凡ろ食物の消化あしく停滞するより種々の病患を生ぜるものなれば西洋各國にては人々食後に必ず加琲を飲み其消化をよくするを養生の第一とす本朝養生記にも食事の前後には加琲と飲む説あれば我國も昔は加琲を以て養生の品とすることゝゑるべし今では世の人大抵該品の功能と知るといへどいまだ其味を試みず或は是を煎じ砂糖を入れる手数を厭ひ其功を知りつゝ、毎日用ひざるものもあり因て新工夫を考へ此加琲糖を製し専ら用ひ方の便利なると香味の好を主とし平生は勿論旅中などの用とすさて加

大日本最初

A PREPARATION OF COFFEE

ready for use.

新製 加琲糖（かうひたう）

別製牛乳入

定價

ブリキ詰大鑵	廿五錢
同 中鑵	十五錢
同 小鑵	十錢
御試用小袋	五錢
ブリキ詰大鑵	三十錢
同 中鑵	二十錢
同 小鑵	十三錢

54 五十四番

従神奈川新橋迄

大日本最初

新製 加琲糖

加琲糖は第一食物を消化せしむるより胃腸をすかし停滞氣鬱の病を生せざ故に酒れ二日酔に速功あり又牛乳を加ゆれば功味もまた格別にして其臭を止ること甚妙なり用ひ方は加琲糖を湯碗よいれ熱湯を點しかきまぜての濃さ薄さはヒかけんにて人々の好みよ用ゆべし

京都寺町御池茶商 本舖 熊谷在棋堂製

東京南鍋町一丁目船藥本店 賣捌所 回春堂

新製 加琲糖 定價 大鑵二十五錢 中鑵十五錢 小鑵十錢

同 紅茶糖 大鑵三十錢 中鑵二十錢 小鑵十錢

（印刷 細林堂）

本舖 京都寺町通御池北 熊谷在棋堂

茶名記

百六十目壹斤

上段	價	下段	價
濃茶		薄茶	
鶴の齢	半一袋三十錢	極詰	金二圓
白雲	同 二十錢	上別儀	一圓二十錢
硯の白	同 十三錢	賓葉	八十錢
玉露製		葉物製	
綠等	四圓	蟬の羽	二圓五十錢
瓊露	三圓	籠鱗	二圓
瑞雲	二圓五十錢	春の雪	一圓五十錢
玉乳	二圓	蝶影	一圓二十錢
琴の露	同	花の魁	一圓
蘭の香	一圓七十錢	煎茶製	
白玉	一圓五十錢	蓬萊	八十錢
鳳爪	同	神樂	同
月の露	一圓二十錢	花橘	七十錢
梅英	一圓	上喜撰	六十錢
折物製		喜撰	五十錢
君子風	三圓	壽	四十錢
綠菊	二圓五十錢	山吹	三十錢
友白髮	二圓	楊柳	二十錢
[illegible]	一圓五十錢	一森	同
[illegible]隱	一圓二十錢	富貴	十六錢

新製 加琲糖

京都寺町通御池北 茶商在棋堂

凡ろ食物の消化あしく停滯するより種々の病患を生ぜるものなれば西洋各國にては人々食後に必ず加琲を飲み其消化をよくするを養生の第一とす本朝養生記にも食事の前後には加琲を飲む說あれば我國も昔は加琲を以て養生の品とすることなるべし今では世の人大抵該品の功能を知るといへどいまだ其味を試みず或れ是と煎じ砂糖を入れる手數を厭ひ其功と知りつゝ毎日用ひざるものもあり因て新工夫を考へ此加琲糖と製し專ら用ひ方の便利なると香味の好を主とし平生れ勿論旅中などの用とすさて加

大日本最初

A PREPARATION OF COFFEE

ready for use.

新製 加琲糖（かうひたう）

別製牛乳入

定價

ブリキ詰大鑵		廿五錢
同	中鑵	十五錢
同	小鑵	十錢
御試用小袋		五錢
ブリキ詰大鑵		三十錢
同	中鑵	二十錢
同	小鑵	十三錢

五十四番 54

從神奈川新橋迄

大日本最初

新製 加琲糖

加琲糖ハ第一食物を消化せしむるより胃腸をすかし停滯氣鬱の病を生ぜせぬ故に酒れ二日酔に速功あり又牛乳を加へれハ功味もまた格別にして其臭を止ること甚妙なり用ひ方ハ加琲糖を湯碗よいれ熱湯を點しかきまぜての濃さ薄さハヒかけんして人々の好みよ用ゆべし

京都寺町御池茶商
本舖 熊谷在栱堂製
東京南鍋町一丁目船藥本店
賣捌所 回春堂

大日本最初 新製 加琲糖 紅茶糖

定價 大鑵二十五錢 中鑵十五錢 小鑵十錢

同 大鑵三十錢 中鑵二十錢 小鑵十錢

茗舖 京都寺町通御池北 熊谷在栱堂

初雁	一圓二十錢	富貴	十六錢
白折	一圓五十錢	森	同
友白髮	二圓	楊柳	二十錢
絲菊	二圓五十錢	山吹	三十錢
君子風	三圓	壽	四十錢
折物製		喜撰	五十錢
梅英	一圓	上喜撰	六十錢
月の露	一圓二十錢	花橘	七十錢
鳳爪	同	神樂	同
白玉	一圓五十錢	蓬萊	八十錢
蘭の香	一圓七十錢	煎茶製	
琴露	同	花の魁	一圓
玉乳	二圓	蝶の影	一圓二十錢
瑞雲	二圓五十錢	春の雪	一圓五十錢
瓊露	三圓	龍の鱗	二圓
綠琴	四圓	蟬の羽	二圓五十錢
玉露製		葉物製	
硯の白	同 十三錢	賓葉	八十錢
白雲	同 二十錢	上別儀	一圓二十錢
鶴が齡	半一袋 三十錢	極詰	金二圓
濃茶		薄茶	

茶名記 百六十目壹斤

新製 加琲糖

京都寺町通御池北 茶商在栱堂

元祖 雁皮紙目録

豆州熱海今井半太夫製

書物 雁皮紙

東京日本橋通四町目
金花堂須原屋佐助

色紙短冊 諸名家染筆 花色紙 短冊掛 数品 短冊掛 同品 同掛 品々

罫引本 大中小 西洋綴之手帳 数品 西洋ブック仕立 仕候

雁皮紙張御團扇 品々 詩歌連俳諸名家画賛 数品 外国向 極彩色 [illegible]

同御扇子数品 中啓 [illegible] 外国向 [illegible] 極彩色 [illegible] 数品

画絹ぬめ絖大中小品々 [illegible] 書画帖 [illegible] 品々

〔雁皮紙類〕

御書物紙 [illegible] 五色 [illegible] 中判 小菊判 [illegible] 判

御半切類 [illegible]

詩箋品々 [illegible]

襖紙品々

〔唐紙類〕

大画仙紙 中画仙紙 小画仙紙

扇面唐紙 雪貢紙 五色 金箋紙

紅唐紙 同和染 七色唐紙 [illegible] 朱唐紙 黄唐紙 裏打唐紙 [illegible]

大高檀紙 中高檀紙 小高檀紙 [illegible] 長判 中判 [illegible]

五色 [illegible] 紅流紙 [illegible]

[illegible] 押紙 金砂子紙 品々 [illegible]

[illegible] 唐紙 和唐紙 金葉紙 [illegible]

[illegible] 状袋 同 [illegible] 千代紙数品 [illegible]

書画帖 大中小数品 [illegible] 仕立 印可巻物 清書 [illegible]

〔書籍類〕

康煕御定歴代題畫詩類 巻菱湖校 [illegible]

近葉菅根集 全五冊

古今和歌六帖標註 全六冊

橘千蔭先生手本類 全一冊

古今和歌集 中本 全二冊

紐鏡中乃心 全二冊

假字便覧 全一冊

繪本大和錦 一名近代名家画帖 初編 二編 三編 三冊 三冊 三冊

抱一先生畫譜 彩色入善本 全一冊

玄對先生畫譜 山水ノ部 全五冊

山繭養法秘傳抄 全一冊

正誤假字遣 懐中横本 全一冊

同先生畫譜 人物花鳥ノ部 全三冊

裁縫早手引 女中心用 横本一冊

大成玉篇畫引 銅板 全一冊

新撰名乗字引 懐中本 全一冊

早引二重引 懐中本 全一冊

唐本和本西洋本儒書医書歌書俳書詩文章写本雑書和洋法帖御望之品新本古本 [illegible]

御書物類仕立 [illegible]

十三年十一月七日

[illegible]

田中文部大輔 送呈

新橋横濱間鐵道列車時刻表

明治十三年四月一日改正

下リ車時刻表

	午前					午後							
従新橋	七時	八時十五分	九時三十分	十時四十五分	十二時	二時	三時十五分	四時三十分	五時四十五分	七時	八時十五分	九時三十分	十時四十分
従品川	七時九分	八時廿四分	九時三十九分	十時五十四分	十二時九分	二時九分	三時廿四分	四時三十九分	五時五十四分	七時九分	八時廿四分	九時三十九分	十時四十九分
従大森	七時十八分	八時三十三分	九時四十八分	十一時三分	十二時十八分	二時十八分	三時三十三分	四時四十八分	六時三分	七時十八分	八時三十三分	九時四十八分	
従川崎	七時三十分	八時四十五分	十時	十一時十五分	十二時三十分	二時三十分	三時四十五分	五時	六時十五分	七時三十分	八時四十五分	十時	十一時八分
従鶴見	七時三十八分	八時五十三分	十時八分	十一時廿三分	十二時三十八分	二時三十八分	三時五十三分	五時八分	六時廿三分	七時三十八分	八時五十三分	十時八分	
従神奈川	七時五十分	九時五分	十時二十分	十一時三十五分	十二時五十分	二時五十分	四時五分	五時二十分	六時三十五分	七時五十分	九時五分	十時二十分	十一時廿六分
到横濱	七時五十五分	九時十分	十時廿五分	十一時四十分	十二時五十五分	二時五十五分	四時十分	五時廿五分	六時四十分	七時五十五分	九時十分	十時廿五分	十一時三十一分

上リ車時刻表

	午前					午後							
従横濱	七時	八時十五分	九時三十分	十時四十五分	十二時	二時	三時十五分	四時三十分	五時四十五分	七時	八時十五分	九時三十分	十時四十分
従神奈川	七時六分	八時二十一分	九時三十六分	十時五十一分	十二時六分	二時六分	三時廿一分	四時三十六分	五時五十一分	七時六分	八時二十一分	九時三十六分	十時四十六分
従鶴見	七時十七分	八時三十二分	九時四十七分	十一時二分	十二時十七分	二時十七分	三時三十二分	四時四十七分	六時二分	七時十七分	八時三十二分	九時四十七分	
従川崎	七時廿五分	八時四十分	九時五十五分	十一時十分	十二時廿五分	二時廿五分	三時四十分	四時五十五分	六時十分	七時廿五分	八時四十分	九時五十五分	十一時三分
従大森	七時三十八分	八時五十三分	十時八分	十一時廿三分	十二時三十八分	二時三十八分	三時五十三分	五時八分	六時廿三分	七時三十八分	八時五十三分	十時八分	
従品川	七時四十六分	九時一分	十時十六分	十一時三十一分	十二時四十六分	二時四十六分	四時一分	五時十六分	六時三十一分	七時四十六分	九時一分	十時十六分	十一時廿二分
到新橋	七時五十五分	九時十分	十時廿五分	十一時四十分	十二時五十五分	二時五十五分	四時十分	五時廿五分	六時四十分	七時五十五分	九時十分	十時廿五分	十一時三十一分

○旅客ノ列車此表ニ示ス時刻ノ發着ニテ日々東京横濱各「ステーション」ノ間ヲ往復ス○乘車セント欲スル者ハ遲ク𪜈此表示ノ時刻ヨリ十分前ニ「ステーション」ニ來リ切手買入其他ノ手續ヲ爲スベシ且賃金ノ定數ヲ過不足ナキヤウ兼テ用意アランヿヲ欲ス但發車並ニ着車共必此表示ノ時刻ニ違ハザルヤウニハ請合ガタケレ𪜈可成丈遲滯無キヤウ取行フベシ○旅客ハ出札所ノ窓ヲ退ク前ニ其切手並ニ鈎錢等ヲ改ム可シ後ニ間違等申出ル𪜈聽入ザル事○切手ハ其日限リ表記スル「ステーション」迄乘車一度ノ用ニテ途中「ステーション」ニ下車シ再ヒ同切手ヲ以テ次ノ列車ニ乘用ヲ許サズ○小兒四歳迄ハ無賃其餘十二歳迄ハ半賃錢ノ事○旅客ハ總テ鐵道規則ニ隨ヒ旅行スベシ○切手撿査ノ節ハ切手ヲ出シ改メヲ受又切手取集ノ節ハ之ヲ渡スベシ且何レノ「ステーション」ニテモ下車スル𪜌ハ切手ヲ取集メノ役員ヘ渡スベシ○旅客日用缺ヘカラザル旅具即チ小包胴亂ノ類ニテ自ラ手ニ携ヘ得ル者ハ無賃ナレ𪜈若シ損失アラバ自ラ負フベシ其餘ノ手廻荷物ハ目方二十斤迄ハ十錢以上六十斤迄一斤毎ニ五厘ヲ加フ尤川崎「ステーテョン」ヲ越ザレバ何レモ其半賃錢ヲ拂荷物科ヘ引渡シ受取證書ヲ求置ベシ但一人ニ付目方六十斤迄ヲ限トス○手廻荷物ハ總テ姓名カ又ハ目印ヲ記スベシ○旅客中乘車ヲ得ルト得サルハ車内ニ場所ノ有無ニヨルベシ○犬一疋ニ付賃錢二十五錢川崎ヲ越ヘザレハ其半賃錢ヲ拂フベシ併シ旅客車ニ載スルヲ許サズ犬箱或ハ車長ノ車ニテ運送スベシ尤首輪首綱口網ヲ備ヘテ相渡スベシ○發車時限ヲ怠ラザル爲メ時限ノ三分前ニ「ステーション」ノ戸ヲ扉スベシ○吸煙車ノ外ハ煙草ヲ許サズ

鐵道局

陸軍々醫總監松本順先生のコレラ豫防俗間手當法

コレラハ恐るべきも用心して病ひの侵す事ならざる様にせバ決して病む事なく恐るゝに足らず其用心の法ハ入費も入らず六ヶ敷事もあらず唯左の通りにすれバ足りとす○飯のいきれたる、生の魚、蝦、蟹、しやこ、鮹、鮑、蛤の類、天ぷら、魚類、豆腐の時移りたるもの、生の野菜、生漬の香の物、菓物の青く堅き物、總て生にある食物ハ一切食すべからず皆コレラの媒ちとなる事多し○食してよろしき物ハ新らしき小魚、鯛、比目魚の類をよく煮て食すべし鷄卵、小鳥の肉、芋の類など皆な柔かに煮て食すれバ害なし○菓實の青く堅きものハ甚だ恐るべし桃、梨、杏の類のやハらかに熟したるハ一ッ位食するとも決して害なし○蕎麥、温飩、素麪、餅、鮨、餡氣の類ハ其品と時によりて害なしと雖も時として中る事少なからず食せざるも事濟むべし命にハかへられねバ到來物などハ皆な捨てしまふべし○水のあしき所に住む人ハ先づ其水を砂ごしにし一端煮たて冷し置て飲料とすべし○酒ハ醉ぬ程なれバよろしけれど大酒の後ちコレラを病む者多ければ必らず大醉すべからず夜ハよく腹まきして寐冷せぬやう用心すべしねびゑハ下痢の元コレラの芽なれバ深夜明しなしにて寐るなど甚だ恐るべきなり○衣類ハいまだ汚れなくとも汗じみたれバ必らず洗ふべし夜具ふとんのよごれてあしきにほひするなどよりハむしろまきして清き寢ござに寐て薄き衣類をかけたるかたまされり○總じて流行病の時ハ家の内外共に清淨に掃除して芥溜溝など滯りなき様にし食物も殊更ら要心してやはらかに煮たる物の外ハ食せず日〻湯に入てあたゝかにし少こし汗ばむ位ゐにして三度の外ハ無益の物を食せず夜ハ十時を過ずして寐ね朝ハ六時前に起て常の如く營業するものハ決してコレラの感じすくなきなり隣家にコレラあるも少しも恐るべからず○強く恐れて用心せぬものハ態とコレラを招くが如く只己れの心にて十分に防ぐべきものなれバ必らす用心して恐れぬこそよけれ○職人などの辨當のむれたる惡しきに水をかけて食するもの多し故にコレラ病ハ職人に多しと云ふ○吝嗇の人など少し位ゐハとて魚其ほか食物の惡きものを惜み大事の命をうしなふなど笑ふべきものなり或ハ己れのみ用心して婢僕にあしき物を與へ終に病を醸して一家近隣をさはがす等いやしむべく恥づべきとにて憐れまざるべからず一度にても下痢したらん者ハ早く湯に入てよく〳〵温まり十分に汗を出だし尙ほ冷ぬやうにして熱き粥或ハ熱き葛湯にても飲み又ハよき燒酎「ブランデー」を湯に和せて飲むべし體あたゝかになりて汗よく出れバコレラとなるとなし其上に醫者を招き其敎へを受くべし用心藥などゝてみだりに阿片の入たる藥など飲むハ却つて危ふし

明治十二年八月初旬横濱の何某なる者頃日此病ひにかゝるもの多きを憫み普く其災厄を遁れしめんが爲に豫防方の讀易く解し易きを板行し廣く人に援けんと請ふ其仁慈なる殊に感ずべきなり依て公事の暇筆をとりて是を授く

正五位勳二等　松本順誌

虎列刺病豫防委員心得書

第一　曾テ配賦シタル攝生法ヲ詳細示諭遵守セシムルヿ

第二　該町内不潔ノ場所例ヘハ便所塵溜溝渠流シ尻其他營業上不潔ニ渉リ易キ牛馬牧舍並牛馬車及ヒ魚鳥獸賣買店等清潔ニシ汚臭ヲ發セサル様常ニ掃除セシムルヿ

但裏長屋總雪隱等ハ一層注意セシムヘシ

第三　該町内人民集合ノ場所例ヘハ寄席料理屋旅人宿牛肉鷄肉店菓物店等ニ注意シ清潔ニ洒掃セシメ又腐敗ニ近キ飲食物及ヒ未熟ノ菓物一切供用セサル様示諭スルヿ

第四　該町内ニ於テ若シ吐瀉病者アルヲ見聞スルトキハ速ニ各自信仰ノ醫師ヲ招カシムヘシ就中貧困ニシテ藥價自辨シ難キ者ト認ムルトキハ直ニ區役所ヘ報告スルヿ

第五　豫防實施上說諭ヲ肯セサルカ或ハ緊要ト認ムル件アレハ速ニ區役所ヘ申出指揮ヲ受クヘシ若又委員ノ寡少ヨリ自然不行届ト認ムルトキハ該町ノ協議ヲ取リ增員スルヿ

但當撰人番地姓名其都度届出ツヘシ

第六　虎列刺病感染者有之節ハ撿疫委員等出張該

家限リノ消毒法充分行フヘクモ尙委員ハ區吏員ト協議シ豫テ貯蓄セル區內共有ノ豫防藥ヲ以テ其近傍病毒潜伏ノ恐アル箇所ヲ撿シ撲滅法施行スルヿ

虎列剌病豫防の心得

一、臭氣止の製法

緑礬(藥種屋にあり)七十五目に鋸屑一貫目を入と是をよく混合せすべて悪ひ匂ひのある所雪隠(大便をした度毎にまくべし)掃溜等へ撒布せバ忽ちすさき匂ひを去ると疑なし

又緑礬三百目へ水一斗を入と是をよく混和せて悪き臭のする所へ散布すもよろし

一

○虎列剌病豫防之心得

虎列剌病も傳染る病でござり升から常に食物飲物等に能く注意し若し消食機病又も下痢症を煩ふ事あらバ速く醫師を招て藥用せねバなりませぬ左かるに不摂生にして悪き食物などを食ひ腸胃を損ずるとあれバこれら虎列剌病の媒介となるものであざりますから能く次に申通り食物や飲物ハいふに及バぎ萬事にも注意常に腸胃を強壮ならしむる様に心掛けさへすれバ此病を引受るの憂ハござりませぬぞ

○食物ハ總て消化のよいものが宜しいと申事故魚類などハ成丈かるい新鮮い物をあがるが宜しうござい升

○家鴨 鳫 豚肉 沙狗 蠻蛤 章魚 鯨 鯖 鰶 攝物 干物 の類ハ悪うござり升わけて佳蘇魚 松魚 蟹 海老 の類ハ極悪うござり升

○牛 犢 羊 鷄肉 鷄卵の類ハ宜しいと申す事でござり升が是も多く食てハ悪いそうでござり升又少しでも古いのハ食てハなりませんぞ

二

○又天麩羅類ハ假令青物でも食ぬが宜し青菜 里芋 南瓜 牛蒡 苣蒿などハ悪うござり升又總ての青物でも日増のものや生熟のものハ悪いと申ます

○馬鈴薯 蕃薯 長芋 紅羅蔔 大根等ハ能く煮れバ宜しうござりますがこれも生にへれものハ悪うござり升

○果物ハ桃 李 梨 檎 葡萄 苺 などの能く熟たもの 少しヅヽ食ても宜しう御ざり升が熟ない青いのハ決て食てハなりませんぞ又菌類ハ御見合せなされ

○暑さの時分ハ私共始め湯水を多く飲ますが常に下痢症の御方なそハ成丈お扣なさます〳〵又沸騰た湯を水に冷してお飲なされバ宜しう御ざり升か沸騰た湯ハ蒸發氣がたつて仕舞ふ故甘く御ざりませんからこれに葡萄酒の茶の又ハ焼酒を少し入れて御飲さなるが宜しい

○牛の乳ハ古いの又あん氣の少し酸氣の附たる物其他何品によらず油こき物ハたべて少ても食てハなりませんそまた餅類 團子等の消化の悪いものハ必らづ御無用に

三

なされませ
○かく様にあれもこれも悪いくと言へば食ふ物はない様に思はれませうがそういふ
譯ではありません何でも消化のよい物を加へめに食し(空腹は宜しからず)身体を程
能く運動し大骨折は宜しからず)朝は早く起きて遊歩をなし(暑ひとて夜歩行は宜
しからず)家室雪隱(糞尿を多く溜め置く時は終にコロリの傳染媒介となるものな
り)等は能く掃除をなし厠掃溜を清浄になし下水の流れを通しすべて新鮮空氣の流
通様に心づけ我が精神を養ひて体の疲労ざる様になし又憂ひ愁みあるいは憤怒事を
せぬ様に氣をつけ御思活發爽快今日を送る様にすれば決てコレラに取付るゝの患は
ござりませんぞ
○夫れ金魚や鮒は水の中に生活て居り人間は空氣の中に生活て居るもの故常によき
空氣の中に居る様にすれば病氣も發す又悪い空氣の中に居れば病を受けるは自然の
理で御ざりますアヽ必見よ汚穢水の中へ金魚でも鮒でも入れて置て御覽なされ段々よ

四

わつて終には死でしまいますそコレハどふいふわけじやといふに水がくされると自
然其中へ少な虫がわきこれが金魚につきます故に其爲に死で仕舞ので御ざりますシヤニ
よつて人間も悪い空氣の中に毎日居れば終に病を引受ますなぜなれば悪い空氣の中
には自然一種の菌草が出來てこれが人間の口から這入れば忽ち腸胃につゐて病を發
し吐き瀉しをしますこれコレラ病なりよつて前にも申た通り雪隱下水掃溜等の常に
悪い臭氣のする所へは臭氣止を撒布て空氣を清浄にするが第一で御ざりますなんと
諸君御合點が參りましたかネ
○入湯又行水は度々つかふが宜しう御ざりますが濡た身体を能い心持じやと風に吹せ
るは誠に悪う御ざりますから湯より出たらば直に能く身体を拭ひて衣服をめしませ又
聘涼晝涼は常でさへ宜しくないと申ます故此節は猶おさらぬが専一で御ざります
○大酒は甚より悪くります別て此節は傳染病の流行時節故五合のむ御方は三合に三
合の御方は一合になさいまし又弦合は御愼なされ(酒店又妓樓の御主人にはチト)

五

萬々一突然腹が少しも痛まずして水瀉り又嘔吐たらバ直に胃部へ芥子の粉へうどん
粉を交ぜ之を水にて解き紙かのべてはり置き又芥子を入れたる湯へ腰より下を入れ
て能く暖め置き直に醫師を呼ぶといふうえや油断して居て一度が二度と嘔吐下痢し
終に米泔汁の様なものが下痢りだしたらモウ叶ひませんぞ

明治十二年七月廿一日御届

小石川區
礫川水道町三十九番地
編輯並出板人　橋爪貫一

同區醫
閲　新村淳庵
石井修軒

並製名札　百枚　金五錢
見習判　一箇　金一錢
但肉入附　金二錢五釐
何れも御好次第差上可申候間
澤山御用向奉願上候

官許
虎列剌豫防
懷中藥
東京本町壹丁目
資生堂
定價三錢

用法
一 此薬を用るには紙包のまゝ布に包み袋に而掛べし又他出する節ハ必懐中して度々嗅をよしとす
一 人力車に流行病あるときハ必この薬を箪笥の間に入置べし
一 此薬を家の中間毎に釣置ときハ病毒を防ぐ故に厠にもこれを釣置べし

當月殘日之乳代金者来月ニ相𢌞シ可申候代金印持参ニ非サレハ渡ス可ラス

[illegible]	一日	四日	七日	十日	十三日	十六日	十九日	廿二日	廿五日	廿八日	
[illegible]	二日	五日	八日	十一日	十四日	十七日	二十日	廿三日	廿六日	廿九日	
[illegible]	三日	六日	九日	十二日	十五日	十八日	廿一日	廿四日	廿七日	三十日	卅一日

一　總計　[illegible]

代金　六拾六銭

右乳代金正ニ

六月三十日

麹町區飯田町五丁目三十番地

長養軒

田中様

官許 JAPANESE BITTER.

ビットル

本家　東京麻布網代町

定價　小一瓶　金八銭　中一瓶　金十五銭　大一瓶　金廿五銭

松田藤吉謹製

○此ビットルハ近來専ら西洋諸國ヌ行るゝ藥方にして岸田吟香先生より本家松田氏へ直傳の名方ヌて日本國中たゞ松田氏一家の外ヌハ決して類なき妙藥なり是まで世間ヌ有ふれたる賣藥の如く香氣を付け金箔を粧ひて俗人を欺く者の類ヌハ決して是なく實ヌ救世の良劑ヌ付き江湖の諸君服用して功能の著明なるを知り玉ふべし

○第一胃のはたらきを能し膽液の不足を補ひ食物のこなれを能し身体を健ヶヌして音聲を美し心氣を快爽とするの功能あり

○溜飲ヌよし○氣のふさぐヌよし○胸のつかへヌよし○覺のとるきによし○疝氣せんしやく寸白ヌよし○血の道ヌよし○聲の枯たるヌよし○物ヌ飽きやすきヌよし

○身体柔弱ヌして魂氣うすき人またハ病後産後などの肥立かねたる者か或ハ差したる病苦ハ無けれども飲食ヌ味なく手足力なく面色青く口唇白く眼目はつきりとせざる者又ハ婦人經行定まらず折〻目まひ立ぐらみ杯する症ヌ用ひて大ヌ功あり

○西洋料理またハ肉食をする人ハ必らず食事の間ヌ是を飲むべし此ビットルハ能く水中の虫害を除き水毒の患を防ぐ故ヌ旅行ヌハ必らず是を携ふべし

○暑中またハ酒後その外いつヌても水氷杯を飲む時ハ僅ヶ五六滴ほどもさして飲めバ能く水中の毒を解し胸間を爽快ヌして諸の邪氣を拂ふべし

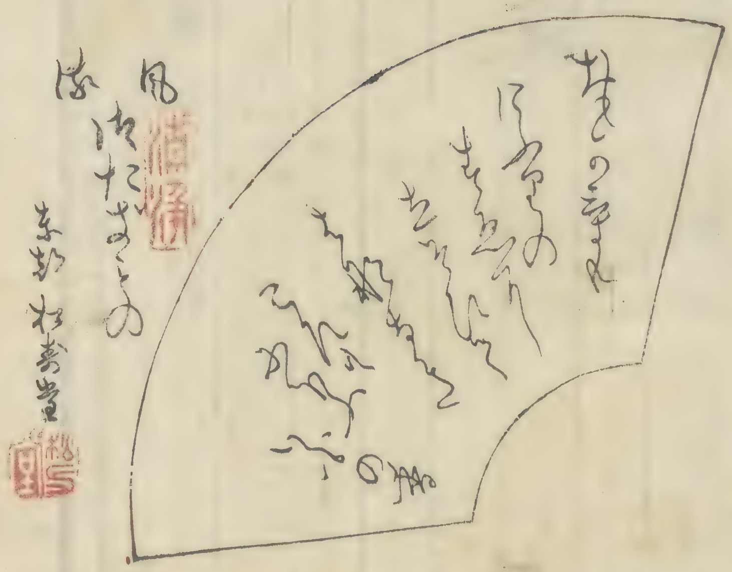
但し用ひ方ハ包紙ヌ委し

右ビットルハ實に有効良善の奇藥なるを以て此度私ヶたにて取次賣弘め仕り候間よろしく御用ひ下されたく候ろみの上廣く御風聽の程奉願上候なり

大取次賣弘所

筑後久留米通町一丁目十壱番地

中島屋　山本次八



THE GLASS MENDINS.

英國發明
ガラス早接の
水硝子

粉末附
小瓶　金六錢
中瓶　金十三錢
大瓶　金廿錢
大〻瓶　金廿六錢

夫ガラス器の世に行るゝや其便利なるが故ニランプ窓板及び諸器物に至るまで貴となく賤となく四方諸彦の用ゆる所となれり然れども毀損せるゆ如何なる重寶の珍器と雖も畫餠ニも倚劣れり惜むべき事ならずや爰に吾輩從來眼鏡其他ガラス器品を扱ふ商業たるを以て年久しく慨歎少からざりしより是までガラス接ぎの能力ある藥種といへば落もなくためし見しも其よろしきものニ會ざりき然るニ今や英國新發明のガラス早接き水ガラスを得たり因て數回試驗を經るニ始めて眞のよろしきを得其堅牢新品ニ異ならず之れ吾輩のみか邦國幸福の一部分なるを信ず故ニ今回廣賣を開き其棄損物を再び興し聊か世の裨益ニ供せんと欲を冀くハ陸續購求御試驗あらん事を乞ふ

用　法

○ギヤマン器一切及びガラス板等毀損したらハ兩個の損し口へ此水ガラスを筆の先ニてぬり付手ばやく接ぎて一二時間ましてて乾くニ隨ひ堅く接合なり又其品の厚きものは水氣多く含む故に其接目の乾く時間も隨て增すなり御注意あるべし

○ランプホヤ同油壺又ハ酒入壜ガラス板火氣近く用ゆるものまでもギヤマン類ハ都て粉末を混和るにおよばず水ガラスばかりにて接べし

○鐵瓶土瓶のもりを止めるハ粉末を少しまぜて竹べら樣のものにてよくくねりまぜぬりつけ乾かすべし

○コップ其他湯水ニ用ゆる器物も此水ガラスにて接て要を爲すと雖ども其湯水を永く貯ふ器物ニハ用ゆるを得すこれ湯水の爲ニ能力ゆるむ性質なればなり

○ガラスへ金銀の箔を置繪あるひハ印章の文字を書せんとする時ハ水ガラスへ水を少しまぜて書くべし繪の具を入るもよく交なり

○ギヤマン板へ寫眞繪などをさしこまんとする時ハ水ガラスを刷毛にてギヤマン板へむき繪を挾みあわせべし

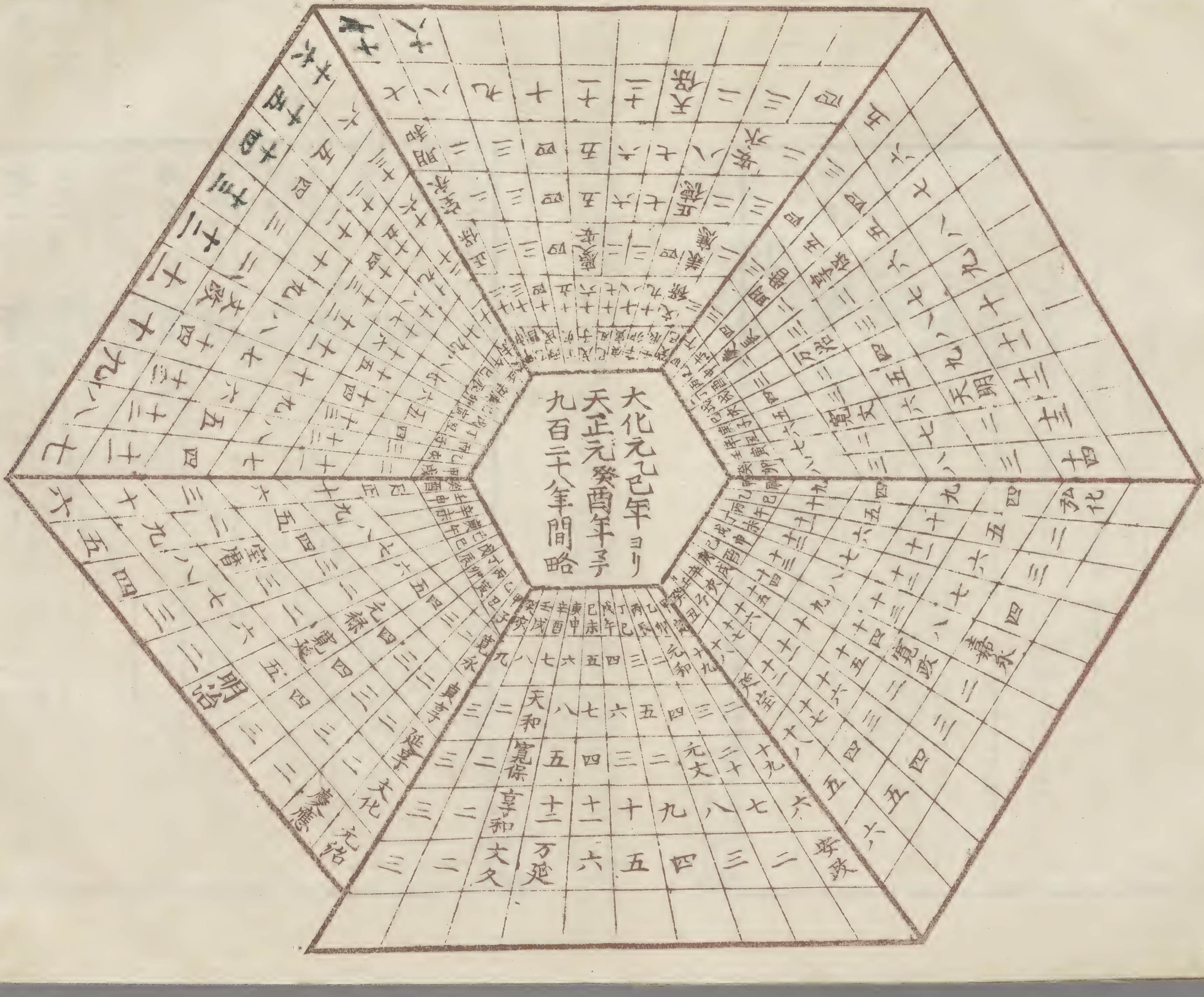
○眼鏡玉二枚あわせ又双眼鏡近眼鏡老眼鏡のあハせ玉を爲すも前條とおなし右の外種々奇妙の効ありと雖も端紙ニ盡しがたしさりながら何品にても接くを得べし用ひて御試驗あらん事を希ふ

附言　此水ガラスハ早接きの能力あるゆへを以て空氣ニあたる時ハ堅まり易し因て瓶のせんを暫時も取置べからず火氣ちかき所ニ置べからず共口の瓶ニ入れ置へからず又コロップ口まても乾きつきて取かねる時ハ水ニ浸し置てしばらくのちニ取るへし又水ニ暫く浸してゆるみを生ずる性質なれバ湯水ニ用ゆる器物を接て妨けなきも永く貯ふ器品ニ用ゆるを要せず然し油酒の類にハさまたげなし又水ガラスニ用ひし筆刷毛等ハそやく水にて洗ふへし又器物を接ぎて接目へ水ガラスはみ出しならハはやく拭ひ取べし尤此水ガラスハ透明の質ゆへそこ出せしも見にくき事ハあらざるも拭ひとるを猶よしとす

眼鏡ランプ
ボンプ商　水硝子發賣元
東京通油町十五番地
加賀屋　山岸吉郎兵衛

ランプホヤのわれ何にても火に近く用ゆる品ハ皆さいなを水びんごろによねりまぜて用ゆへしぢきにつく事妙なり
ほやつぎの粉
東京　山岸氏

御表紙 板木師
東京京橋區銀座壹丁目三番地
服部長七


大化元乙巳年ヨリ
天正元癸酉年マデ
九百二十八年間略

新年祥賀

梅尾實物繪巻圖

上海航郵船發着表

船名	東京丸	西京丸	廣島丸	名護屋丸
自横濱	到神戸	到下ノ關	到長崎	到上海
等部	上等 下等	上等 下等	上等 下等	上等 下等
當分運賃	金拾五圓 金五圓	金二十三圓 金八圓	金三拾圓 金拾圓	金四拾五圓 金拾五圓
物貨運賃	壹噸 貳弗半	同 三弗	同 四弗	同 五弗

横濱出				横濱入			
一月二日	四月三日	七月三日	十月三日	一月三日	四月四日	七月四日	十月四日
同九日	同十日	同十日	同十日	同十日	同十一日	同十一日	同十一日
同十六日	同十七日	同十七日	同十七日	同十七日	同十八日	同十八日	同十八日
同廿三日	同廿四日	同廿四日	同廿四日	同廿四日	同廿五日	同廿五日	同廿五日
同三十日	五月一日	同卅一日	同卅一日	同卅一日	五月二日	八月一日	十一月一日
二月六日	同八日	八月七日	十一月七日	二月七日	同九日	同八日	同八日
同十三日	同十五日	同十四日	同十四日	同十四日	同十六日	同十五日	同十五日
同二十日	同廿二日	同廿一日	同廿一日	同廿一日	同廿三日	同廿二日	同廿二日
同廿七日	同廿九日	同廿八日	同廿八日	同廿八日	同三十日	同廿九日	同廿九日
三月六日	六月五日	九月五日	十二月五日	三月七日	六月六日	九月六日	十二月六日
同十三日	同十二日	同十二日	同十二日	同十四日	同十三日	同十三日	同十三日
同二十日	同十九日	同十九日	同十九日	同廿一日	同二十日	同二十日	同二十日
同廿七日	同廿六日	同廿六日	同廿六日	同廿八日	同廿七日	同廿七日	同廿九日

横濱ヨリ定日午後四時開帆乘込午後三時限神戸下ノ關長崎ヲ經テ上海ヱ向○小兒壹歳未滿ハ無賃五歳未滿ハ定價四分之一十二歳未滿ハ半價之割○上等往復切手ハ壹割減ジ之事

荷爲替諸運送荷物賣買等ハ着之上御辨利宜キ様御周旋可仕候事

運賃積荷物ハ出帆前々日正午御手荷物ハ前日午後一時迄ニ御差出シ可被下候也

大坂神戸尾勢三陸函館ヱ向臨時出帆歐米諸州ヱ毎月二度宛横濱ヨリ出帆可仕候急御用之砌ハ郵便端書ヲ以テ御報知被下候得者直ニ壹人御伺可申上候出帆前日御用伺トシテ壹人宛相廻シ可申候間澤山御用向之程偏ニ奉希上候也

内外濵船問屋

吉　本店　横濱境町十九番地　糸屋彌三郎

仙　支店　東京馬喰町火ノ見下諸國旅人宿　長崎屋仙吉

吉　支店　同濱町貳丁目壹番地河岸　糸屋市造

小野職愨撰
村山徳淳校
最上孝吉畫

毒品便覧

第一集

明治十一年九月

小野氏藏版

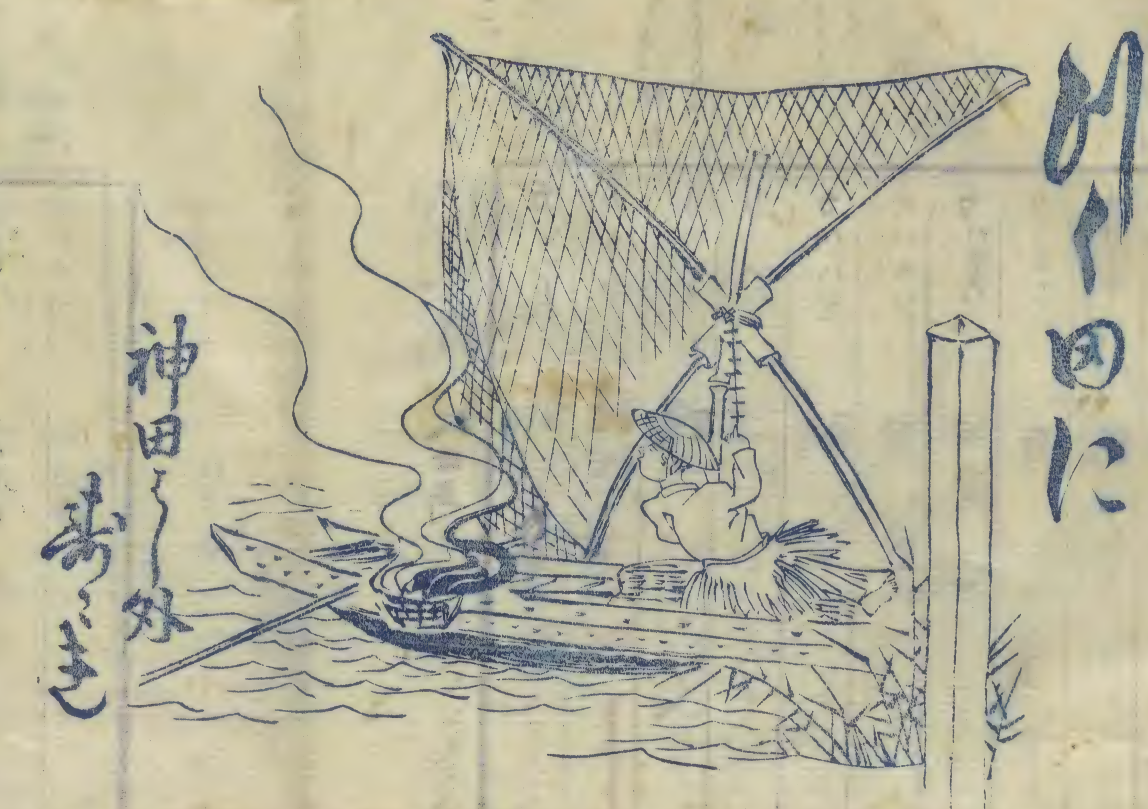
書留郵便物請取證

書状	新聞紙	書籍類	見本類
壹通	箇	箇	箇

改第二五七〇號

請取人

差出人 田中芳男



（東京繪入新聞 第千二百六十號 附錄 物價）

○八月二十三日現米限月米商況東京米ハ昨日と氣配
反對し本日ハ買人酷く進まず殆ど薄商ひ尤も限先き
品堪なき故か賣出し賣物見えざるに因り直合ハ敢て變
らざれど自然落付模樣限月米ハ昨引後偶然大手筋賣
入強く買進み其鼻へ賣競ひたれど底意あしからず
引取同夜大阪電報意外下落の聞えれ今朝寄附より頻り
ま賣聲多く漸次下た直へ運へり折から大手強氣筋にて
て買とめ須臾く持合の氣色見えしが續て大坂安直の
移り新手賣注文又ハ投退き等よて散々氣崩れ又少し
く氣直りたれど到底引立あしく引取なり

○同日兜町現米出來物（知多大俵米一斗一升一合
（備前米一斗一升三合）越後米一斗一升同米一
一斗一升七合（新川米一斗一升九合）栗原精撰米一
斗二升新川米一斗二升一合盤城米一斗二升四合

○同日兜町米商會所　八月限前場出來不申本場八圓
三十三錢ゟ火繩三錢大引平均直段八圓三十三錢二番
出來不申　九月限前場出來不申本場七圓九十五錢ゟ
三錢四錢五錢六錢五錢六錢八錢火繩六錢七錢大引平均直
段七圓九十五錢二番七錢七圓八錢十七錢引　十月限前場寄
附七圓四十八錢ゟ七錢八錢七錢十六錢七錢六錢五錢六錢五錢
五六錢六錢七錢ゟ四錢七錢八錢七錢六錢七錢五錢六錢六錢
五錢四五錢四錢三錢四錢五錢四錢四錢五錢六錢五錢五錢三錢六錢四錢
錢錢四錢三錢五錢三錢五錢四錢五錢三錢四錢七錢三錢三錢四錢
四錢四錢五錢五錢六錢四錢五錢本場六錢四錢五錢六錢三錢
錢四三錢四錢五錢四錢五錢五錢六錢五錢七圓五錢十六錢
四錢火繩六錢五錢五錢六錢四錢九錢六錢大引平均直段七圓四十五錢
五錢二番七圓二錢十六錢八錢ゟ九錢八錢九錢九錢三錢十二錢二十九錢
錢八錢九錢三十錢二十錢九錢八錢九錢九錢三十錢二十九錢
引午後三時三十分七圓三十二錢午後四時三十分七圓
三十二三錢

○同日蠣殼町米商會所　八月期八圓三十六錢ゟ火繩
六錢大引平均八圓三十六錢二番出來不申　九月期七
圓九十九錢ゟ七錢九錢八錢八錢火繩九錢八錢九錢引錢九錢
錢七十八錢七圓九十八錢八錢七圓九錢八錢十八錢八錢十
期七七錢圓三十八錢七錢八錢八錢七錢七錢六錢十六錢七錢六錢
七錢六錢大引平均七圓三十六錢七錢六錢三錢七錢今朝十月期寄附
七錢圓四十七錢ゟ六錢七錢六錢七錢四錢八錢七錢三錢七錢二錢六錢
六一錢圓五錢十六錢七錢六錢五錢七錢八錢四錢三錢五錢二錢五錢
錢五二錢二十錢四錢五錢三錢四錢七錢三錢四錢四錢五錢六錢
三四錢七二錢二錢六錢四錢五錢五錢三錢四錢十五錢五錢四錢八錢
九錢八錢七錢七錢三錢七錢一錢一錢四錢三錢十九錢八錢
二錢午後四時三十分七圓三十三錢八錢午後三時三十分七圓三十錢

○綿金一圓ニ付　三州大入八百匁○尾州大入八百
十匁○遠州大入同

○鹽金一圓ニ付　赤穗一俵四分七厘○本齋田二俵六
厘○新齋田二俵二分七厘

○同日横濱洋銀相場　七十一匁五分

明治十二年
八月廿四日　繪入新聞兩文社

記

金弐円 十二戔八

但し酒肴代

右之通り正ニ受取申候

明治十三年十二月廿三日

東海道川崎駅ステーション通 萬清屋文助

十三年二月十一日

郵便五厘端書弐百枚

稟告

佐藤椿園翁追祭會

二月六日午後一時不論晴雨

明治十四年

淺草門跡前高原町十六番地松應寺ニ於テ庶羞ノ奠ヲ布ク

農産ヲ殖シ國益ヲ謀ルノ諸君來會シ蘊底ヲ叩テ談説アランコヲ企圖ス凡ソ農務實用ニ參考スヘキ意見書等ヲ切磨シ以テ將來交誼ヲ厚クスレハ共實益ヲ得ルノ果シテ幾何ゾヤ是即ヲ翁ノ神靈ヲ慰ムル所ニシテ此祭會ノ本意ナリ

但席上揮毫隨意

廣告

弊社儀今回新橋鉄道路客の便益を計り其筋の許可を受新橋（ステーシヨン）構内に於て人力車乗客取扱所を設け府下一般の里程を分別し之れに適當の車賃を定め左の乗車切符を製し同所室内に於て發賣し且つ車夫の如きは當社の印として各車に番號を附し印半纏提灯を用ひ惣て不都合無之樣一層注意致し本月廿五日より同所に於て開業致し候間陸續御乗車あらんとを乞ふ尤數多の車夫中若し心得違にて途中に於て異論を起し或は酒手等を促す者有之候節は社則に照し夫々處分方有之候間該車番號御見認めの上其旨郵便税先拂にて本社へ御報知被下度且又若車中へ遺失品被成候節は取調の爲め何日何時何方へ乗車の節何品遺失候旨是又該車番號記載御申越有之度此段廣告仕候也

明治十三年八月

東京新橋車夫會社

人力車乗車切符

車夫會社

何區何町迄

定價 壹人乗 幾錢 / 貳人乗 幾錢

此切符に記載する町名内は假數丁あるとも乗客の勝手たる處へ到車する事を得べし○此切符は到車の上車夫へ御渡可被下候也○此切符若紛失被成候時は原符に記載せる車賃更に其車夫へ御渡可被下候也

東京銀座壹丁目樂善堂印刷局刊行

有馬名産 花山 吟製

官許 監製

消毒丸

官許 消毒丸 大包十三粒入 定價拾錢 小包 六粒入 定價五錢

此藥ハ吾家ニ年久しく傳はり来れる方にして往時藩治乃時封内ニ施與せし事ハ衆庶も共ニ知る所なり這回改めて官許を受け廣く四方ニ發賣して以て救急濟世の一助たらしむ此藥を常ニ懐にすれバ窮郷僻地ニ住む人行路航海の客なりと假令ハ急遽ニ疾を得るとも速ニ全治を得て手を束ねて其苦みを受ることなかるへし實ニ暫時も缺くべからざる良藥なり然れども大患篤疾日を延き容易く治しがたきものハ良醫をもとめて依頼をへし此一丸藥の槩治を所にあらさるへし

功能

第一中暑霍乱傷食眩暈宿酲等にて吐瀉を發るもの其外疳積癪小児癇疾の類総して胃腸の不和なるに驗しあり

用法

大人ハ壹度に壹粒より乃至貳粒或ハ三粒小児ハ四半粒より乃至半粒まて白湯にて送下すへし

明治十年八月

東京濱町二丁目

久松氏蔵方

過光旧候蓄積の書籍を求めて遍く諸先生の一覧を請ひて大方の恩顧を蒙るところ謝しまつる今や何事も家ニ牛ニ行き行くも擁せれし史冊を購ひ徳目の照臨を厚くしたまひて覧ニ供を 皇漢新旧の書籍西洋翻訳書それら古法帖までも増加し精く其價を低くして以て此にして附を仰冀くハ四方の君子有用の書を多ニ求めたまハんことを敬白

明治己年 立春

書肆 忠雅堂 松雲堂

右ハ来る二月五日より左之所ニて展観仕候

大阪心斎橋南久宝寺町北へ入西側

書籍集會所

十四年二月九日 大阪 鹿田静七方ニ而求

大阪 福田善兵衛

明治十一年送達紙

報	第 [illegible] 號	發局 [illegible] 分局 [illegible] 月 [illegible] 日 [illegible] 時 [illegible] 分
字數 [illegible] 字	第 [illegible] 號	着局 本郷電信分局 [illegible] 月 [illegible] 日
技術 [illegible]		

スベテ電信ヲ頼ミ出ルモノハ通信規則ノ通リ心得ベキ事

届 トミムライ ヨコガワマチノ イニガワコウモ ニテウナ クハンカ リナカヨシ

出 リケ シヨウジ

コンニチゴゴヨジヨコ
ハマチヤクミヨウア
サヒチジマヘワタク
エデニス

廣告

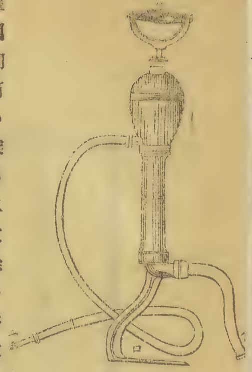
本社去年西南ノ役ニ際シ報國恤兵ノ主義ニ基キ創業以來有志諸君ノ協援ニヨリ社員及醫員ヲ該地ニ派遣シテ負傷救護ノ事ヲ行ハシム然レ圧纔ニ其様ヲ畫クニ過ギスシテ未ダ大ニ其主義ヲ貫到スル能ハズ是事ノ草創ニ係ルニ因ルト雖圧猶今日ニ憾トスル所ナリ西南ノ役既ニ畢レリ本社ノ務モ亦倶ニ其跡ヲ收ムベキカ曰ク否報國恤兵ノ主義ハ特ニ西南ノ役ト與ニ進止スベキ者ニ非ズシテ國脉ト共ニ連綿絶エザルベキ者ナリ傷痍ヲ點撿シ藥石ヲ投與スルガ如キ其事與レバ則之ヲ行ヒ其事休スレバ則之ヲ止ム固ヨリ當ニ然ルベシト雖圧其事ノ與ルニ方リテ之ヲ行ハントスレバ預メ其事ヲ講究シテ其用ヲ準備セザルベカラズ人或ハ云ハン凶事ヲ預メスル是不祥ナリト其然リ豈其然ランヤ人聚テ國ヲ成ス國必ズ守備ナカルベカラズ守備ノ要ハ兵ニ在リ是海陸軍ノ平時ニ止ムベカラザル所以ナリ豈不祥ト謂テ之ヲ撤スルヲ待ンヤ備ヘテ用ヒザル國家ノ幸福之ヨリ大ナルハ莫シ果シテ止ムベカラズンバ報國恤兵ノ主義亦決シテ廢スベカラズ之ヲ永遠ニ保持スルヤ其務二アリ戰時ト平時ト是ナリ戰時ノ務ハ傷者ヲ救療スルニアリ平時ノ務ハ其救療ノ準備ヲ爲スニ在リ方今海陸軍ノ配置ヲ按スルニ陸軍ニ一近衛六鎮臺アリ海軍ニ東西鎮守府アリ其兵數多寡同シカラズト雖圧今試ニ一兵團ニ就テ本社ノ救護ニ任ズル者之ヲ百名トシ合シテ之ヲ算スル圧ハ其數一千ニ及ントス抑本社ノ主旨ハ多々益辨千百猶之ヲ多トセズ然レ圧今遽ニ之ヲ期スベカラズ姑ク海陸軍醫ノ補助ニ充ツルヲ以テ自ラ任セントス故ニ目下其數ヲ限抑ス敢テ盛大ヲ欲セザルニ非ザルナリ今其數ニ因テ所要ノ費額ハ郎チ計算書ノ如ク金十一万四千圓余ナリ而シテ本社設立以來有志ノ寄贈スル所ノ金圓物件ハ大抵之ヲ去年ノ役ニ消費スト雖圧其殘額金五千四百圓余アリ之ヲ其要スル所ノ數ニ比スレバ僅ニ貳拾分ノ壹ニ過ズ嗚呼慘澹タル妖雲ハ之ヲ望ムヲ希ハズ而シテ其之ナキヲ保ツベカラズ仍テ去年創定スル所ノ本社規則ヲ更ニ議定シテ以テ永設ノモノトシ救療ノ預備ニ從事ス請フ四方有志ノ諸君本社ノ主旨ヲ領シ協同シテ以テ報國恤兵ノ義擧ヲ贊助アランコヲ

明治十一年十月

博愛社

明治十二年三月三日

佛國博覧會事務局



灌園喞筒ハ深さ二丈餘の井水を吸揚くべし且園庭ま水を灌き或ハ防火ホ用ゆるも一人ホて扱ひ得べければ大に便利あり其扱方ハ先づ(イ)を水中ホ投ト(ロ)を足ホて確と踏附け爾後(ハ)と手ホ握り上下すれバ水ハ(ニ)より噴出[illegible]

蒸瀛罐廣告

昨年來當局内ニ於テ蒸氣罐ノ製作場ヲ開キ即今ニ至リ諸器械全ク整頓セリ已ニ海陸各種ノ罐ヲ製シ最モ上等ノ鐵板其他必用ノ鋲具幷附屬品マテ十分ニ貯蓄アリ故ニ各種ノ罐類堅牢ヲ專ラトシ且ツ日限價格ヲ確定シテ引受製造スルヲ[illegible]依テ江湖氣罐ヲ望ム者ハ直ニ來局アレ望ニ應シテ製造スベシ

赤羽　工作分局

九號
山田原ヨリ
ハシモトマサヒト
[illegible]

明治十二年送達紙

技術	着局				發局						スベテ電信ヲ頼ミ出ルモノハ通信規則ノ通リ心得ベキ事
[illegible]	[illegible]	一月二日	古九分局	第十二號	字數二十[illegible]字	午后[illegible]時分	一月一日	山田原分局	第九號	[illegible]報	

届：イトウケイ　イマガヨウジ　カバンヤ　タナカヨシレラ、

出：ヨダウラヨリ　ハシモト　マサヒト

トウニ中カ、ルゴ、ヨシコヒアタク、ゴ、イヅル

榛名神社御祈禱御

榛名二柱大神守給處

官許

本家 ビットル JAPANESE BITTER. 東京

定價 小瓶金八錢 中瓶金十五錢 大瓶金廿五錢

松田藤吉謹製

廣告

岸田吟香述

此ビットルハ専ラ泰西諸國ニ行ルヽ所ノ良劑ニシテ予コレヲ經驗スルヿ既ニ久シク是ヲ求ル者モ亦少カラズ然レモ予ガ家法ノ精錡水及ビ三藥ハ各府縣ヨリ注文ヲ受ルヿ日々ニ繁多ニシテ未ダ此良劑ヲ發賣スルニ遑アラズ空シク年月ヲ送リシガ幸ヒニ此タビ松田氏ノ乞ヒニ應ジテ此藥方ヲ傳授シ遍ク天下ニ賣弘ムルヿヲ得ルニ至レリ抑モ世ノ賣藥ヲ見ルニ金銀ヲ粧ヒ誇辭ヲ藉ラシテ以テ俗眼ヲ眩惑スルモノ十ノ八九ニシテ其實ハ功モ無ク亦害モ無キニ過ギザルノミ此ビットルノ如キハ固ヨリ然ラズ眞ニ有功無害ノ良藥ナレバ必ラズ以テ國家ヲ稗益スル所アラン上ハ江湖ノ諸君幸ニ予ガ家法ノ製藥ト同シク服用シテ其效驗ヲ試ミ玉ヘト謹テ白ス

○

前文ニ述ラレタル如ク此ビットルハ實ニ救世ノ良藥ニ付キ此タビ大政府ノ許可ヲ得テ普ク之ヲ天下ニ頒賣ス是敢テ一己ノ利潤ヲ謀ラントスルニ非ス聊カ以テ世人ノ幸福ヲ補フ所アランヿヲ冀フ而已

松田藤吉謹白

功能

○第一胃のはたらきを能し膽液の不足を補ひ食物のこなれを能し一身体を健かにして音聲を美くし心氣を快爽とするの功能あり

○溜飲によし○氣のふさぐによし○胸のつかへによし○覺のわろきによし○疝氣せんしやく寸白によし○血の道によし○聲の枯たるによし○物に飽やすきによし

○身体柔弱にして魂氣うせたる人または病後産後などの肥立かねたる者か或ハ差したる病苦ハ無けれども飲食に味なく手足力なく面色青く口唇白く眼目はつきりとせざる者又ハ婦人經行定まらず折〳〵目まひ立ぐらみ杯をこる症に用ひて大に功あり

○西洋料理または肉食をする人ハ必らず食事の間に是を飲むべし此ビツトルハ能く水中の虫害を除き水毒の患を防ぐ故に旅行にハ必らず是を携ふべし

○用ひ方ハ凡そ五勺ほどの水に此ビツトル十五滴より二十滴ほど注して飲むべし一日に二度か三度も用ゆるを妙とす

○暑中またハ酒後その外いつにても水を飲む時ハ凡そ湯碗一盃の水に五六滴より十滴ばかりも注して飲むべし少し砂糖を入れて飲むもよし

○各府縣下とも取次所あまた御座候間御求め下さるべく候若し請賣御望みの御方ハ御申越し次第御相談可申上候

本舗 東京麻布網代町改正一番地 アルコール製造所 松田藤吉再拜

支店 大坂今橋二丁目 齋藤彦三郎

支店 肥前長崎本博多町 朝日研太

支店 肥後熊本新三丁目 山田善十郎

大元賣弘所

精錡水本舗 東京銀座 岸田吟香

寶丹本舗 東京池ノ端 守田治兵衛

明治水元販賣所 東京本町 圓城半右衛門

寶丹水發賣本舗 東京村松町 岩浪長藏

大坂

正

萬庖丁類

吉田吉七源正吉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大阪

正

現金
掛直無

諸金物 [illegible]

萬庖丁類

正札附

[illegible]

吉田喜七
源正吉

[illegible]

功能

○第一胃のはたらきを能し膽液の不足を補ひ食物のこなれを能し身体を健かにして音聲を美し心氣を快爽とさせるの功能あり

○溜飲によし○氣のふさぐによし○胸のつかへによし○覺のわるきによし○疝氣せんしやく寸白によし○血の道によし○聲の枯たるによし○物に飽きやすきによし

○身体柔弱にして魂氣うせき人または病後産後などの肥立かねたる者か或は差したる病苦は無けれども飲食に味なく手足力なく面色青く口唇白く眼目はつきりとせざる者又は婦人經行定まらざ折々目まひ立ぐらみ杯をする症に用ひて大に功あり

○西洋料理または肉食をするには必らず食事の間に是を飲むべし此ビットルは能く水中の虫害を除き水毒の患を防ぐ故に旅行には必らず是を携ふべし

○用ひ方は凡そ五勺ほどの水に此ビットル十五滴より二十滴ほど注して飲むべし一日に二度か三度も用ゆるを妙とす

○暑中または酒後その外いつにても水を飲む時は凡そ湯碗一盃の水に五六滴より十滴ばかりも注して飲むべし少し砂糖を入れて飲むもよし

○各府縣下とも取次所あまた御座候間御求め下さるべく候若し諸賣御望みの御方は御申越し次第御相談可申上候

本舗 東京麻布網代町改正一番地 アルコール製造所 松田藤吉再拝

支店 大坂今橋二丁目 齋藤彦三郎

支店 肥前長崎本博多町 朝日研太

支店 肥後熊本新三丁目 山田善十郎

精錡水本舗 大元賣弘所 東京銀座 岸田吟香

寶丹本舗 東京池ノ端 守田治兵衛

明治水元販賣所 東京本町 圓城半右衛門

寶丹水發賣本舗 東京村松町 岩浪長藏

R. MANKIKEN.
DEALER
IN
AWATA EARTHEN-WARE.

THE CORNAR OF SOUTH-EAST
IN
SANJIO SIRAKAWABASI.
KIOTO:

大日本京都三條白川橋東詰辰巳角
陶器元竈 賣捌所 萬貴軒里清

大阪中之嶋湊橋町
船津橋南詰萬歳舎
御用飴拵所
本家根元製法釜本
波多野丹波藤原久保製

和漢聖醫造法以家傳術烹煉
浪華名製
萬歳飴
丈婦老幼常用經驗萬能靈飴

MINERAL WATER
Containing
Carbonic acid
(Selter water)

山城
炭酸泉
明治五年二月撿出
京都舎密局實試

山城炭酸泉効用辨

此泉ハ山城相楽郡村ニ在り稲葉と称する巖間の裂罅より常ニ滃々として湧出す。之を嘗れバ甘酸にして鹹く口中ニ爽快を覚ふ。明治五年二月泉源を探り泉中ニ含有する物質を化学ニて撿按するに炭酸氣飽和の水ニして其中ニ塩鐵等を含む鑛泉なり。西洋ニ所謂セルテル泉の炭酸ニ充つ。古史ニ載る鹽泉の類なり。飲料薬用ニ供して有益の泉水なる事を發明せり。因て之を汲て罎子ニ固封し普く弘布し更ニ西醫経験の効能書を附し泉性を志て彰明ならしむ。

○此泉飲食消化機泌尿機並ニ呼吸神経系ニ奏効あり。其味愛すべく辛刺し程よき酸味あり。之を飲バ爽快清涼ニして尤も愉快なり。睡眠を催し神心を安せしむ。此泉殊ニ用ゆる病(一)腸胃の病 胃疼胃痛胃弱飲食不化留飲渇病嘈雑大便不利経久吐悪心胸串眩暈ニ宜し。又脳腹を利し腸胃の運営を進め飲食を克し壮神の効あり(二)胸肺の病 咳嗽多く不止喘息積聚痰病痛症ニ宜し。能く事を緩め神氣を鎮む(三)結石病癖疾肝労黄疸黄胖水腫ニ宜し(四)慢性小腹攣寒時疾腸胃病伊源篤傳麻質私等ニ効あり。以上の諸病ニ毎日五勺乃至二十五勺を数回ニ分ち服す。単味ニて用ひ或ハ葡萄酒又は白糖を和し服す。一回ニ多量を用ゆれバ悪心嘔吐を催すことあり(五)経久潰瘍慢性眼炎衝瀉渇聾聵耳聾麻痺症陰痿痛風黴毒経久神経病子宮帯下ニ之を外用して注射薬とし或は蒸氣浴と為すべし。

○右挙る所の諸病ニ用て良効を奏する実験する処なり。此泉氣中ニ放置すれバ速ニ炭酸氣游離散せんとす。故ニ罎塞を除すれバ功を脱失す。罎は緊塞を新ニ開くものを以て用ゆるを要すべし。

明治十一年五月改正

京都舎密所譯述

淡路

名産

うきはし

花にうかるゝ春の朝を月に嘯く秋の夕を欠べからざるハ茶と酒なり酒にして下物無く茶にして菓子無ければ玉の盃底無きが如くなれんあるに御食向我淡路の國もろを魂幸ふ神代のむかし久方の天の浮橋行渡り陰陽二神のいち早く造り給ひし可美國うまき昔乃故事を思ひ起して玉鉾の其先山の椎子を拾ひ香果と名に響く鳴門柑を八百重潮ころころにこきなして造化の二字に由縁ある萬化樓の主人か修成ある該漬物よ其製方清潔にしてこんな珍味が唐土にもとハぞんや往昔の譽詞今開明の時津風靡參來る五大州其の各國へ傳搬し假令幾百幾千ゝ乃日數ふるとも味ひハ猶新たなる精製なり風月社會ハ更にも云もぞ公務に孜々たる勉強家を提皮箱の底に貯て食卓上の御菜廻りまは或ハ燕居の徒然に黄なるも御酒の肴核に充て白きハ煎茶に附屬なて用ひ給もぐ自ら消化機關も健に精神發達不覊獨立自由の心を擴張し舊に沈む人心も開化世界の浮橋の雲の通路さへ間なく鉾の滴彌廣く四方の愛顧を賜れば主人の幸甚何事かこれに如んや其由を拙き筆をて述ぶ者ハ其浮橋に因ある自凝舍の主人國野眞柱

淡路國洲本巖島前

本家　萬化樓精製

玉露製茶拾遺記

抑モ玉露製茶ノ由来ヲ尋ヌルニ山城國久世郡小倉村之人
村田作兵衛長男万治郎九才ニ而京都[illegible]通
[illegible]北攀堂水谷友之助製茶業店ヘ奉公ニ同年
九月[illegible]
[illegible]
[illegible]
山城國久世郡小倉村[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
今其大略を記するものなり也

昭和十二年

六月

根元玉露翁　二代　廣野文衛門記

文 正真宇治御茶銘目録 玉露軒

御濃茶 半斤袋 目方十匁入

初昔	価	金三十銭
後昔	〃	金廿銭
大税白	〃	金拾八銭

御薄茶 目方弐拾目 壱斤ニ付

別儀揃	価	金壱円
上極揃	〃	金壱円廿五銭
上出儀	〃	金壱円五十銭
廣葉	〃	金弐円
極昔	〃	金弐円廿五銭

玉露製 **御煎茶** 目方弐拾目 壱斤ニ付

相生	価	金壱円
玉露	〃	金壱円廿五銭
若葉	〃	金壱円四十銭
東雲	〃	金壱円五十銭
廣の露	〃	仝
慶賀	〃	金壱円七十五銭
善哉	〃	金弐円
若森白	〃	金弐円廿五銭
玉乳	〃	金弐円五十銭
閑雲	〃	金三円
翁	〃	金三円五十銭
宇文字	〃	金四円

御打物 目方弐拾目 壱斤ニ付

玉代	価	金五十銭
折鷹	〃	金壱円
白折	〃	金壱円五十銭
玉鷹	〃	金弐円

御煎茶 目方弐拾目 壱斤ニ付

一森	価	金四十銭
山吹	〃	金六十銭
喜撰	〃	金七十銭
正喜撰	〃	金八十銭
華橘	〃	金八十五銭
春霞	〃	仝
霜の花	〃	金九十銭
霞白	〃	仝
出世間	〃	金九十五銭
君の代	〃	仝
お茶家銘 廣野園	〃	仝 壱円
上玉露粉	価	金七十五銭
中玉露粉	〃	金五十銭
大福粉	〃	金廿五銭
喜撰粉	〃	金弐十銭

此外数品

青柳

赤粉

蕎麦粉

御茶の[illegible]御注文[illegible]

右御茶銘之儀ハ正宇治場所柄相撰製法ニ念入[illegible]御用向之程偏ニ奉希上候以上

大坂[illegible]

御茶師 廣野文平衛

口上

一本年ハ茶業之[illegible]山方[illegible]六月より[illegible]改正仕[illegible]大[illegible]再[illegible]改正仕[illegible]

明治十二年

十月一日

[illegible]

牛肉エキス　牛肉の煮汁を[illegible]　壹人 [redacted] 銭以上

牛肉佃煮　牛肉エキスと[illegible]　壹人 [redacted] 銭以上

牛肉[illegible]　牛肉[illegible]　壹人 [redacted] 銭以上

牛肉[illegible]煮　牛肉と[illegible]　壹人五銭以上

[illegible]

一 小児の[illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

滋養牛肉種製品

本舗 大阪天満[illegible]町 福井良朝製

支店 同平野町三丁目 福井金水堂

大阪 北[illegible]
萬塩魚類
北國屋源[illegible]

○條蟲ノ形ハ數多ノ片〻相連リ頭ノ方ハ甚ダ細小ニシテ糸ノ如ク此處ニ吸口ヲ有シ腸ノ裏面ニ固着ス此ヨリ絶ス新片ヲ生ノ漸〻增大ス○蟲害腹內不快ヲ覺エ精神活潑ナラズ時〻頭痛眩暈或ハ疝痛胃弱留飮等ヲ發シ飮食進ミ或ハ欲セス大便閉或下利或ハ肛門ニ搔痒ヲ覺エ小兒ニ在ツテハ全身削瘦○此虫アル時ハ後ニ至リテ重病ノ原トナル恐ル可也予多年實驗スルニ他病ニ合併ナルモノ多シ○來診ノ諸君ハ日午前八時ヨリ十一時マデニ御光車アランヿヲ

東都上京區第十七組
中長者町通新町西仲之町
內外科醫 豐田脩達

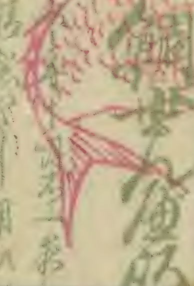
（印刷 二條商報會社）

淸火極製
一 安濃あめ
氷製 あまめ 折詰御好次第
水あめ 曲物入御好次第

右新調の飴類發明仕候ニ付第一好味ニ一層の注意を盡し其製を密にして寒暑のうれひなく遠路へ御進物等之際ハ器を輕便にして以て其價を廉にし奉調進候尤あこぎあめの如きハ御病人虛弱の御方平常に服慰給ハヽ功驗齋しと云ふ冀くハ諸君樣の御愛顧を蒙り御用被命候樣奉願候以上

紀元貳千五百三十七年
明治十年十二月開業
津地頭領町西側
廣屋多七

黒丸子
大坂道修町
小川屋喜太郎製
流く　せんき　むし
しやく　はらのいたみ　むねいたみ
おこり　やまひやう　こうりやう
きのくすり　ふうやく　はらのくすり
ときやく　むねさわぎ　小ちんきやう
小児かん　てんかん　うろかい
わとちう　こしけ　ちつき

廣告
明石
名産

ロ酒盗　ロ雲丹
北山源兵衛

墨の江名産 翠味噌 曲物入 大小数品

松魚味噌

松花 一名うろとでんぶ

おかち栗みそ

紫蘇味噌

月の瀬名産 梅味噌

其外新製の品々お好の味噌数々有之候

浪花名産 はらんしゅ

東京名産 さくら漬 角田川の桜の花をもつて製す

東京南伝馬町三丁目 川村 製

右品々手製の味噌類...

浪華 道修町 淀屋橋筋南 松川翠葉堂

浪華名産 海内無双絶品

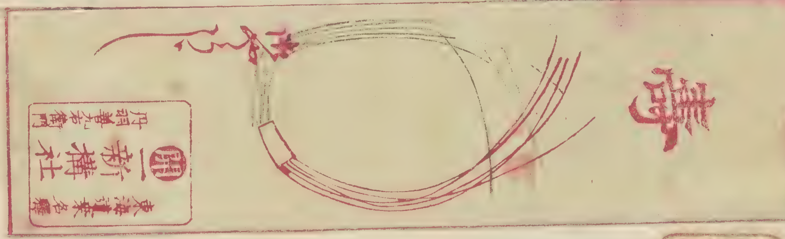
松魚味噌

大阪道修町淀屋橋筋南 松川翠葉堂

國産名石 請合上裏透

高嶋虎斑石

湖西 栄運堂



免許 牛肉エキス

一 胃病にて食物不消化衰弱の人

一 産後出血后の衰へ

一 禀賦虚弱ゆへ勤學勉勵に衰弊せし人

一 房事に耽り虚損せる人

一 職工に神魂を弊せる人

一 小兒諸虚

右様の人〻此エキスを一日に五分より壹匁迄の量を用いるれば強壮になる事無比の良品也拙者(エキス)の功能を經驗したるを左に述る

一 拙店牛乳と(牛肉ソップ)を販賣し諸家へ配達する事久し然るに牛乳を用ゆる人百人中八十人あれども(ソップ)を用ゆる人百人中二十人也(ソップ)未だ乳の如く行なわれずゆへに功驗をしる人少し拙者右二品を發賣して今日迄の久しきに及び購求し玉ふ君子の人員多き事數へがたし而て乳を用ゆる人多くして功能を稱せる人多しとせず(ソップ)は用ゆる人少くして有功を稱せる人多し是を以て考ふれども(ソップ)の功能牛乳に勝る事遙に高し實地研究是に過べからずと思意せるより諸國へ是を弘めんと欲し(ソップ)を以て(エキス)となす事功能略記に事委敷述るを以て爰に略す夫(エキス)とは(ソップ)の養ひつめたるものなれば湯にとき薄くすれば(ソップ)となる(ソップ)も牛肉の煎じ汁なれば腐敗速くして好君の住所によりては不便宜なるを以て(エキス)となす(エキス)は日數長く保ち腐敗せざる様精製を專一とするゆへに極めて肉は新鮮を撰む事嚴なれども日々配達する(ソップ)よりも(エキス)をとき(ソップ)と一等上品とす其精製至盡なるものなれば大醫先生の舘においても舎密分拆なし玉ひ良製僞りなきと御試驗成し下さらば幸甚之れに過ぎずと謹て云爾

一 湯にとき燒鹽醤油を加へ用ゆるも亦はエキスのまゝ用ゆるもよし

本舗 大坂天満天神鳥居前西樽屋町 福井良朝

支店 同 平野町三丁目中橋西へ入 福井金水堂

印刷 今橋貳丁目 大阪新報社

辨子
名産

海藤花

此浦乃名産にして往古より諸君子此ものを愛して時々これを[illegible]成業[illegible]世にかゝる[illegible]風味乃[illegible]ものとして[illegible]

○[illegible]

廣告

諸昆布御山實所

並ニ細工昆布類品

青板並切昆布[illegible]

砂糖掛保存昆布

本家 昆布製 宇治於里 並ニ挽茶掛

宇治の里と名づけし茶昆布[illegible]

明治十三年十一月

大坂心斎橋小路

昆布商 粟山善兵衛

御得意中様

領收之證

記

一封書信通

高麗橋電信分局

明治十三年二月十日

錦碕共進會社

御中

和歌山 通運會社

摂陽 水町壹丁目
御菓子所
尾張屋伊兵衛

浪花 中西製

大阪

南久宝寺町壹丁目筋角
御柄新鮮菓實所
新屋善兵衛

長崎本下町
かし菓屋作助

廣告

此御菓子ハもとはち吾邦にてハ俗に「カステイラ」と云へり然るにむかし漢土に創始まりて唐船の長崎にいとりしとき船上に逍遥たる際に之を茶媒とす支那にてハ名を鶏蛋糕と稱へ因て鶏卵を和して作成たるものなるが故へ此号けたるものなるべし當時陽崎人これを食してその味を愛し美を賞して即ち唐人に製法を索めたるもれなり然るに吾邦近時盛んにおこなハき茶用乃第一とす今弊店に精製するところ乃「カステイラ」ハ長崎製乃佳味に異なることなし四方乃諸君御買求めくへ御愛顧乃程希ひあげ候

月　日

淀屋橋すじ梶木町南入
玉林堂

東海之名産
無双之佳品
東京日本橋室町一丁目
乾海苔調進所
山本徳次郎

大阪
福田　兵衛

保全酒

定價 壹罐三拾錢　東京神田 保全堂製

此御酒ハ方今有名の諸多先生より御傳授を以て製したる健胃强壯藥よして飲食を進め氣力を增し精神を爽かよし睡眠を快くし胃弱を制し瀉を止め胃痛を鎭むるを以て食物不消化等總て急者産前産後の婦人及び病後の衰弱等よ缺可らず夏日之を用ゆれバ中暑霍亂虎列羅等を防ぎ冬月之を服すれバ血行をよくし體温を增し寒威を防ぐよ足る實に保全延年の藥酒なり

清風酪

定價 壹罐廿五錢

此品ハ牛乳よ薄茶を加へ製したる風味上好の滋養劑也

雞肉ゲレー

定價 壹瓶廿四日分 七十五錢
同 半瓶十二日分 三十七錢五厘

同ゲレー酒

同 壹瓶十二日分 六十錢
同 半瓶六日分 三十錢

東京神田 鶴岡氏製

正五位松本良順大先生の御傳授を以て西洋の方法よ從ひ精製したる滋養劑なり抑ゲレーハ動物養分の本源よして就中雞肉中よある物最も純良なるを以て壯健病弱の別なく之を用れバ體力補益の最上藥よして能く百損を快復し精力を增補する奇効あり故よ男女老少を不問身体虚弱の人婦人懷妊して流産の癖ある者黴毒よて痩體弱く諸藥効なき者之を用ひて大効あり又諸學生之を常よ用れバ精神氣力を增し學業よ倦事なし

牛肉エキス

一名懷中ソップ

定價 二匁入 拾錢　四匁入 十八錢　八匁入 廿五錢　大坂天滿 福井氏製

効能大概雞肉ゲレーよ同じ但牛肉壹貫目を以てエキス廿五匁を製し得たれバ其一匁ハ牛肉四拾目よ當る故よ旅行軍陣等生肉を得難き所よハ簡便至要の滋養品なり

牛肉飴

定價 五十目入 十二錢　百目入 二十錢

此製ハエキスを飴よ煉り合したるものなり第一緩和滋養の功を有し虚勞を補ひ氣力を增し痰を消しせきを止め腸胃を健にする効あり

牛肉醋水飴

定價 二合入 廿五錢　四合入 四十三錢

牛肉飴よアルコールを加へたる物よて能く精神を振起し血液を運行し强壯を務く常よ用ゆれバ健康長壽疑なし

生長糖

定價 壹箱 拾二錢五厘　半箱 六錢五厘　西京御幸町 春杏館製

此菓子ハ妙藥を以て製したれバ大人小兒の諸惡虫を驅除し腸胃を調ふる神驗あり且好風味よして喫茶よ適ふ

元發賣所

東京岸田精錡水支店　守田寶丹賣生堂神藥　山內回陽丹元賣弘所　諸國名丹妙藥取扱所

大坂高麗橋二丁目 救濟堂

本家正直 諸國賣弘所

印刷 今橋二丁目 大坂讀賣社

東京 資生堂 謹製

神藥

定價 大瓶 廿五錢　小瓶 十錢

○痢病○虎列拉○腸胃の痛○霍亂○其外諸症によし

此神藥は世間賣藥の眞藥なることは諸君知り玉ふ所なれバ通じて神藥とは違ひ其外用ゆべき永劑あり依るに近來類似の神藥を往々賣る者ありくれぐれも資生堂の商標を圖て請求の玉ふ可し

回陽丹

定價 大一包十五錢　小一包八錢

此御藥は第一氣を鎭め痛を和らげ痛を止め腹を調ふるを主能とすされバ旅行軍陣に缺可らざる神丹なり

如意丹

定價 六錢　もろもろの痛を止る妙藥

靈壽園

同 六錢　○喘息○痰咳○氣管病にて聲がかれたる人用てよし

保滋水

同 三日分 廿錢　○胃血○吐血○子宮脱血○口中腐爛○梅毒病等に神驗有り

壯神丸

同 四錢　胃弱くして食物消化ぬ人と丈夫になる藥

黄英散

同 六錢　○第一脚氣○水腫の藥又痔疾に用ゐて太効あり

靑血丸

同 七日分 五十錢　黴毒療毒の一大妙藥なり

藥ぐ〳〵やぼん

同 四錢

功能第一ひせんたむしを治しコレラ病其外傳染病を防ぐ

寶丹

定價 大器 二十五錢　中器 十二錢五厘　小器 六錢二厘五毛　東京池ノ端 守田氏製

寶丹水

同 大瓶 二十錢　中瓶 十錢　小瓶 五錢

此藥の良効著明なることは普く知る所なれバ喋々しく記さず

保全酒

同 一瓶 廿八錢　神田保全堂製

胃を健康し下痢を止め中ぶ痛ひ神思鬱を散ず

發汗水

同 大瓶 二十錢　中瓶 十錢　小瓶 五錢　同横山町 塚本氏製

風邪の一大妙藥よして時疫ハより當分にも速功あり

生長糖

同 一罐 十二錢五厘　半罐 六錢三厘　西京 春杏館製

大人小兒の黴毒を主能とす並てに疳癪風わ用ひてよし

金鳳丸

定價 大包 廿五錢　中包 十二錢五厘　小包 六錢二厘五毛　野州 勝尾氏製

○氣付○暑消○中暑○中寒○藥湯○痢病○疳よ小兒の疳癪風ふよし

紫雪

同 大包 十二錢五厘　小包 六錢二厘五毛　加州金澤 福久氏製

ビツトル

同 大瓶 廿五錢　中瓶 十五錢　小瓶 八錢　東京麻生 松田氏製

清婦湯

同 一袋 二錢六厘　東京元大坂町 高木氏製

産前産後の一切血の道よ用ゐて大功あり

利水散

同 七日分　駿河靜岡

○水腫○脹滿○脚氣○小便不通

…に成長せしむるのに小兒の病氣を減或る大醫の傳授を…通じ惡しき等に尤○寒氣あたり寢びるきによし○眠りぐべし○折々腹い症たんどく蛔虫あて最も恐るべきハ育の機を誤り成長く熱ありて泣さむず其時はやく此藥驚風の症を發し目かに良き醫者を招一包づゝ朝夕に用してもよしら悔るとも詮なきも何れも丸藥な小兒の胃の腑い通じ功能の顯れ常に貯へおき

價入一貼 金四錢

三次

吟香

[illegible]三日分十四錢

夫れ黴毒の害たる酷しきは容貌を醜惡にし又は癈疾となり尤恐るべき病なれどもかく怨まして其禍を招く人多し是全く藥用て後きよくなる故なり此御藥は世間無類の神劑なれば如何なる重症又は痼疾にても治せざると云ことなし苟も黴毒ある人は用ゐて其患を免がれ玉へ

治癩散 同 二包入 六錢 癩疾せうかちの妙藥にして古今無類の奇功あり

坤精飲 同 大服 十二錢 牛馬なるふ病の妙藥にして西洋にて多年經驗したる良藥也

東京銀座岸田大先生監製

精錡水 同 一瓶 六錢二厘五毛之 諸眼病に用ゐて速功ある水劑 此御目藥は亞米利加の大醫平文先生の直傳よりして鳥目○その外は速に治せると請合なり

補養丸 同 一瓶 六錢 ○天資虚弱○病後産後の疲を補ひ丈夫になる神劑之

鎭溜飲 定價 三二包入錢 一切の胃病を治し殊に溜飲症氣と治する妙藥之

穩通丸 同 二錢 つうじ藥心下の痞を開きのぼせを治す

玉兎膏 同 壹錢 ひゞあかぎれしもやけそりむきの藥

天保膏 同 壹錢 やけどの妙藥

[illegible] 一 二 十錢 [illegible]

健胃散 大阪平野町鈴木氏 同 三錢 一包 和蘭の大醫ボードエン先生の遺方にして胃中を强くする妙劑之

キンドル散 東京銀座大平氏製 同 四錢 一包 五疳○驚風は良藥あり實に小兒の藥王といふべし

如神丹 大阪平野町寶善堂製 同 七錢 一包 齒痛を治する神の如し

開達丸 伊勢河村氏製 同 大瓶 十錢 小瓶 六錢

紫金錠 東京通町北島氏製 同 大瓶 十二錢五厘 小瓶 六錢二厘五毛

右の外○諸腫物すいだし○打撲○切疵○血止○痛風○手足の痛○頭痛○齒痛○やけど○灸めいぼひ○肩はり等の妙膏藥類○藥齒みがき○おしろい○洗粉○しやぼん○花いうぞ香水○香油○線香薫香の類○此外滋養食品いろ〳〵

元賣弘所 東京岸田 樂善堂支店 大阪高麗橋二丁目 敬濟堂 池田氏

右各氏は妙藥類何れも奇特は効驗有之候に付此度濟世の爲め私方よく大取次開業仕候就ては卸小賣共本家規則の通差上可申候間諸君多少に不拘御購求奉冀候也

諸國大取次所

官許

Kinder-Poeder.

小兒藥王

傳方 樂善堂 岸田吟香

キンドル散

二包入一貼 定價 金四錢

本舖 東京新聞社 大平三次

此の藥は荷蘭國の大醫フェーランド先生の遺方にして專ら小兒の病根を絶ち健全に成長せしむるの良藥なり西洋にては曾て此良藥の發明ありしより忽ち世上一般に弘まりて追々に小兒の病氣を減少し殆んど夭折するもの無きに至ると云へり依て此ごろ西洋より歸朝せられたる或る大醫の傳授を乞ひて此良藥を製し普く世間の小兒を救はんが爲に發賣する者なり

○第一きやうふう○慢驚風○乳を吐き○大便いろ青く○顔わろく熱ありて大便の通じ悪しき等に尤もよし○乳を好まず顔てあし熱く脈はげしきに用ゐて忽ち功あり○暑氣あたり○寒氣あたり寢びえ等すべて時候あたりにて熱あるによし○食物を食ひ過ぎて氣おもく手足のだるきによし○眠りながら手足とピク〳〵と動かすは驚風の下地なり早く此御藥を用ゐて危害を防ぐべし○折々腹いたみ能く眠らざるもの○夜なき○食あたり○吐氣あるものに妙なり○其ほか疳症たんどく蛔虫などにて肥立のよろしからぬに用ゐて追々に健全に趣くべし○小兒は病の内にて最も恐るべきは驚風なり若し一たび此病を發する時は重きは忽ち死に至り輕きも氣力を損じ發育の機を誤り成長の勢を弱くするの恐れあり凡そ小兒の乳を吐き或は乳を哺まず大便の通じ悪しく熱ありて泣きむづかる者は驚風の下地あり別して脈はげしく大便のいろ青き者は油斷すべからず其時はやく此藥を用ゆれば少しく通じありて速かに全快すべし若し油斷して此藥を用ゐず俄に驚風の症を發し目を引つけ手足をもがきて悶え苦しむ時は最はや此御藥のみにては挽廻し難し速かに良き醫者を招きて療治すべし

○用ゐ方は一年未滿は一包を二ツに分けて朝ばん二度に用ゆべし滿一ケ年よりは一包づゝ朝夕に用ゐてよし○但し猪口一盃程の水に解て飲すべし又水にて堅く煉り乳の頭に着けて飲してもよし

○夫れ小兒が一たび病を發する時は忽ち發育を妨げ遂に一世の害を釀し成長の後ち悔るとも詮なきとあれば親たるものは平生に宜しく注意すべし是まで世間に小兒の藥も多くあれども何れも丸藥などにて殊に香氣を附け或は金箔を粧ひ拵したる者にて小兒の爲め誠によろしからず小兒の胃の腑は至て弱きものにて其の働きの鈍きものゆゑ胃中に入て早く消化れず其儘にて大便へ通じ功能の顯れざるもの多し此御藥は斯様の類には決て是なく實に救世の良劑なれば子女ある人々は常に貯へおき小兒に與へ無病息災に成長ならしむる様に用心すると肝要なり

取次賣弘所

東京銀座一丁目廿一番地東京新聞社印刷

証

一[illegible]　壹個

但[illegible]

右正ニ請取候也

明治三年三月一日

大阪出張

出納局

受付

[illegible]

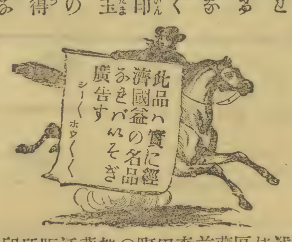
英國發明 ガラス早接の 水硝子 定價 小瓶 金六錢 中瓶 金十三錢

原賣捌所 寶丹水發賣元 東京村松町 岩涙長藏

精錡水本舗 東京銀座 岸田吟香

ポンスランプ所 東京通油町 山岸吉郎兵衛

右もやつぎ水硝子の儀ハ一度ならきく二度と用立ざるものと吾人ともに思ひ居るガラス板ぎやまん器ランプホヤの類のこれを筆の先にてちよんと藥をつゐ接ぎて新品同樣の要を爲すのみならず用法書にくわしく記せし如くガラス板ぎやまん器へ繪を畫き印章を記し金銀の箔を置き眼鏡の玉を接ぐ或ハ土瓶銅鉄瓶又ハ木製の器物の毀損と雖ども容易く接ぎ得るも大丈夫にて眞に奇妙の良品なれバ今回拙家に於て販賣す請ふ諸君賭求經濟の一助に充て給ハん事を希望す



精錡水三藥 寶丹寶丹水 大取次所 大坂高麗橋二丁目 精錡水支店 池田猶猷

東京淺草區藏前森田町〇加藤活版所印行

大取次販賣所

○清涼佳美 レモン糖 ブリキ罐詰 玉露糖同價

此のレモン糖は弊舗新製の御飲料にて極上のレモンより結晶純糖諸味調製したる珍味無類のレモナーデにして世のレモナーデ其種類多しと雖も此のレモン糖は美製罐詰廉價輕便の奇品なれば輸入レモン糖の外二ッとなき重寶の御飲料にして用法清水に和してめしあがるべし

五畿大販賣所

同 上京區室町通御池角 永樂堂 細辻昌雄

本店

大日本西京下京第五組寺町通錦天神前 三巴堂 荒川隆二郎謹誌

大方の君子御機嫌宜敷御愛顧御引立被成下就中玉露糖の義は内外萬國流布賞翫の光榮を蒙り難有仕合せに奉存候然るに近來類品を鬻く物不少に付三巴堂の名印御見認の上不相換澤山御用向の程奉願候

○賣弘所は江湖御引立を以て三府五港各縣下設置有之候付御最寄にて御愛求希上升新規取次望の御方等も本舖或は諸國大販賣所等へ御郵報奉希上升何れも賣藥外の品ゆへ御手數入不申候間倍一層の御愛顧伏て奉願候

御飲品日本一等

玉露糖功用辨

滋養雅翫茶菓全備の佳品にて用法熱湯或は冷水にて用ひ第一旅行遊歩等且つ平居御茶席に備へて至極御便利の品にて酒食前後にめしあがりて胃を强くし神經を爽やかにし鬱を散し口舌を清くす又花室に於て娘妻の美顏に接する等の時に嚙みては第一口中の惡氣を散じ音聲を爽快にする自他輕便重寶の名品なり

西京三巴堂製品

日本新製 小豆糖 玉露糖同價に御座候

滋養の御飲品にして且つ小豆は日本の産物にして其美味は輸入のコーヒーに優る故に弊舗は此の小豆糖を發明し江湖の賞翫を得んとす第一西洋輸入のコーヒーを防ぎ日本金貨輸出を止むる國益一端の奇品なれば用ひて知り玉はんことを冀ふと爾云

各色御好次第 東洋インキ 定價 小瓶 六錢 中瓶 十錢 大瓶 十五錢

此の東洋インキは支那墨製にし日本紙并綿布類に適用し弊舗新發明良品にて硯墨全備時間と手數を省く世に萬々の便利品なり且其色濃厚にして粘固にシミ憂ひなく實に東洋百般の紙に用ひて至極重寶の品なり故に官省社校商工農凡そ筆をとる御方は其便利萬々なると試みて賞翫し玉ふべし

おしろい下無類の良品 このゆきわすれ 定價 小瓶 四錢 大瓶 七錢

此のおしろいはかきわすれはかゆき一切によし御女中様方色を白くし艶をよくしそばかす○にきび○あせぼ○くろあせた○のぼせ○できもの○霜やけ○ひび○あかぎれ等其他虱蚤ぶと蚊一切の邪蟲を防ぐ世にまたぐひなき香氣馥郁の美艶水なり

萬貯液 定價壹瓶 廿錢

此の萬貯液はすべて腐敗し易き物を貯ふる名水にして如何なる者にても法の如く貯へて固く口をして置けば炎暑中と勿論幾年にても色味共變せざる奇妙の藥水にて第一雞卵魚肉は至極佳美の味を増すと實に奇妙なり

竊蟲液事むしよけくすり 培養粉 一ポンド 價五錢

此の培養粉は奇々妙絶の御肥料にて惡蟲を防ぐ日本中外二ッとなき新發明むしよけ肥料なり

茶菓兩全 日本無類新發明佳品 玉露糖 ぎよくろとう 滋養雅翫御飲料

定價 小鑵 拾錢 大鑵 廿錢

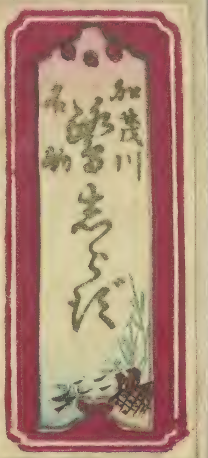
別製 小鑵 廿五錢 大鑵 五十錢

印刷 今橋二丁目 大坂新報社

加茂川名物 鷺しらず

[illegible]

京都祇園新地 縄手大和橋東入 亀佐



祇園新地 京 縄手通 大和橋南入 亀佐

祇園新地 [illegible] 縄手通 大和橋南入 亀佐

明治十三年略暦一覧表

四方拝	元始祭	孝明天皇祭	紀元節	春季皇霊祭	神武天皇即位紀元二千五百四十年 閏年 三百六十六日	神武天皇祭	秋季皇霊祭	神嘗祭	天長節	新嘗祭
一月一日	一月三日	一月三十日	二月十一日	三月二十日		四月三日	九月廿三日	十月十七日	十一月三日	十一月廿三日

月	大小	舊暦 月	舊暦 日	幹支 一日	甲子 日附	庚申 日附	己巳 日附	土用 日附	満月 日附	日曜日 日附					類日 日附	
一	大	十一	二十	己丑				十八	廿七	四	十一	十八	廿五		小寒 六	大寒 廿一
二	小	十二	廿一	庚申	五	一	十		廿六	一	八	十五	廿二	廿九	節分 三	初午 十一
三	大	正	廿一	己丑					廿六	七	十四	廿一	廿八		社日 二十	彼岸 十七
四	小	二	廿二	庚申	五	一	十	十七	廿五	四	十一	十八	廿五			
五	大	三	廿二	庚寅		卅一			廿四	二	九	十六	廿三	三十	一	八十八夜
六	小	四	廿四	辛酉	四		九		廿二	六	十三	二十	廿七		入梅 十	夏至 廿一
七	大	五	廿四	辛卯		三十		十九	廿二	四	十一	十八	廿五		一	半夏生
八	大	六	廿六	壬戌	三		八		二十	一	八	十五	廿二	廿九	卅一	二百十日
九	小	七	廿七	癸巳		廿八			十九	五	十二	十九	廿六		彼岸 二十	社日 廿六
十	大	八	廿七	癸亥	二		七	二十	十八	三	十	十七	廿四	卅一		
十一	小	九	廿九	甲午		廿七			十七	七	十四	廿一	廿八			
十二	大	十	廿九	甲子	一		六		十七	五	十二	十九	廿六		廿一	冬至

一月十二日 日帯食 前七時十二分虧ナガラ出七時四十一分下ノ左ニヲハル

六月廿二日 月食皆既 後九時卅四分虧ハジメ翌前〇時四十四分ヲハル

十二月十六日 月食皆既 後十一時四分虧ハジメ翌前二時五十二分ヲハル

明治十二年十二月十九日官許
銅石木活版印刷並製本所製紙分社
編輯兼出版人 星野錫

明治十三年 月 日

千菱御菓子
應諸君好
撰上品極撰
雅糕紗糖等
日ニ新製之

御菓子

金銀銅貨擬着七寶焼
并ニ鍍金焼製造所
名古屋
七寶会社

御菓子司
長榮堂製

吉野山の櫻

このそうは何とゐふとも花やよしのの山　貞徳

花ツくらしかりてよふのよしのの山　貞室

奇書より[illegible]よしのの山　支考

花を[illegible]山八日比のあさ[illegible]　[illegible]翁

山さくら[illegible]の先ツ二ツ[illegible]　[illegible]

こよしのやむま[illegible]の[illegible]おり　公永

[illegible]年をへて[illegible]を[illegible]　[illegible]

西行庵苔清水

よしの山去年の枝折の道かへて まださこぬかたの花を尋ねん　西行

[illegible]ふかせてふみきやいつ迄よしのの山　[illegible]華

よしの山やかて出じとおもふ身を 花ちりなばと人やまつらん　西行

昔誰かゝる桜の種うへて よしのを春の山となしけん　後京極

御製御桃原吉水院

花にねてよしやよしのの吉水の まくらのもとに石走る音

楠正行矢の根の辞世

かへらじとかねておもへば梓弓 なき数に入る名をぞとゞむる

製塵所 よしのか 平井佐一郎

御菓子

信州平塚町一丁目角 [illegible]

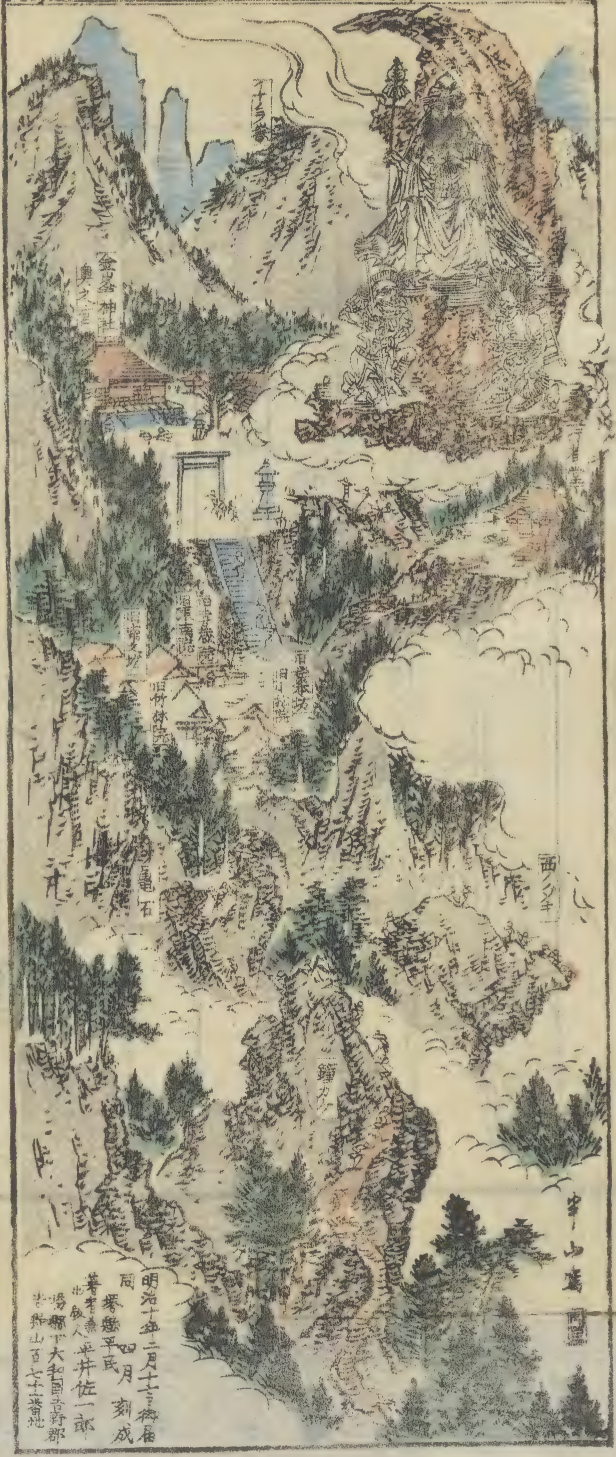
粉乳
（コミルク）
勸農局
下總種畜場試製

名産 吉野山 [illegible]
吉野葛 櫻菓子所
本家 福住正保製

大阪[illegible]
御菓子所
[illegible]八幡製

第[illegible]號
大阪心齋橋北詰
梶田寶吉町[illegible]

大和國大峯山上繪圖



明治十五年二月十一日御届
同　年四月　刻成
著者兼出版人　平井佐一郎
　大和國吉野郡吉野山百七十二番地
中山寫

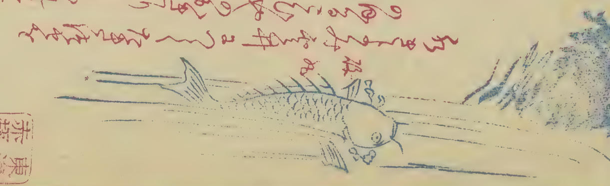
大阪心斎橋南壹丁目
御菓子所
近江屋菖衣保久

愛知縣下
名古屋區
魚之棚
河文製

御
氷菓

寿

金谷	廿四り十一丁ヨ
日坂	廿三り三十三丁、
掛川	廿り廿六丁、
袋井	十八り五丁、
見付	十六り十九丁、
濱松	十二り卅四丁、
新所	七り十四丁、
二川	五り十七丁、
豊橋	三り十四丁、
豊川	一り十二丁、
御油	十七丁、
赤坂ヨリ東西里程	
藤川	二り十九丁ヨ
岡崎	四り廿一丁、
知立	八り十二丁、
鳴海	十一り十六丁、
宮	十三り九丁、
名古屋	十四り廿三丁
津島	十九り卅三丁
桑名	廿三り十五丁
四日市	二十七り十五丁
追分	二十八り廿三丁



本店 伊東 [illegible]

支店 東京日本橋區通四町目上槙町 [illegible]
伊東 [illegible]

臭氣止
官許 小野
ONO'S
PATENT
Disinfectant
効能用
テ知リ玉ヘ
大日本橫濱
太田町五丁目
製造所 藥舖 小野又七

所
町
郎

明治十三年十二月廿六日

玉島港商況報告　第壹號

一米ハ奥筋弗々出廻リ有之候得共買人薄シ入津米ハ到而尠シ

一雜穀ハ何品共持合薄商内也菜種モ同樣買進不申候

一綿ハ諸色ニ割安ト唱ヘ在方不賣急爲メカ出綿至而尠ク且北國九州等モ不引合ノ聞ニヤ更ニ買船入津ナシ

一肥シ物ハ北海產平年ニ比スレハ到而入荷少シ昨今船手揚ケ置並ニ地方中買持ニテ惣計凡貳万本内外ニ不過本年ハ一時兵庫大坂阿州等一時引立候爲メ何レモ同地方登リ込爲メニ當港モ右之次第ニテ平年ノ輸入巨歩ノ

玉島港諸相場表

一操綿㊞印	同	金拾　圓
一仝㊞印	同	金九圓八拾錢
一仝△印	十二〆目入 同	金九圓六拾錢
一大判綿㊞印	同	金廿貳圓七十錢
一仝㊞印	一石	金廿貳圓三拾錢
一豐前米		金拾壹圓二拾錢
一筑前米		金拾壹圓拾錢
一中國米		金拾壹圓三拾錢
一肥後米		金拾壹圓廿五錢
一仝糯米		金拾圓七拾五錢
一仝大豆		金六圓八拾錢

越前種子	石五斗 同	金七圓五拾錢
莊内仝	同	金七圓五拾錢
筑前仝	同	金七圓貳拾錢
肥後仝	同	金六圓六拾錢
秋田油粕	十二〆六	金貳圓三拾八錢
莊内仝	同	金貳圓三拾八錢
秋田荏粕 莊内	同	金貳圓五拾錢
十賀楠	關斗 十〆五	金貳拾五錢
羽鯡	同	金三圓三拾錢
〆粕マシケ	同	金三圓四拾錢
同ナタル	同	金三圓三拾錢

一［四］大判綿所營業告

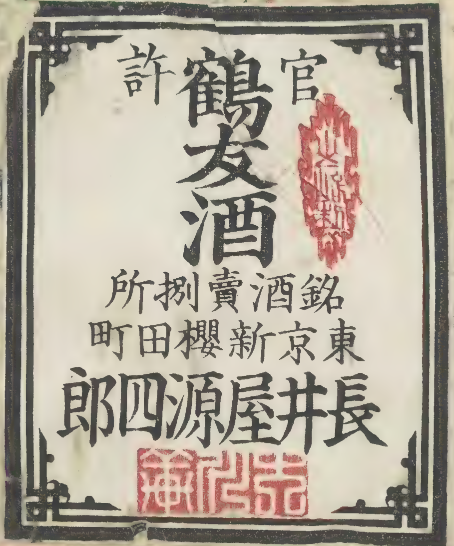
當店義兼テ讃岐名産ナル操綿[illegible]印調方仕丸明北圖等ヲ第一トシ各地方ヱ賣捌罷在以御蔭繁榮仕候處或御答樣ノ御勸メニ依リ今般北海北陸向大判綿仕出方店ニ於テ引請積出可申候[illegible]方ハ[illegible]印ヲ符一トシ㊞印ヲ第二トシ操綿同樣調方極念八差出可申候間外方ノ品ト代品物御見競ノ上多少ニ不拘御註文之程偏ニ奉希上候

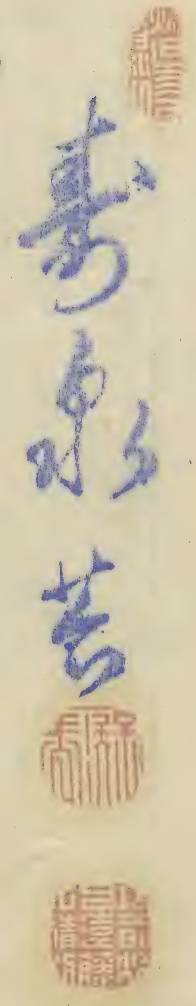
備中玉島港

明治十四年一月吉日

［四］菅谷半十郎

追而判綿七拾五枚積正味目方壹貫目纏重相改居候間不都合之廉有之上者御積戻シ被下候得者代金御戻シ可申上候尤御挑ニテ水濡カリ傷等者一切存不申候以上





一ヨリ藏入物無之昨今ハ金融逼迫ノ爲メ買人薄ク候得共入用之季節ニ至ラハ何レ兵阪ヨリ割能賣捌ケ可申ト存候

一金融ハ全國一般ノ不融通ナレト當港ノ如キハ就中諸品運轉無之爲メ當港開築以來未曾有之大逼迫併今壹貳ケ月ヲ過レハ少シハ引緩ミ可申ト想像ス利子ハ壹ケ月貳歩内外之由也余者次便ニ可申上候御懸引專一ニ奉祈候以上

一仝小豆金七圓三拾錢
一加賀米金拾壹圓
一越後米金拾圓九拾錢
一仝大豆金六圓七拾錢
一莊内米金拾圓九拾錢
一秋田地廻金拾圓七拾錢
一仝仙北金拾圓三拾錢
一仝小豆金七圓 十〆
一地素麵金三圓六拾錢

同ナダ 同 金三圓貳拾錢
鰯粕赤 同 金三圓四拾錢
粿 鯑 同 金四圓八拾錢
白子 同 金四圓拾錢
笹目 同 金貳圓五拾錢
ヒリコ 同 金貳圓八拾錢
能代干鰯 同 金貳圓拾錢
三ツ石昆布 百石 金千貳百五拾圓

右之通ニ御座候何品共金融逼迫ノ際薄商内ニ見當相庭ニ御座候何卒御引合ノ品有之候得者不相變御用向澤山被仰付偏ニ奉希上候以上

備中玉島港新町
[四] 萱谷半十郎
様

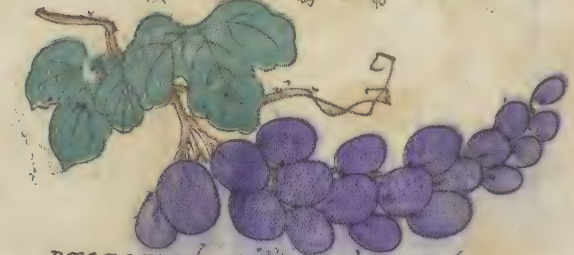
樟細工製造所

口上

各様益御機嫌能被遊御座恐悦至極ニ奉存候然ハ私儀諸君子方ニ御愛顧備り候ニ付繁昌仕難有仕合奉存候就而ハ此度諸品格別念入廉価ニ差上尚又品[illegible]陰[illegible]文仕候付商標印判[illegible]㊉下記シ有之候間[illegible]以上

豆州熱海 ㊉ 丸屋喜助

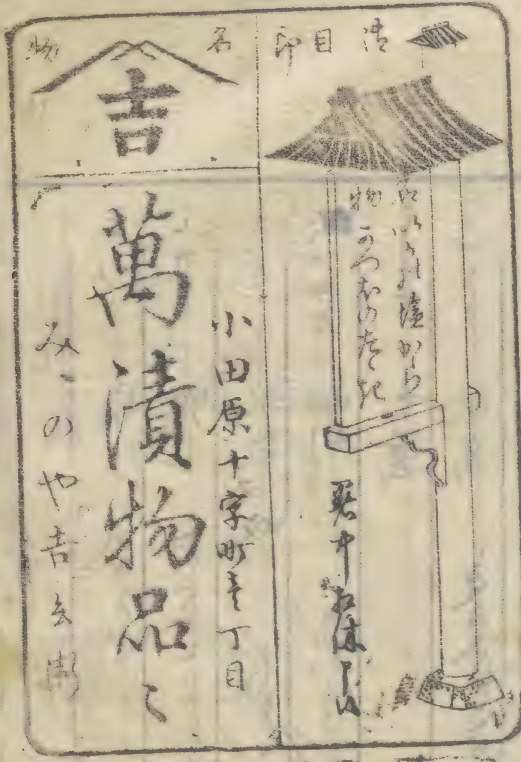
GRAPE
葡萄蜜漬

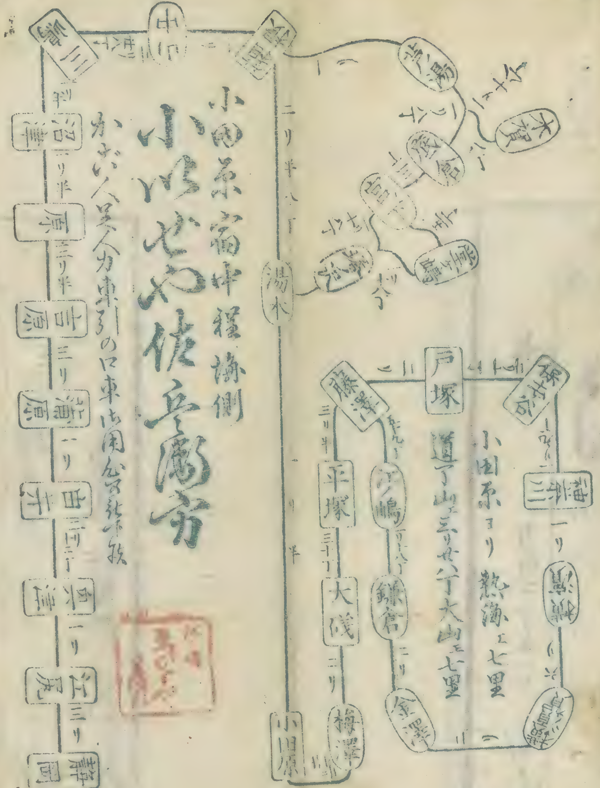


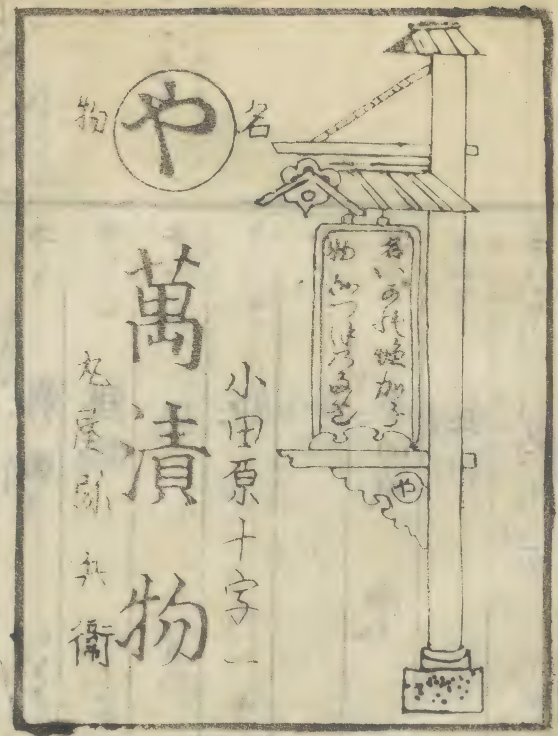
大日本相州小田原

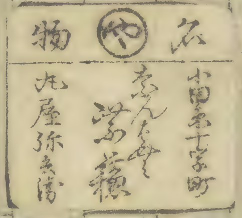
十字町壱丁目
枕流亭製

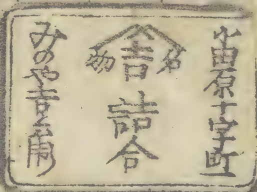
preserved with molasses by
NISHMURA.
ODAWARA SAGAMI JAPAN.


名物
吉
萬漬物品々
小田原十字町七丁目
みのや吉兵衛


小田原宿中程本陣側
小川や佐兵衛方
湯本
小田原
戸塚
平塚
大磯
鎌倉
金澤
藤澤
小田原ヨリ熱海ヘ七里
道了山ヘ三リ廿八丁大山ヘ七里


名
や
物
萬漬物
小田原十字一
丸屋弥兵衛


名
や
物
小田原十字町
丸屋弥兵衛


小田原十字町
名
吉
物
詰合
みのや吉兵衛

真誠社圖

大日本帝國熱海温泉湧源
真誠社製
橙
ORANGE
Prepared by SHINSEI-SHA, the source of the hot spring Atami, Japan.

暑中御伺

大倉喜八郎

箱根 湯本 小田原 梅澤 藤沢 戸塚 程ヶ谷 神奈川 川崎 品川 東京

[illegible]

[illegible]

口上

一 柚餅
一 鎌倉詰 菓物蜜漬類
一 砂糖漬類
一 [illegible]
一 [illegible]

小田原十字町壹丁目

別製
砂糖漬

○御座敷より間毎に錠前付の戸棚御座候に付御大切の品ハ皆〻此戸棚へ御仕舞被下度此段奉願上候
○座敷の名ハ入口の額に記載して御座候に付御入の方〻ハ御覺へ置可被下候
○御手の音聞え兼候処へハ電信器又ハ鳴子掛け置き候に付左様御承知可被下候
○駕籠人足人力車等御入用の御方〻ハ成丈け早く御注文奉願上候

湯本 福住九藏 謹白

御楊枝

皇國 第一

鯛味噌

他の製に異なり今般龍眼肉を調和し第一氣力をまし腎を補ひ肌膚を潤せる美味なり

東京尾張町二丁目廿二番地
紀伊國屋 鈴木吉兵衛 精製

KINKAN
金柑蜜漬

preserved with Molasses by
NISHIMURA.
ODAWARA JAPAN.

箱根七温泉獨案内

箱根近傍名所舊跡木賀ヨリ里程

小田原	三里十八丁	湯本	一里三十丁
塔ノ沢	一里廿五丁	堂ヶ島	十五丁
宮ノ下	十丁	底倉	八丁
仙石湯	廿二丁	姥子湯	二里
おとみ峠	二里半	冨士山裾	七里
道了宮	三里	大山	十里
大涌谷	一里十丁	小涌谷	廿丁
芦ノ湯	一里半	箱根	二里半
駒ヶ嶽	二里半	熱海	七里
修善寺	十二里	宮城野	五丁
明神ヶ嶽	一里半	其他諸旧跡	

産物

指物挽物	木炭	硫黄	膽ノ類 鶴
山魚 山生魚	四方木	虎斑竹	春蘭 石國蘭
豆蔦 米躑躅	岩芝	筥根竹	神代杉 農蓑
ラヲ 筆抽	湯ノ花	木葉石	虎ノ尾草

其外百木百草百石十竹十工十ゲイ右何まも棊

而人差出しは

湯入湯之止宿之賄料 定則

下等 一日 金	七日間 金
中等 一日 金	七日間 金
上等 一日 金	七日間 金

其外別製は好み次第日本料理等御好次第

西洋酒肴料理上中下

温泉一等菖蒲湯○二等岩ノ湯○四等大瀧湯

都ての合般文部省ニ而分析表而ハケ所ニ有之温

泉湯之所九室之別々座ニ而六区ニ分チ

諸事ニ差支無之様室備ノ湯治病保養

廣泉

四層楷 眺海樓 松坂壽平治

箱根七温泉獨案内

箱根近傍名所舊跡 本賀ヨリ里程

小田原	三里十八丁	湯本	一里三十丁
塔ノ沢	一里廿五丁	堂ヶ島	十五丁
宮ノ下	十丁	底倉	八丁
仙石湯	廿二丁	姥子湯	二里
おとみ峠	二里半	冨士山裾	七里
道了宮	三里	大山	十里
大涌谷	一里十丁	小涌谷	廿丁
芦ノ湯	一里半	箱根	二里半
駒ヶ嶽	二里半	熱海	七里
修善寺	十二里	宮城野	五丁
明神ヶ嶽	一里半	其他諸旧跡	

産物

指物 挽物	木炭	硫黄 膽ノ類 鶴
山魚 山生魚	四方木	虎斑竹 春蘭 石國蘭
豆蔦 米鄉獨	岩芝	筥根竹 神代杉 農簑
ラウ 筆抽	湯ノ花	木葉石 虎ノ尾草

其外百木百草百石十竹十工十ゲイ其何まま業
内人差出し

湯入湯宿止宿旅籠料 定則

下等	一日 金	七日間	金
中等	一日 金	七日間	金
上等	一日 金	七日間	金

其外別製好次第湯日当蕎麦等次第
西洋酒不ニ同料理上中下
温泉一等菖蒲湯○二等岩ノ湯○四等大瀧湯
新タニ今般文部省湯令折衷西洋ケ英国温
泉浴室所九室ニ別ケ席ヲ罕六区ニ分チ
諸事広美ニ与ヘ一室備ヘ湯浴経験
　　　　　　　　　　　　　　廣泉
四層楷　眺海樓　　松坂壽平治

大阪精製砂糖

証

一金参拾銭

但九月分授業料

右受領候也

明治十四年九月廿二日

東京女子師範学校

納人 田中

熱海植松製

小野之防臭散

ONO'S

PULVIS

DESINFECTINE.

TRADE MARK

臭氣止良方

小野の防臭散

飲べからず

まくべし

壹ポンド包 定價金拾銭

半ポンド包 同 六銭

去明治十年本邦コレラ悪病傳染セシヨリ政府大ニ衛生ノ道ニ注意シ専豫防ノ方法ヲ設ケ多クハ緑礬及ビ石炭酸等ノ水剤ヲ使用セヨトノ御布達モアリ然レ共水剤ニテハ壜子等ノ煩シキアリ以此余ガ發明セシ効驗ノ防臭散ハ明治十一年ニ許可ヲ蒙リ弊店ニ於テ製造並ニ販賣仕候間江湖ノ諸彦多少ニ關ワラズ購求アランコヲ伏テ希望ス

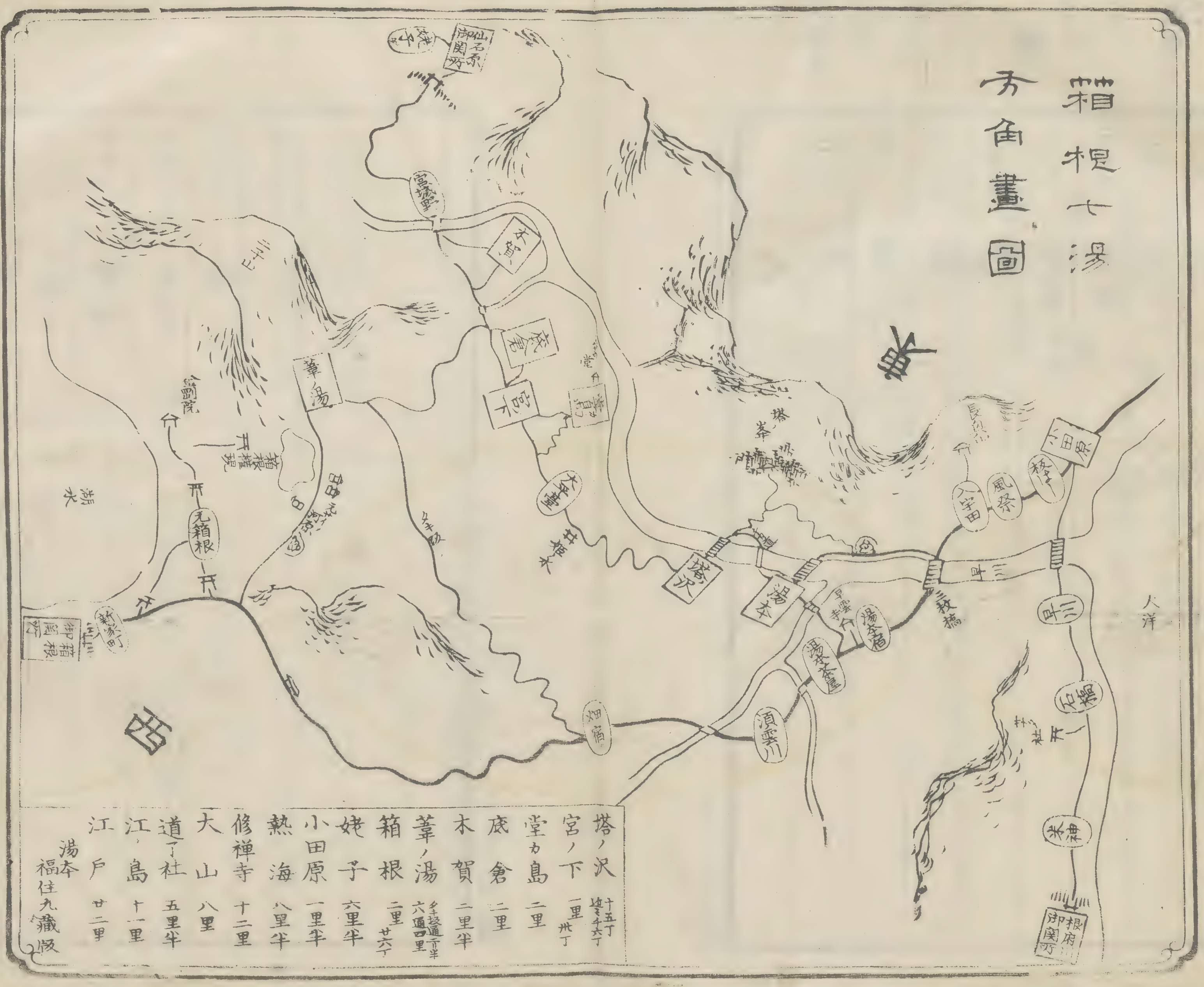
効能並ニ用法

元來此防臭散ハ多クノ腐敗物ニ資用スルノミナラズ平常ト雖モ悪臭ヲ發生スル場所ニ(圊房溝渠等)不斷散布シテ其臭氣ヲ防禦スルニアラザレバ終ニ之カ為メニ諸傳染病ヲ醸スルノ端緒ヲ發起セン因テ此防臭散ヲ臭氣發生ノ場所ニ朝夕二回一掌量ヲ散布スルトキハ健康ヲ保全スルコ論ヲ俟タズトス

製造所 大日本横濱太田町五丁目

藥舗 小野又七

横濱

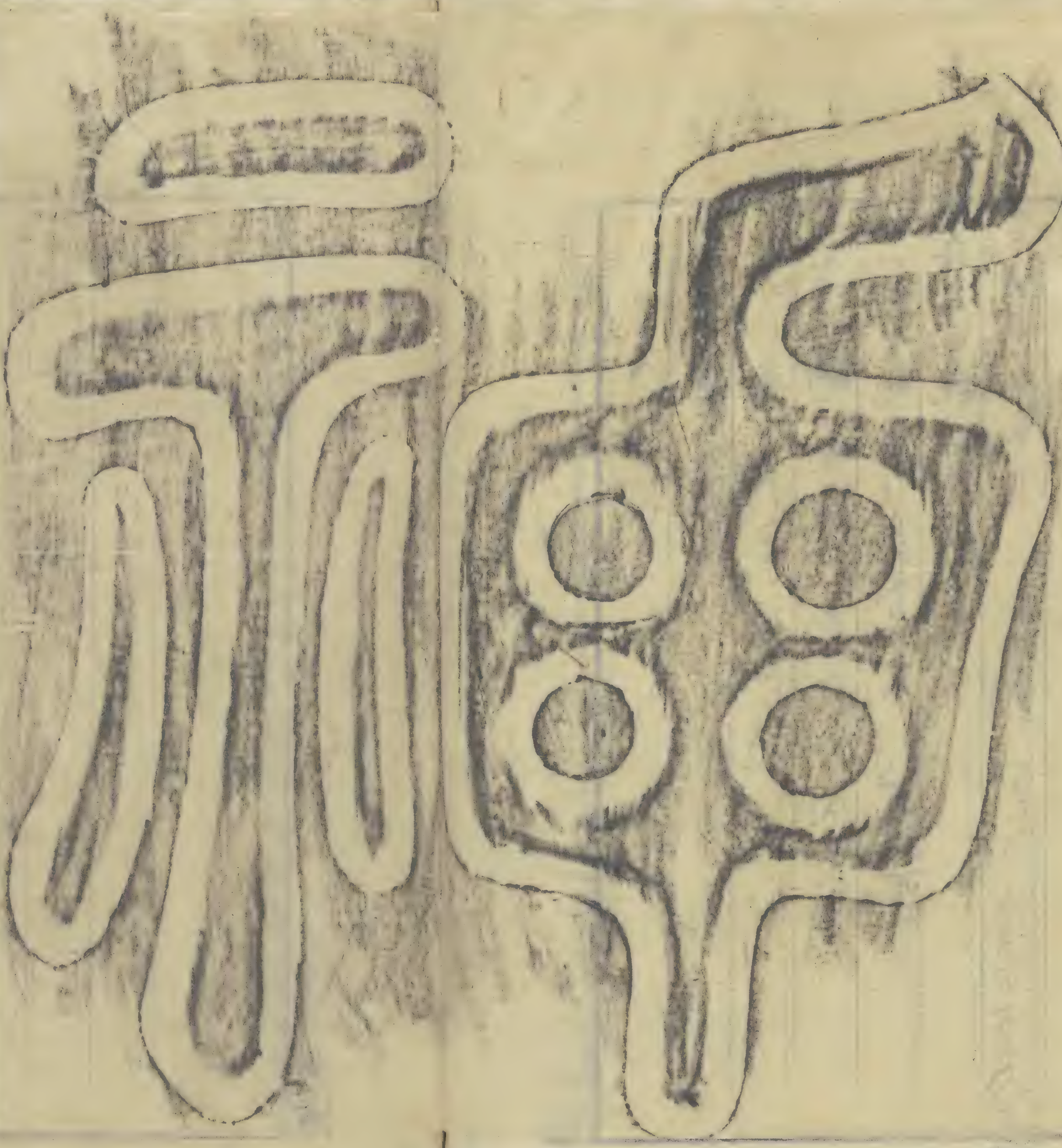


塔ノ沢	十五丁
宮ノ下	一里
堂ヵ島	二里
底倉	二里
木賀	二里半
葦ノ湯	六通四里
箱根	二里 廿六丁
姥子	六里半
小田原	一里半
熱海	八里半
修禅寺	十二里
大山	八里
道了社	五里半
江ノ島	十一里
江戸	廿二里

湯本 福住九藏版

箱根湯本福住九藏宅圖

豆州熱海来宮神社額ノ一字



千數国に言ふ識に水で一時平記申
てらぬいむ急で入用しそれは帰て記申
らくしく豊後の国に漱ゆてて定数は

第一會内國勸業博覽會
賜龍紋賞牌

第二會内國勸業博覽會
賜一等有功賞牌

自店好漉 鳫皮紙目録

鳫皮書物紙

同出繪紙

書翰箋

封嚢

同繪附

罫引

〇罫引西洋紙

折手本

襖紙

〇西洋襖紙各種

團扇

扇子

表紙

のし包

色紙

千代紙

年玉袋

名刺紙

全紙 和漢西洋各國紙類數種

摺物 日本末紙細大筆意彫刻板摺物

[illegible]

鳫皮紙元祖鋪

聚玉堂 榛原直次郎

東京日本橋通壹丁目壹番地

根元 請合

東京芝三島町

萬打物鉗鑢處

本成屋重兵衛

意四月

門跡前 四ツ橋

№284 内用

田中先生

十四日壹〆一四二匁

飯田町一丁目 宮内藥室

№575 内用

田中芳男先生

二月四日壹〆一〆三匁

飯田町一丁目 宮内藥室

敬呈然者此度迂生義婚儀取行候ニ付乍聊祝酒献呈仕度候間乍御苦勞來二十八日午後第四時ヨリ霞ケ關三年町大久保利和宅ヘ御來臨被下度奉待候也

十四年二月

田中芳男殿

前田正名

追テ和洋常服御勝手次第之事尤モ當日御差支ノ有無乍御面倒御一報被下度候也

芝公園地内紅葉館

日本地震會

東京府知事松田道之及同氏ノ妻

謹テ田中芳男君及令閨ニ啓ス来ル十八日延遼館ニ於テ夜會相催候間午後九時ヨリ来臨ヲ希望ス

明治十四年一月十一日

但燕尾服夫人ハ白襟紋付御着用之事

咲花の盛りも永き[illegible]

[illegible]

東京府知事松田道之及同氏ノ妻
謹テ田中芳男君及令閨ニ啓ス來ル
十八日延遼館ニ於テ夜會相催候
間午後九時ヨリ來臨ヲ希望ス

明治十四年十一月十一日

但燕尾服夫人ハ白襟紋付御着用之事

咲花の雲りも[illegible]天神
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

月

牛込區
牛込[illegible]
柏園

来ル二十一日上野教育博物館ニ於テ地震學ノ諸器械並ニ一切之ニ關スル展覧會相開候條御差支無之候ハヾ午後三時ヨリ六時マテノ間ニ同館へ御賁臨給ハリ度此段及御案内候也
尚御家眷御親知御同伴相成候得者更ニ満足スル所ニ候也

The Seismological Society requests the pleasure of the presence of

and friends at an exhibition of seismological apparatus, to be held on Saturday, May 21, between the hours of three and six P.M. at the Educational Museum, (Kioiku Hakubutsukwan) Uyeno.

敬呈然者此度迂生義婚儀取行候ニ付乍聊祝酒献呈仕度候間乍御苦勞来二十八日午後第四時ヨリ霞ケ關三年町大久保利和宅へ御来臨被下度奉待候也

芝公園地内紅葉館

十四年二月

前田正名

田中芳男殿

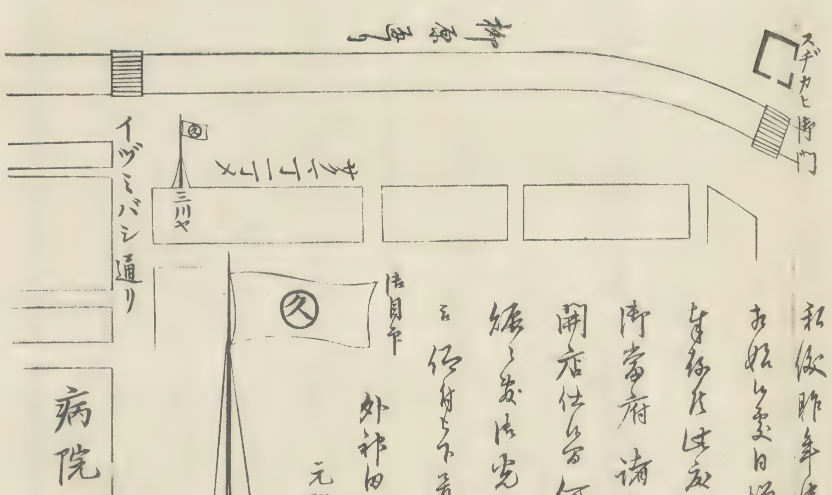
追テ和洋常服御勝手次第之事尤モ當日御差支ノ有無乍御面倒御一報被下度候也

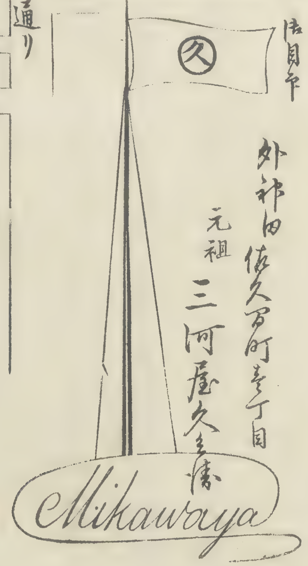
柳川先生御眞筆

明治十五年三月十七日
柳川君十年祭
紅葉館ニ於テ
三河ヤ久兵衛

西洋御料理
并ニ 仕出し仕候
御壱人前 金百五十疋ヨリ
其上御好次第調進仕
西洋御菓子類 精々御味上品
ヿ 御酒類数品 下直ニ奉差上候

私儀昨年中より当所仕出御座候処
お蔭ヲ以日増々繁栄難有仕合
奉存候 然ル処又々
御当府 諸家様方御得意ニ預り
開店仕居 何卒不相替御贔屓
縁ヲ以御光来御用向深山々
ニ御引立ノ程偏ニ奉希上候 以上





外神田 佐久間町二丁目
元祖 三河屋久兵衛

明治十四年

御巡幸一覧表

御届 六月二十日

来月中旬頃山縣秋田両縣より北海道へ御巡幸あらせらるべしとの事ゆへ松當兵右下調への御用有本月中旬に其御道筋へ赴かれし尤も秋田の船川表へ御乗艦を廻されて同地より北海道へ渡らせ賜ふべき御あましなりとかうけたまはり

拝見人心得

御巡幸の節ハ老若男女貴賤に拘らず御行列の妨げにならざるやう道の側に扣へ御鳳輦の時ハ必本其外冠ものを取り立ながら両手を膝頭までも下げ些しく腰を屈め謹んで拝見なさるべし

一豊

御徒町一丁目
二十三番地
編輯兼出版人 大石徳治

官許

幾那鉄舎利別

定價 七日分入 金三十五錢
三日分入 金二十錢

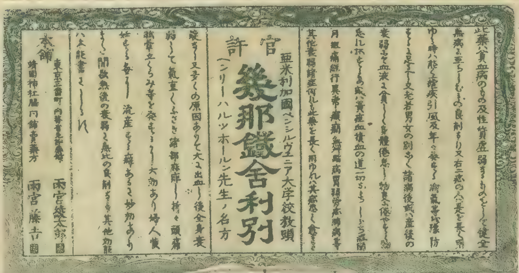
緒言

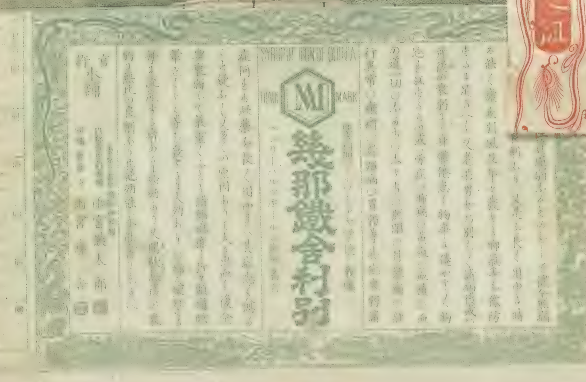
一此幾那鉄舎利別ハ亞米利加國「ペンシルヴェニア」「地名なり」の大學校教師「ドクトル」ヘンリー、ハルツホールン先生の名方にして世間に有ふれたる尋常の賣藥とハ自ら異なる處のものなり故に其効能を左に記載して遍く之を服する諸君の一覧に供んと欲するなり希くハ他の賣藥と同一に見做事なく信を措て服用し給わん事を

効能

抑も此幾那鉄舎利別の主能たるや人身體中に入て血液の不足を補ひ勢力を増し以て諸官能及び機器の運轉を活潑にす是則ち全く無病の健康體にして醫に病苦を訴へざる處なり依て是を保固強壮藥中第一等のものと云べきなり故に平常持病有人又ハ氣候の變換に感じ易きもの例之ハ夏日暑氣及時候に當り易きか或ハ年々脚氣を煩ふ者又ハ秋日の瘴氣に浸され易く或ハ瘧疾等を患るもの又ハ冬日風を引易きものハ何れも其萌有と思ハゞ少しも怠る事なく直に此藥を用て病を重くする事なかれ其内此藥の最も能く効を奏する症ハ年々脚氣を煩ふ症風を引易き症瘧疾を患るの三症なり此内瘧疾ハ土地によりて秋時の頃多く流行するものなり故に少しにても其萌有ときハ前に述る如く直に之を用て眞症に陷しむる事勿れ然れども此症に罹り易きものハ多く虚弱家貧血家にあり又風を引易きもの及年々脚氣を煩ふものも又性質虚弱家貧血家なるものに多し其虚弱家貧血家なるものハ常に劇しき病苦非と雖ども何れも一の病体なり故に此藥を持長して用ゆる時ハ其虚弱家なるものをして健康ならしめ貧血家をして血液に富しめ依て以て體質を健康ならしむるか故に瘧疾引風及年々發する脚氣を防ぐに足るべし是方今有名の諸大醫先生の大に信ずる處なり故に此藥を瘧疾引風慢性脚氣等の豫防藥と云ふ又佳なり然ども無病健康のものに用て頓發する急性脚氣及其他の病を豫防するものと思ふ事勿れ是元來此藥ハ虚弱家貧血家を目的とするものなれハなり又風土の異る地に至りて氣候の變及水の換り等に當りたるものに用て能く其障氣を拂ひ無病にして健康を保つ事妙なり

○老若男女の別なく總て性質虚弱なるものハ又ハ諸病後或ハ産後の衰弱にて血液に貧しく面色青く唇白く眼

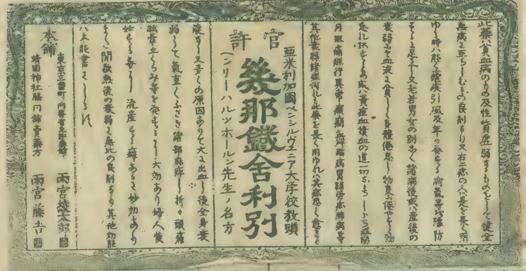




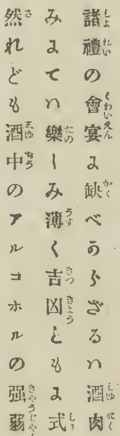
月 日 東京開成學校 用度課

凡そ諸禮の會宴に缺べからざるハ酒肉なり肉のみにてハ樂しみ薄く吉凶ともに式に違はん然れども酒中のアルコホルの強弱に依り度に過きバ或ひハ害を招くとあり茲を以て天の美祿も命を斷つの斧となり世に百毒の長と謂る素より酒の罪にハあらで畢竟用ふる人の罪と酒の上の論議ハ閣き這回弊舗で發行する西の宮の清釀銘酒不老酒といふ別釀ハ世に有觸たる銘酒と違ひ味ひ極めて澹白にて慈養の功能著るしく顔回亞聖も、是を飲バ不孝短命の歎きもなく李白も是を傾くれバ杯置さへ忘るべし長壽を樂ふ仁君ハ是を用ひて百年の白髮を頂き給へかしと主個ならして不老不死の銘酒の醉に浮々と地金を出ての長口上も本性違ハず幾久しく御愛顧有て御購求の程偏へに願奉つる

不老酒發行元
牛込區牛込神樂坂上
川島十郎兵衛



月　日
東京開成學校
用度課



凡そ諸禮の會宴に缺べからざるハ酒肉なり肉のみにてハ樂しみ薄く吉凶ともに式に違りはん然れども酒中のアルコホルの强弱に依り度に過きバ或ひハ害を招くとあり玆を以て天の美祿も命を斷つの斧となり世に百毒の長と謂る素より酒の罪にハあらで畢竟用ふる人の罪と酒の上の論議ハ閣き這回弊舗で發行する西の宮の淸釀銘酒不老酒といふ別釀ハ世に有觸たる銘酒と違ひ味ひ極めて澹白にて慈養の功能著るしく顏回亞聖も是を飮バ不孝短命の歎きもなく李白も是を傾くれバ杯置さへ忘るべし長壽を樂ふ仁君ハ是を用ひて百年の白髮を頂き給へかしと主個なふして不老不死の銘酒の醉に浮々と地金を出ての長口上も本性違ハず幾久しく御愛顧有て御購求の程偏へに願奉つる

牛込區牛込神樂坂上
不老酒發行元
川島十郎兵衛

官許

幾那鉄舎利別

定價　七日分入 金三十五錢　三日分入 金二十錢

緒言

一此幾那鉄舎利別ハ亞米利加國「ペンシルヴュニア」「地名なり」の大學校敎師「ドクトル」ヘンリー、ハルツホールン先生の名方にして世間に有ふれたる尋常の賣藥とハ自ら異る處のものなり故に其効能を左に記載して遍く之を服する諸君の一覽に供んと欲するなり希くハ他の賣藥と同一に見做事なく信を措て服用し給ハん事を

効能

抑も此幾那鉄舎利別の主能たるや人身體中に入て血液の不足を補ひ勢力を増し以て諸官能及び機器の運轉を活潑にす是則ち全く無病の健康體にして醫に病苦を訴へざる處なり依て是を保固强壯藥中第一等のものと云べきなり故に平常持病有人又ハ氣候の變換に感じ易きものの例之ハ夏日暑氣及時候に當り易きか或ハ年々脚氣を煩ふ者又ハ秋日の瘴氣に浸され易く或ハ瘧疾等を患るもの又ハ冬日風を引易きものハ何れも其萌有と思ハゞ少しも怠る事なく直に此藥を用て病を重くする事なかれ其内此藥の最も能く効を奏する症ハ年々脚氣を煩ふ症風を引易き症瘧疾を患るの三症なり此内瘧疾ハ土地によりて秋時の頃多く流行するものなり故に少しにても其萌有ときハ前に述る如く直に之を用て眞症に陷しむる事勿れ然れども此症に罹り易きものハ多く虚弱家貧血家にあり又風を引易きもの及年々脚氣を煩ふものも又性質虚弱家貧血家なるものに多し其虚弱家貧血家なるものハ常に劇しき病苦非と雖ども何れも一の病体なり故に此藥を持長して用ゆる時ハ其虚弱家なるものをして健康ならし先貧血家をして血液に富しめ依て以て體質を健康ならしむるが故に瘧疾引風及年々發する脚氣を防ぐに足るべし是方今有名の諸大醫先生の大に信ずる處なり故に此藥を瘧疾引風慢性脚氣等の豫防藥と云ふ又佳なり然れとも無病健康のものに用て頓發する急性脚氣及其他の病を豫防するものと思ふ事勿れ是元來此藥ハ虚弱家貧血家を目的とするものなければなり又風土の異る地に至りて氣候の變及水の換り等に當りさるものに用て能く其障氣を拂ひ無病にして健康を保つ事妙なり

○老若男女の別なく總て性質虚弱なるもの又ハ諸病後或ハ産後の衰弱にて血液に貧しく面色青く唇白く眼

目はつきりとせず身體倦怠して手足ニ力なく食物ニ味なく或ハ歩行に息迫し或ハ盗汗とうき或ハ氣ぶさやうにして物事倦易く勉强の勞に堪がさく記憶わるく能物と忘れ抔するもの或ハ黄疸○血積○血の道一切○赤帯下○白帯下○經閉　○月經　痛○經行異常○顛癇○舞踏病○胃弱○勞症○肺病等其他衰弱諸症何れも是を持長速用すきむ其病悉く癒食思と増進し消化器と順調し血脉と整復す故に脈力奮盛して遂ニ健全無病の常態に至らしむる事更に疑有べらざるの良劑なり
○出血後の衰弱例之ハ吐血衂血刀傷出血下血其他許多の原因有りて大に出血し後全身衰弱して顔面蒼白色となり氣重くしてふさぎ諸部ニ麻痺と起し或ハ折々頭痛眩暈立ぐらみ等の症と發するもれニ用て大ニ功あり
○男女とも老衰して身體の勢力弱く魂氣薄きものニ用て能く氣力と増身體と强壮にし元氣自ら盛んになり長壽と保つ事妙なり
○婦人常に悪癖ありて(俗に云冷症)懐妊する毎に流産するものハり其症にハ之と長く用もれむ能其月と保ち平産し其兒も又大に健康なる事疑なし
○間歇熱後れ衰弱に用て其再發の患と豫防し加之其身體と補整し忽ち平常の健康體に復せしむる事實に其効此藥れ右に出るもの有事なし

用法　常の煎茶茶碗ニ水半分斗と入れ瓶の張札に記す處の小點一線則ち壹度分と滴らし用もべし但し一日ニ三度右ハ大人の服量ニして二十歳以下十五歳迄ハ半量と用以下ハ之ニ準す

官許調製本舗

東京三番町五十六番地靖國神社脇
内務省免許藥舗　雨宮綾太郎
同舗賣藥方　雨宮藤吉

各地大販賣

寶丹本舗　東京池之端　守田治兵衛
精錡水本舗　同　銀座　岸田吟香
明治水本舗　同神田小柳町　森島松兵衛

麹町拾丁目迅告社印行

菓子價

良菓目録

名菓茶友　山易詩菓　雲錦　四君子　九連環　鳳麟菓　名誉像菓　紅葉羹　第二博覧會褒状菓　田生錠　瓦糕老伴　菓物各種　能菓　旭昇敷　鉢之木　巻絹　道成寺　石橋

雲之峯　東錦　西錦　千鳥香爐　日之祝　月之雫　倭錦　唐錦　水之月　宇治之友　鶯宿梅　薄雪　井出之里　住之江　都羽二重　和哥之浦　支那模様　山川

大吉山　若菜之里　珎分甘　若香紫　茶餅　若縁　君子揄　郭公　今哉昔　其八重垣　露之玉　数洞富　御所錦　吉野煉　誰加袖　玉簾　舞雀　奇猫化壽　宝引

末廣餅　珎白鶴　松　黄金牡丹　唐片　溪川　煉羊羹　蒸羊羹　懐中汁粉　好劇菓　柿之袖　誉之山　江戸桜　鯛漁菓　四李杯　徘優畫　勸進帳　開花錠　花魯之湪

大日本東京中橋松月堂老舗松吉則謹製

伊藤錦窠先生八十賀會報告

今玆、四月十六日、不論晴雨、欲開錦窠先生八十之壽筵於上野不忍生池院、先生博識洽聞、最精物産之學、其名夙著於海外、平素好蓄物品、附以辯說、積年所得甚多、吾輩慫慂先生、而與其男恭其孫篤謀、會日、將遍出其物品以供賀客賞鑒、且補員亦各出所有之物品考案、及所關物産古人著書諸鞭家遺墨等、以補苴此會焉、冀諸君相與勸誘、各齎物品論說珍籍秘笈、以辱賁臨、則豈獨先生之幸哉、寔吾輩所切望云、

附言

一本日、午前九時開筵、午後五時閉會、

一如先生及補員圖說等、將編之名錦窠翁耋筵誌、先會日而鏤行、

一如會日所齎出品圖說、會後、亦鏤行、

一諸君出品、於不忍生池院受之、即時、交付以會幹領證、

但、本會前日、午前十二時爲期、

一出品、會日、陳列之、其翌、當返璧、

明治十五年三月

駒込東片町百六十二番地　賀來飛霞

會幹　上野公園內官舍　田中芳男

市谷砂土原町二丁目一番地　宍戸昌

補員姓名

東京			
服部雪齋	田中房種	織田信徳	藤野寄命
小野職愨	鶴田清次	栗田萬次郎	小林常賀
長田歸鄉	練木喜三	栗本鋤雲	小森賴信
加藤竹齋	中島楳仙	山本正夫	白鳩孝勝
片山直人	中島仰山	松本駒次郎	平野四郎
高鋭一	大久保三郎	曲直瀬愛	杉浦重剛

伊勢　丹波脩治

淡路　岡田通利

神戸　神波全庵

名古屋　嘗百社中

附啓

諸彥、會日、賁臨與否者、限四月十日、通知於會幹、是望、

第百五十三號

食券

第百五十七號

明治十五年四月十六日
於東京上野不忍生池院
錦窠翁耋筵入觀證
收券掛ハ此券ト引換ヘ
耋筵誌及粗飦ヲ呈ス

第五百九號

明治十五年四月十六日
錦窠翁耋筵入觀證
於東京上野不忍生池院

喫茶

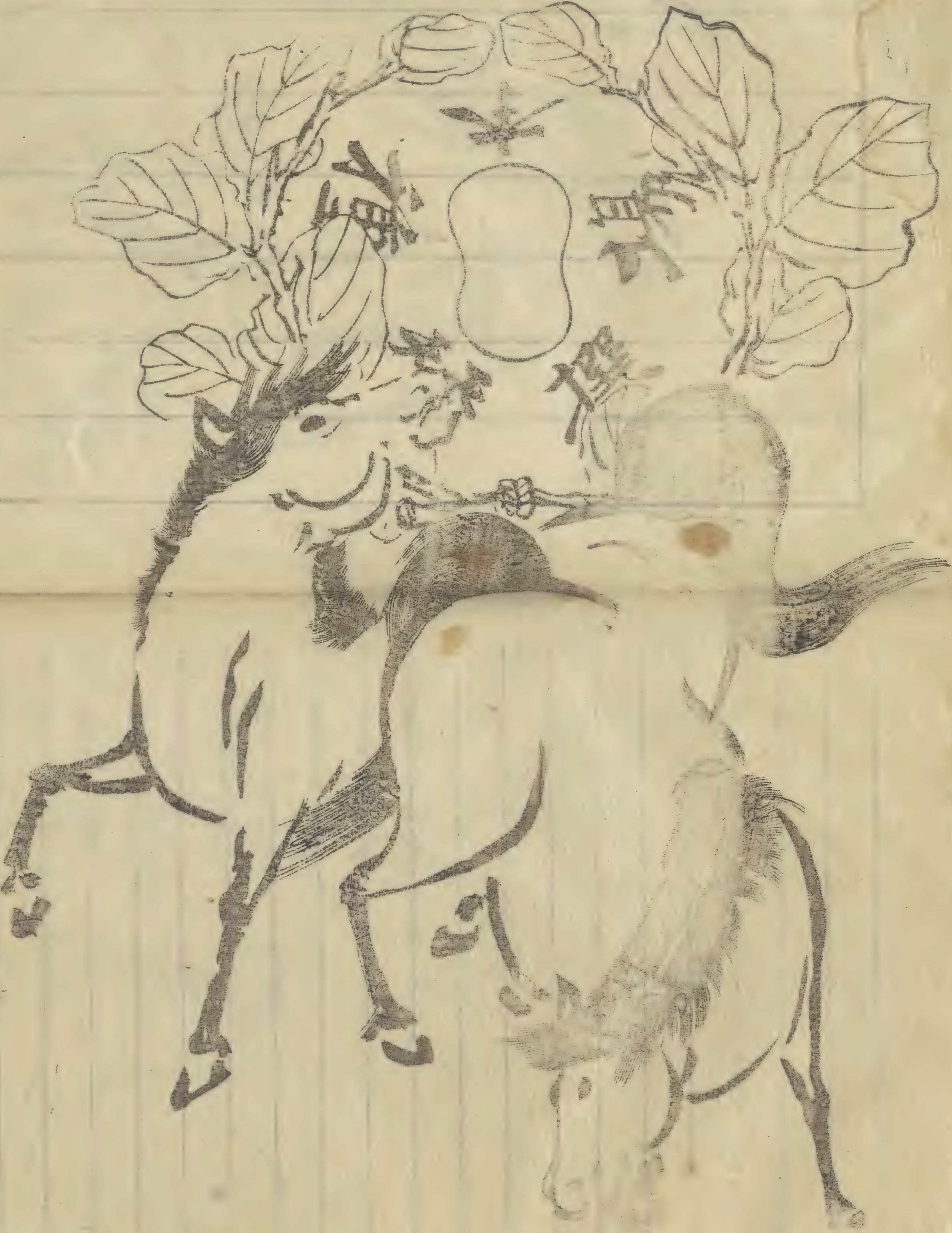
精[illegible]

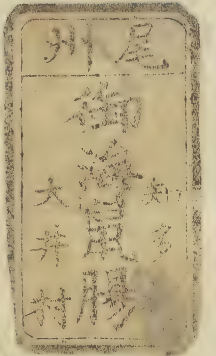
[illegible]

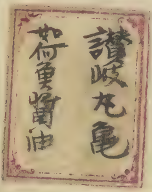
坂[illegible]書

名物
本家
かん物類はう漬物のるく
御ゆべし
小網町魚川町京屋宗兵衛製

賜褒賞
[illegible]
東京[illegible]町[illegible]
選刷名筆
山寶堂[illegible]製







米山船章の香味を漢朱地方請求の手段試験けしる其中難あの方法相得ざりしおより積年之心労ある販売業者の能わざるか今回鑵詰製造法を案じ精製販売の道を啓き御地を寒暑共に風味を変ずる事なく香気まで宜りの時ふ異なるらず口調味又は保存法に至らば至極便利の品なれば四方に諸君の愛顧を願く御注文あらん事を希ふ

愛知縣三河國額田郡
某村
近藤喜兵衛

現金 正札

東京發製 [illegible]屋 煙草入品々

下谷池之端 仲町通り

伏見屋金兵衛

此健胃酒ハ原名ストマック、ビットル (Stomach bitter) と稱へ泰西諸國に專ら行はるゝ健胃强壯の藥酒なり其功ハ胃のはたらきを助け胃酸を制し、食物の消化をよくし、腸胃の汚物を下し、腹痛を治し、膽汁の不足を補ひ、胸のつかへを開き、心氣を爽かにし、睡眠を快くする等の功あり故に稟賦虛弱の人又ハ魂氣うそく物事に倦やすき人など食前食後常に持續として之を用ふれバ血液の運行を能し氣力を增し自から强壯に復するの能あれバ實に無病息災健康保養の神劑なり又中暑霍亂等總て流行病を豫防するの功あり

○用法ハ其人の適宜に因てその儘にても或ハ一倍又ハ二三倍の冷水を加へ小さき酒盞に一二盃を用ふると佳とそ

寫眞賣捌所

神田淡路町 二丁目四番地

太盛堂

佃煮類

煮豆類

嘗物類

漬物類

昆布巻

現金 かけねなし

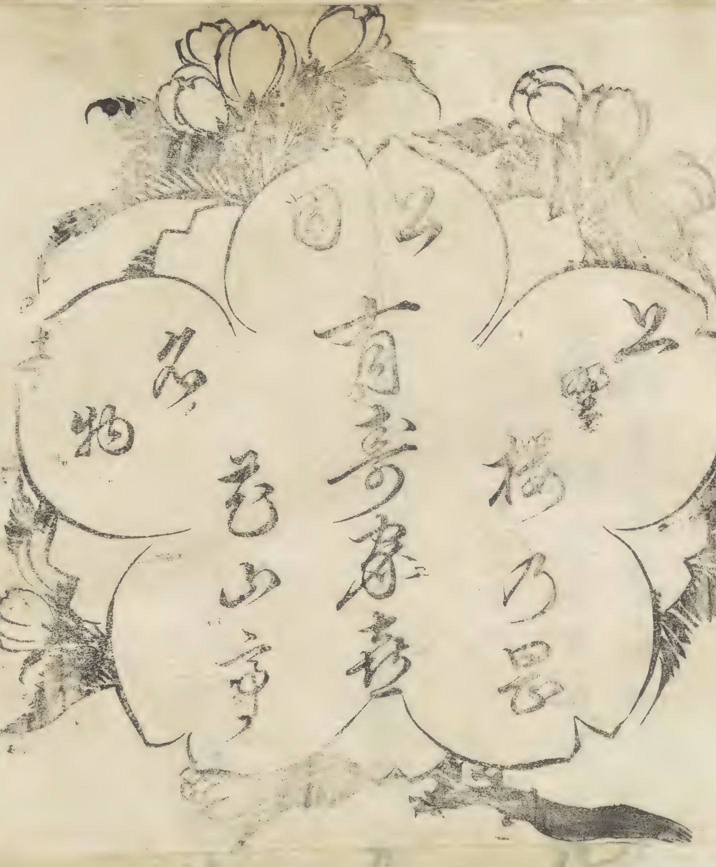
諸打物砥石類

一 料理庖丁品々
一 鍛錠前類
一 剃刀小刀るい
一 職工庖丁品々
一 丸庖丁渡邊類
一 燒小手せん類
一 金槌類品々
一 鋏鑢五徳るい
一 灰押せん品々
一 棒トウ雑品々
一 日本釘るい
一 西洋丸釘るい
一 折釘穿かへ類
一 丸執掉品々
一 切笑燒床品々
一 大工道具品々
一 鉋臺誂々[illegible]挽類

右之種々性合お撰格別安價 [illegible]多少お用向 [illegible]上候也

但し此外ハ 御誂石仕候

神田区末廣町 橋本地角 田中屋 長次郎



現金
かけ値なし

請合元祖玄香

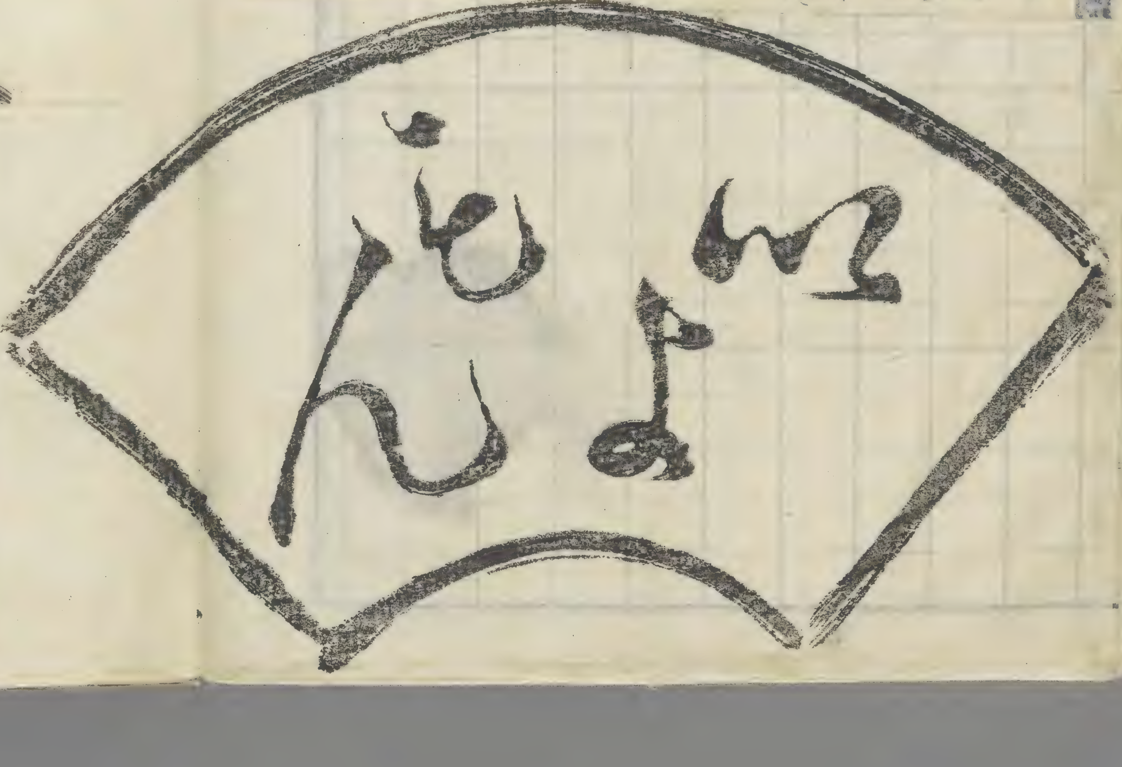
松井半兵衛

東京日本橋呉服町西京玄三堂出張所
製法所 玄三堂 杢田緑山調
右ノ糊ニテ紙類ヲツギ何ヶ年土蔵ヘ入置トモ虫ノクイ無之用テ世上ノ重宝ヲ知ルベシ

摩訶 吸物昆布

一 抑此吸物昆布ハ北海道第一の産物なる昆布の良品を撰みて精製する者なり 故に…右の昆布ハ日数を経ても風味替らず…其用ひ方ハ蓋ある器に入れ置き少しく醤油をさし白湯を入て用ゆれハ…の功あり…便なるを知るべし 謹て言す

東京神田…十八番地
小林徳次郎



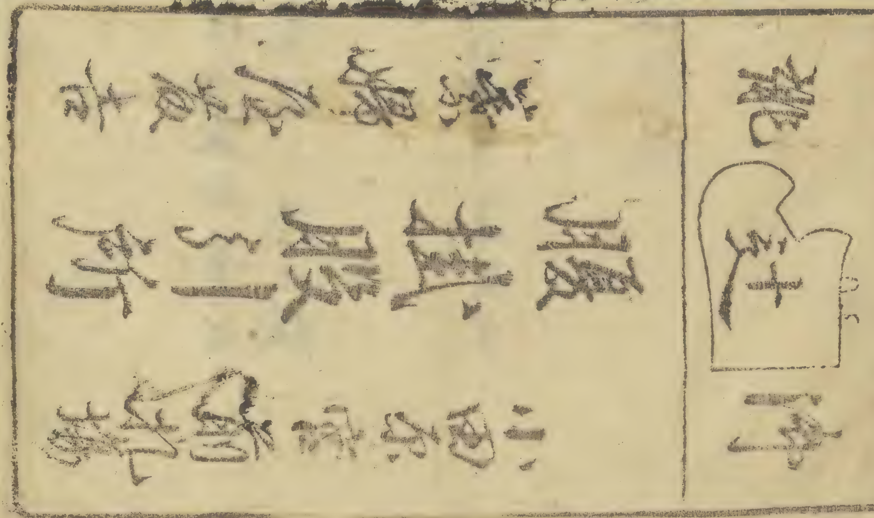
廣告

私儀明治十一年來鹿兒嶋縣下鹿兒嶋築町ニ本店ヲ開キ時計營業仕候處幸ニ四方諸君ノ御愛顧ヲ蒙リ日ニ月ニ繁榮仕難有仕合ニ奉存候且ツ昨十四年内國勸業博覽會ニ自製ノ時計出品仕候處忝クモ進歩三等賞ヲ下賜セラレ實ニ感銘ノ至ニ堪ヘス就テハ自今尚一層盛大ヲ期センカ為メ本年九月都城ニ支店ヲ開キ將又今般上京仕左ノ所ニ家屋相求メ直シ營業ヲ專ラトシ併セテ製造仕漸次事業ヲ擴張仕度奉存候間何卒四方ノ諸君依舊御愛顧ヲ垂レサセラレ候樣奉希候尤モ昨今家屋造作中ニ付不日開店ノ節ハ新聞紙ヲ以テ廣告仕可申候得共前以此段御披露申上置候也

追テ當店ノ義ハ時計製造ノミナラス御好ニ依テ鎖其他指輪等製造仕可申候間此段添テ廣告仕候

明治十五年十二月

東京京橋區彌左衛門町七番地
時計師　齋藤輝德



小笠原嶋物産概略

鼈甲、木綿、砂糖、木茸、芭蕉、鳳梨、檸檬、珈琲、丈蘭、礎石、流化鐵、炭酸石灰、其他海產數品並ニ桑、玉名、黄檀、白檀、丸八、栴檀、棕梠、玉楠、ヘゴ、椰樹、蛸木其他木材種々

蠵龜鑵詰

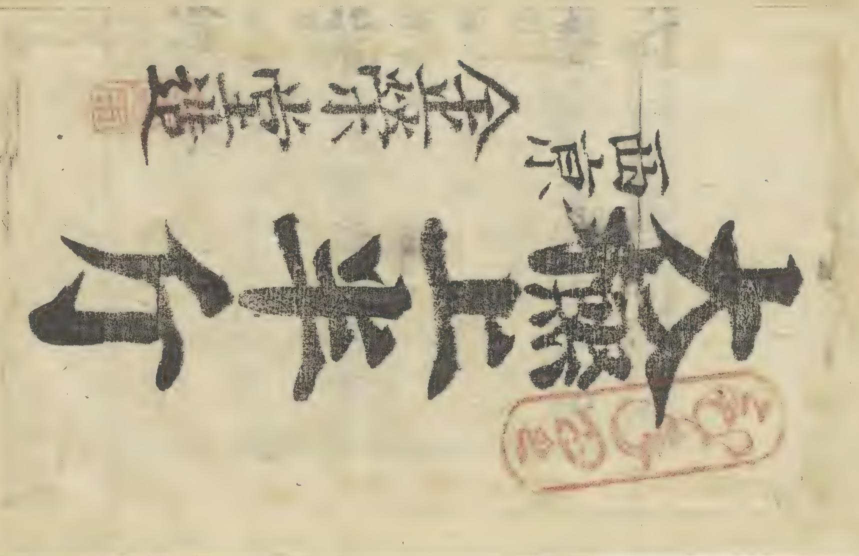
内務省該島物產取調書ニ有之候通リ滋養分最モ多ク味モ亦美ナリ

右鑵詰之儀者先般内務省勸農局該島出張所ニ於テ御試撿之上製造方御許可相成候ニ付テハ左ニ記名之諸店ニ於テ賣捌方仕候間不限多少御購求之程奉願候尚海老鳳梨椰樹ノ萠等ノ鑵詰モ追々製造可仕候

月　日

小笠原嶋物産商社

駿ヶ臺南甲賀町八番地　小笠原嶋物產商社
本町二丁目　鈴木庄五郎
横濱堺町十二番地　小泉伊兵衛
神田小柳町十三番地　小髙良造
同小川町壹番地　富田米吉



HOSINO'S PATENT DESICCATED MILK.

QUART PACKAGE,

None Genuine unless secured

CATTLE FEEDING DESICCATED Trade Mark. MILK WORK. Hongo motomachi Tokio of Japan.

PRICE 35 cn.

With this Patent Trad Mark Capsule.

DIRECTIONS FOR USE.—Before drawing the cork. cut off the top of the metallic capsule, then pour on the contents of this bottle sufficient (*boiling water*) to make a thin paste; stir until quite smooth, and add gradually sufficient hot water to (*entirely dissolve*) the Powder; enough water, either hot or cold, may then be added to make the whole one imperial quart.

N. B.—Should the whole of the Powder not be used when the Bottle is opened, the Cork must be carefully replaced;— by this precaution the remainber will keep good for many days.

The Powder may be dissolved in (*hot*) Tea or Coffee instead of water; one or two teaspoonfuls being first put into the cup and either fluid being added as direct ed a bove.

Useful information Jan., 1874.

A cow was brought from America to Japan, and is feeding in HOSINO'S home of TOKIO HONGO MOTOMACHI ICHOME of Japan; and we have found out many necessary thing about cattle, a cow is one of the most useful animals, because she supplies us with milk, cream, butter and cheese, when she is well fattened, her flesh is good for food, and her hide, when it is tanned, makes thick strong leather, and out of this leather, our boots and shoes are made, and her horns are made into combs, and her bones are made into buttons and knife handles, and her hair is mixed with mortar that we use to plaster our rooms, and therefore it would be adviseable to explain such a valuable properties to any person w ishing to feed cattle.

Hosino

佐藤家遺書刊行目次

農政本論　八冊
土性辯　三冊
田畯年中行事　一冊
天地鎔造化育論　三冊
隄防溝洫志　四冊
山相秘録　二冊
内洋經緯記　一冊
種樹秘要　近刻　一冊
硝石製造辯　一冊
作焔硝製造方　一冊
培養秘録　四冊
草木六部耕種法　十六冊
種樹園法　三冊
垂統秘録　一冊
經濟要録　七冊
漁村維持法　二冊
物價餘論簽書　近刻　二冊
經濟問答秘記　二冊

絹　行代
同半　行代
紙包半行代
同
同

官許
即功紙
主
治
濟世堂製

一 五拾錢也
右通正ニ受取候也
九月一日
上
風月堂清白
ビスケット

東京南傳馬町貳丁目 風月堂印

洋菓ノ記

墨上子胃病ヲ患テ家ニ臥ス寥々無悰忽チ柴扉ヲ敲ク者アリ京橋ノ風月堂主人ナリ曰ク吾レ新タニ泰西ノ製ニ倣ヒ點心數種ヲ造レリ先ヅ之ヲ公ニ獻ゼントス墨上子乃チ之ヲ其臥室ニ延ク主人曰ク吾ガ家久ク點心ヲ以テ世ニ鳴ル今ヤ洋菓ノ製成レリ公幸ニ一評ヲ賜ヘ墨上子曰ク善哉夫レ本邦人ノ菓子ヲ嗜ムヤ酒ヲ嗜ムヨリ甚ダシ稚兒ノ甫メ食ニ就クヤ家人直チニ之ニ菓子ヲ與フ故ニ其ノ長ジテ大戸タル者ヲ除クノ外ハ盡ク之ヲ嗜マザル無シ而メ菓子ノ害却テ酒ヨリモ過グル者有リ何トナレバ本邦ノ點心ハ餡ヲ用ヒテ製スル者十ノ八九ニ居ル而シテ餡ノ胃ニ害有ルハ麪菓ノ右ニ出ヅ僕幼ヨリ菓子ヲ嗜ミ之ガ為メニ胃ヲ傷ル亠數回今ニメ猶愈エズ是レ僕ノ實驗シテ深ク戒ムル所ナリ抑モ洋菓ノ製タル極メテ此ニ注意ス若シ本邦ノ菓子店ヲシテ大ニ開悟釐革スル所ロ有ラシメバ將來人ノ健康ニ益有ル實ニ僅小ナラズト然ルニ今有名ノ風月堂ニメ之ヲ製シ以テ府下ニ徇フ其ノ傳播ノ盛ナル他日必ズ幾分カ彼ノ有害ノ菓子ヲ陷ラフノ人ヲ減ゼン而シテ僕ガ如キ下戸局長モ亦長ク胃病ノ患ヲ免レントス豈一大喜事ナラズヤ主人曰ク聞ク公ハ酒モ亦飲ムト其レ然ルカ墨上子曰ク然リ洋菓ノ妙上戸モ亦陷フ可キニ在リ是レ亦本邦固有ノ菓子ニ勝ル所以ナリ主人笑テ曰ク善シ乃チ書シテ以テ贈ル

墨上漁史柳北識

洋菓品目

一 祝日用飾菓子應御好ニ調進仕候
一 フロンケイキ　一 ヒスユイト
右貴客ノ命ノマヽ調進ス幸ニ愛顧ヲ賜ヘ

東京南傳馬町
本舗 風月堂清白再拜

東京銀座一丁目繪入新聞兩文社印行

サゴ 西國米

官許 神田 本家 十七味水 てんぐや

EAU DE COLOGNE
東香水

稟告

御目ぐすり　精錡水　壹瓶定價金三錢

緒言

抑モ精錡水ヲ米國ノ大醫平文先生ノ經驗ニ係ルト云ヒ又傳タルト唱ヘテ頗ル世人ノ聲譽ヲ得ルト雖モ是モ一其聲譽タルハ傳授人製造人ノ如何ニ依ルモノニ非ス唯ダ精錡水ノ奇效アルニ因ルノミ蓋シ之ヲ目藥トシテ賞用スルヤ啻ニ平文先生ノミニ非ス歐米國ハモトヨリ我國ノ諸大先生方ト雖モ眼病ヲ主トシテ療治セラル丶ニハ殊ニ片時モ欠ク可カラサルノ良藥ナリ

效能

○のぼせめ○かすみめ○つきめ○ちめ○はやりめ○たゞれめ○めぼし等によし　但シそこひとりめにはきかず

一此精錡水はあまり直段の安きを以て万一其藥品は如何やとあやぶむ人なき能はすといへども是れ原薄利にて賣るのみけつして藥品には異ることなし仍て其理由を左に記すを以て必ずしもうたがひたまふことなかれしかしながらうたがはしくは醫に因て問て見るべし

精錡水名稱の原因

一精錡水とは其原品の名稱にして恰も砂糖と水に溶して砂糖水と云ふが如し決して數品を合せて家傳秘方など丶云ふものにあらず抑も其原品の精錡とは英米國の語にてZinciと云ふを支那にて精錡と譯せるものにして我國にて是れと亞鉛(俗に云ふトタン)と云ふ是と硫酸と合せて硫酸亞鉛となりたるものを水に溶して精錡水と名づけたるものなり其虛言ならざるを證せんには博物新編の輕氣製造の所を見てしるべし

精錡水を安く賣るの旨意

一精錡水の眼病に妙功あるは能く人のしる所なれとも奈せん其賣直の高きを以て往々之を買得ずして治を怠るものあり誠に遺憾の極と云ふべし然るに此原品(硫酸亞鉛)は殊の外廉價の物に付極て之を安直に販賣し廣く眼病の人を救はんと欲す乞ふ江湖の諸君我が道德心を愛して陸續恩給あらん事を猶廣く御知己へも御風聽を願ふ

精錡水を安賣の出來る理由

一精錡水一瓶の原價を概算すれば○中身は極て安直のもの○瓶代壹錢二厘○コロップ一厘五毛○札紙及び能書にて壹厘五毛總計金二錢內外なり是を金三錢に賣るは少しく高き樣なれど其賣弘先の入費や請賣人の利益等も此中にあるを以て宜しく諒察を乞ふ

精錡水本舖　救生堂　伊澤氏謹製
東京神田區表神保町二番地

大取次賣弘所　雨宮藤吉
同麹町區三番町五十六番地

御目藥 精錡水發賣廣告

一此精錡水はあまり直段の安きを以て万一其藥品は如何やとあやぶむ人なき能はすといへども是れ原薄利にて賣るのみけつして藥品には異ることなし仍て其理由を左に記すを以て必ずしもうたがひたまふことなかれしかしながらうたがはしくは醫に因て問て見るべし

精錡水名稱の原因

一精錡水とは其原品の名稱にして恰も砂糖と水に溶して砂糖水と云ふが如し決して數品を合せて家傳秘方など丶云ふものにあらず抑も其原品の精錡とは英米國の語にてZinciと云ふを支那にて精錡と譯せるものにして我國にて是れと亞鉛(俗に云ふトタン)と云ふ是と硫酸と合せて硫酸亞鉛となりたるものを水に溶して精錡水と名づけたるものなり其虛言ならざるを證せんには博物新編の輕氣製造の所を見てしるべし

精錡水を安く賣るの旨意

一精錡水の眼病に妙功あるは能く人のしる所なれとも奈せん其賣直の高きを以て往々之を買得ずして治を怠るものあり誠に遺憾の極と云ふべし然るに此原品(硫酸亞鉛)は殊の外廉價の物に付極て之を安直に販賣し廣く眼病の人を救はんと欲す乞ふ江湖の諸君我が道德心を愛して陸續恩給あらん事を猶廣く御知己へも御風聽を願ふ

精錡水を安賣の出來る理由

一精錡水一瓶の原價を概算すれば○中身は極て安直のもの○瓶代壹錢二厘○コロップ一厘五毛○札紙及び能書にて壹厘五毛總計金二錢內外なり是を金三錢に賣るは少しく高き樣なれど其賣弘先の入費や請賣人の利益等も此中にあるを以て宜しく諒察を乞ふ

精錡水本舖　救生堂　主人謹白

大和屋宗助

岩井屋長吉

屠蘇散

貞松堂製

…病ふ速
…自ら貴賤
…らへども其効を
…第一欝を散し
忌邪氣を避けて
…の良剤なるか故ふ年の始
交ふ自然無病壮健なら
仙薬なり
ちひやうハ
例の如く… 味淋ふひたして御用ひ○最初ハ
薬を嚢と酒一合の中ふ入れ又後ハ酒一合の中へ
三度目の薬を入れ毎日御用ひ遊せ右の功能を得べし

吟味薬種所

池之端仲町

堺屋治兵衛

慶應三丁卯新改正

東京

黒門町

御誂物

手甲

印半天

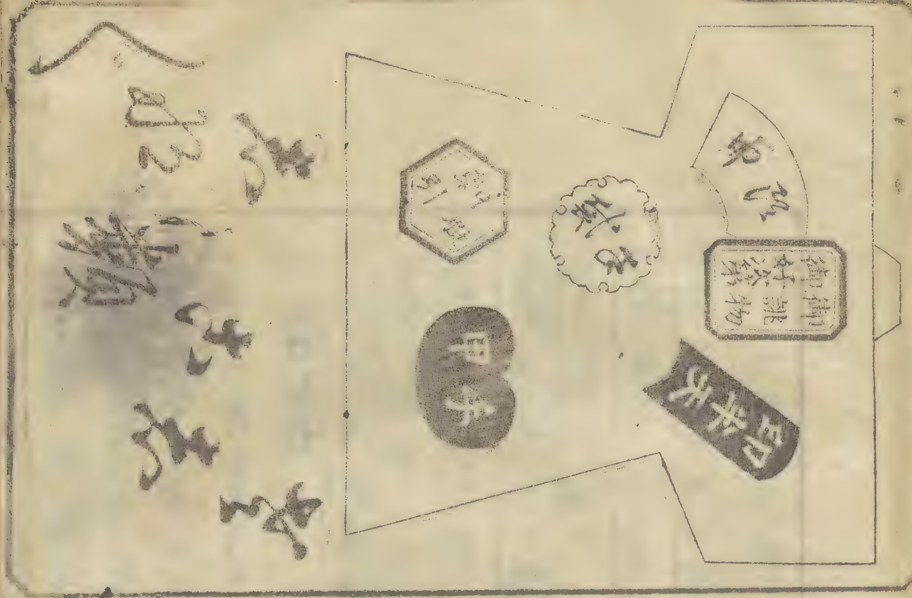
大安売

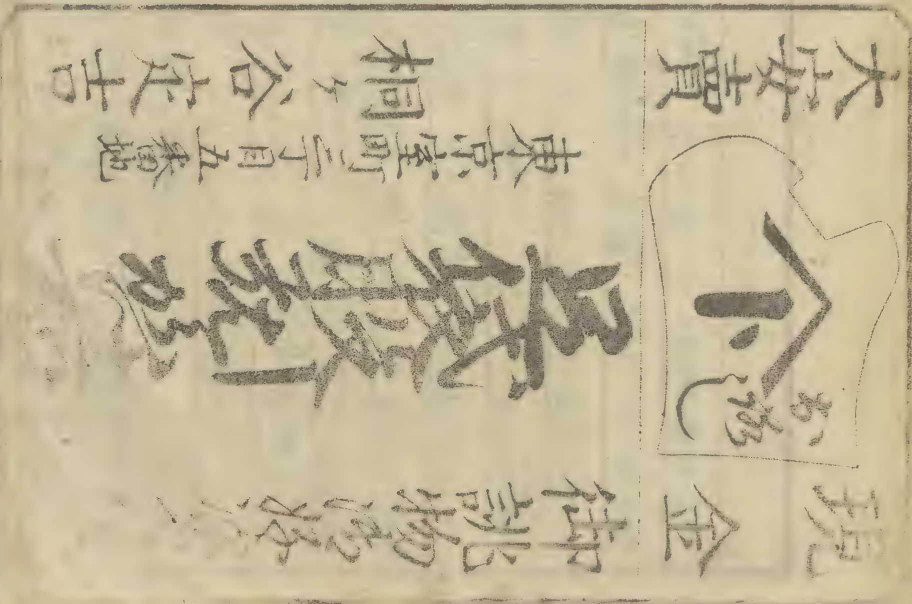
東京室町三丁目五番地

桐ヶ谷定吉

現金

御誂物品々





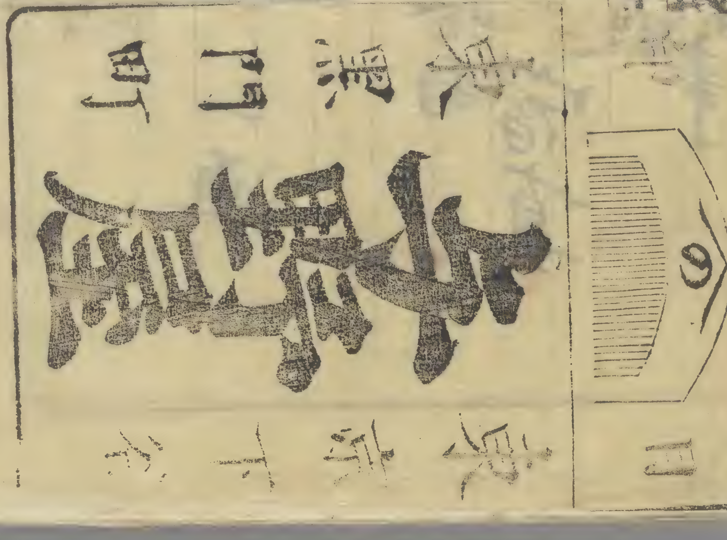
本方屠蘓散　功能來由

屠蘓根源　に歳旦屠蘓白散を服用するハ何のゆゑなり
答ハ往古より屠蘓散を尋常に服して諸病に速
功あるゆゑに公家にても古例を用ひ玉ひされバ自ら貴賤
ともに吉例をひらく新春これを服用すといへども其効を
知る者稀なり抑此屠蘓散ハ第一鬱を散し
氣血を順し腸胃を利し患を忘れ瘴氣を避けて
諸毒を解すを妙なり如此の良剤なるが故に年の始
月の始に服して諸邪を受ず自然無病壮健なら
しむ實に不老長壽の仙薬なり

平常にもちひやうハ
例のごとく酒又ハ味淋にひたして御用ひ○最初ハ
薬を嚢ながら酒一合の中に入れ又後ハ酒一合の中へ
二度目の薬を入れ毎日に用ひ遊ばせバ右の功能を得べし

慶應三丁卯新改正

吟味薬種所　池之端仲町　堺屋治兵衛



廣告

御諸君益々御清福奉恐悦候随て私儀明治七年中より西洋巻莨類外數洋物を商業仕居候処官に於ても職産を勸る時に向始て一已の私利を得て不國益と成を承り全國の良莨を以て上等品を製するも幾許か御國益の一端ともも可相成と前業を廢止種々の致工夫同十一年一月中數年の功㓛に顯茈切莨を紙巻にせる器械を本製にて發明仕又改良ゐて府廳乃驗查を願製造發賣の許可を蒙同年十月中本所區緑町四丁目四十二番地へ(明煙社)開業仕又同十二年四月中佛國に傚ひ脂を秡を發明仕拾一種の刻莨を摸造ゐて右へ洋品相添府廳の試驗を願やにぬき製乃官許を得製造發賣仕候処御諸君に賞さも同十三年六月中宮内省御料調進御用被仰付其後諸宮殿御諸君方へ本日迄無事ニ相納此上も無難有仕合ニ奉存候就て今般為御便利乃私右所ニ出張仕御用納品並ニ御諸君れ御呑料御進物乃數品呑味巻方一層吟味仕調進發賣仕候間何卒御用向之程奉願上候

御入用之節ハはがきにて御注文被下度早々御送申上候

明治十五年六月

神田區三河町一丁目七番地

御用調進所 明煙社

やにぬき發明人 鈴木勇次郎 [印]

○やにぬき あら切 御紙巻莨定價

はそまれ

銘柄	品	入数	代価
花乃煙	御進物	百本入	金拾二錢
		五百本入	金五十八錢
	御呑料	五百本入	金五十五錢
雪乃煙	御進物	百本入	金拾四錢
		五百本入	金六十八錢
	御呑料	五百本入	金六十五錢
月乃煙	御進物	百本入	金二十錢
		五百本入	金壹圓
	御呑料	五百本入	金九十五錢

ふせまれ

銘柄	品	入数	代価
君の煙 中太ト巻	御進物	百本入	金二十壹錢
		五百本入	金壹圓
	御呑料	百本入	金廿錢
		五百本入	金九十五錢
瀧の煙 同	御進物	百本入	金二十六錢
		五百本入	金一圓廿五錢
	御呑料	百本入	金二十五錢
		五百本入	金壹圓廿錢
一等煙 大太ト巻	青張	百本入	金四十錢
		五百本入	金貳圓
	桐箱入	五百本入	金五十錢
			金二圓五十錢

○ 實ニ巻方ハ日本ニ類なし私製の巻煙草とせけんの數物にあらざれバ御諸君他ル品とルル見くらべ。呑くらべルルたまし乃上もがきにて御注文を願ふ

内國無二

銘柄	入数	代価
佛國摸製 やにぬき あら切 手巻莨	二十目入	金十三錢
	五十目入	金三十錢
	百目ニ付	金六十錢
官許 除毒 やにぬき ぎらし刻煙草 世上ニ類なし	百目 壹斤	金五十錢
	同	金七十五錢
	同	金壹圓
	外ルル進物箱入品々	

右前之物品御入用之節ハはがきにて御呑料○御進物御書わけルル注文被下度巻莨ハ物銘何本入何錢之分何箱とルル書印願度府下十五區ハ配達送附仕候也

御料

御用調進所 東京第二 明煙社

東京神田區三河町一丁目七番地

鈴木勇次郎 [印]

官許 御用

やにぬき紙巻煙草

一此佛國摸製やに秡器械製御紙巻煙草ハ是迄日本在來ル「クダヅメ又ハ袋ヅメ乃粗製なる粉巻煙草ニあらざれバ諸君なゑづに用ひ被下度第一煙永く呑掛て火ル落る事なく片燃せず風の為ニ一切そぼらず口中ニ火乃入る事なく「呑掛を下に置バ消る事洋品の如くなり此巻方製法ハ實ニ日本ニ弊社乃外類なし右御徳用乃みならず體の毒ニならず此やニ秡ハ府廳ル試驗を蒙十四年内國勸業博覽會ニて有功賞牌を賜同年京都博覽會ニて有功銀賞牌賜候也

除毒紙巻 御用調進所 第二 東京神田區三河町一丁目七番地 明煙社

器械並製法發明人 鈴木勇次郎 [印]

官許 御用 やにぬき紙巻煙草

[illegible]

除毒紙巻 御用調進所 明煙社

資治通鑑出版廣告

岡松甕谷校閲

資治通鑑　全部二百九十四巻合本四十八冊　最上等半紙摺美本正價金拾三圓五十錢
津本ノ通價凡ソ三分ノ一ニ當ル

維新以來活版印刷ノ書類日ニ月ニ精巧ニ趨クト雖モ往々舛謬誤脱ノ弊ヲ免レサルヲ以テ輿論ノ歸スル所遂ニ正版ニ如カスト爲ス者ハ他ナシ校訂疎漏ニ失シ易ク印刷或ハ鹵莽ニ渉ルヲ以テナリ弊社夙ニ此業ヲ治メ專ラ排字ヲ以テ大小ノ典籍ヲ印行ス爾來星霜ヲ經ルノ久キ技術大ニ進歩シ信ヲ江湖ニ得ルヿ蓋シ淺鮮ナラス乃チ本社ノ事業日ニ繁盛ヲ致シ機械完全文字充足シ如何ナル卷帙浩瀚ナル者ト雖モ沮滯ナク整頓スルヲ得ルニ至レリ因テ今回本社ニ於テ資治通鑑印刷ノ一課ヲ開キ價格至廉ノ善本ヲ印行シ普ク同志諸彦ニ頒タント欲ス其方法規約ハ左ノ條款ニ詳ナリ冀クハ別紙見本ニ就テ我カ言ノ誣妄ナラサルヲ信認セラレ陸續加盟アランヿヲ乞フ若シ夫レ校訂ノ精確ニシテ全部一字ノ誤脱ナキハ弊社誓テ擔保スル所ナリ謹白

資治通鑑印刷規約

第一條　本業ハ來ル三月三十一日迄ヲ期シテ同志一千名ヲ募リ四月一日ヨリ着手シ見本ノ通リ相違ナク印刷シ全部ノ發兌ヲ十二回ニ分チ毎月四冊ノ割合ヲ以テ全部四十八冊ヲ十二ヶ月間ニ卒業スルモノトス

第二條　加入御申込ノ節ハ住所姓名ノ下ニ御捺印アル端書郵便ヲ以テ來ル三月三十一日迄ニ本社ニ御報知アルヘシ爾後轉居等ノ節ハ其時々速ニ御報知アルヘシ

第三條　有志諸彦加入セラル、節ハ其締盟ヲ固クセンカ爲メ壹部ニ付約定金貳圓ヲ御送付アルヘシ然ルトキハ社主大野堯運ノ名前ヲ以テ領收證書ヲ送呈スヘシ

但本文金員ノ義ハ同盟八百名以上ニ及ハサル間ハ集金セサルモノトス八百名以上ニ及ヒ候節ハ本社ノ報道ヲ待テ御送付アルヘシ

第四條　同盟御出金ノ便ヲ謀リ毎月一部ニ付前金壹圓ツヽ結尾一帙ニ至リ金五十錢ヲ御送付アルヘシ然ルトキハ前條名前ヲ以テ其時々領收証書ヲ送呈スヘシ

第五條　書籍ノ遞送東京府内ハ無賃府外各地ハ別ニ遞送現費ヲ請求スヘシ

第六條　凡ソ本書ニ關スル通信ハ總テ報告社内資治通鑑印刷課アテニテ往復スヘシ

第七條　印本ハ極メテ校訂ヲ嚴ニシ毫モ訛謬ナキヲ要スルカ故ニ萬一誤脱アルトキハ其部分ヲ一應郵便端書ヲ以テ御通知アルヘシ然ルトキハ本社ニ於テ之ヲ點撿シ全ク誤謬ナルトキハ速ニ無代價ニテ正刷ノ上交換スヘシ

但誤脱ノ部分御通知ノ期限ハ本社ヨリ書籍發遞ノ日ヨリ六十日以内トス

口上

[illegible]

明治十五年二月

東京浅草福富町二十二番地
御樂器商進所
神田重助

一此品御入用之節ハ　白木ヨリ
御送申上候間御注文可被下候
一御進物白木入桐箱　金　三十五戔
一御香料　累箱入　白木ニ付　金　一円四十五戔
一同　千本ニ付　金　二円八十戔
右之外品々
一御注文之節ハ何本入何錢の品何
箱ト御印可被下候
本所區緑町四丁目
御用　明燈社

資治通鑑出版廣告

岡松甕谷校閲

資治通鑑 全部二百九十四卷合本四十八册

最上等半紙摺美本正價金拾三圓五十錢
津本ノ通價凡ソ三分ノ一ニ當ル

維新以來活版印刷ノ書類日ニ月ニ精巧ニ趨クト雖モ往々舛譌誤脱ノ弊ヲ免レサルヲ以テ輿論ノ歸スル所遂ニ正版ニ如カスト爲ス者ハ他ナシ校訂疎漏ニ失シ易ク印刷或ハ鹵莽ニ渉ルヲ以テナリ弊社夙ニ此業ヲ治メ專ラ排字ヲ以テ大小ノ典籍ヲ印行ス爾來星霜ヲ經ルノ久キ技術大ニ進歩シ信ヲ江湖ニ得ルヿ蓋シ淺鮮ナラス乃チ本社ノ事業日ニ繁盛ヲ致シ機械完全文字充足シ如何ナル卷帙浩瀚ナル者ト雖モ沮滯ナク整頓スルヲ得ルニ至レリ因テ今回本社ニ於テ資治通鑑印刷ノ一課ヲ開キ價格至廉ノ善本ヲ印行シ普ク同志諸彥ニ頒タント欲ス其方法規約ハ左ノ條欵ニ詳ナリ冀クハ別紙見本ニ就テ我カ言ノ誣妄ナラサルヲ信認セラレ陸續加盟アランヿヲ乞フ若シ夫レ校訂ノ精確ニシテ全部一字ノ誤脱ナキハ弊社誓テ擔保スル所ナリ謹白

資治通鑑印刷規約

第一條 本業ハ來ル三月三十一日迄ヲ期シテ同志一千名ヲ募リ四月一日ヨリ着手シ見本ノ通リ相違ナク印刷シ全部ノ發兌ヲ十二回ニ分チ毎月四册ノ割合ヲ以テ全部四十八册ヲ十二ケ月間ニ卒業スルモノトス

第二條 加入御申込ノ節ハ住所姓名ノ下ニ御捺印アル端書郵便ヲ以テ來ル三月三十一日迄ニ本社ニ御報知アルヘシ爾後轉居等ノ節ハ其時々速ニ御報知アルヘシ

第三條 有志諸彥加入セラル、節ハ其締盟ヲ固クセンカ爲メ壹部ニ付約定金貳圓ヲ御送付アルヘシ然ルトキハ社主大野堯運ノ名前ヲ以テ領收證書ヲ送呈スヘシ

但本文金員ノ義ハ同盟八百名以上ニ及ハサル間ハ集金セサルモノトス八百名以上ニ及ヒ候節ハ本社ノ報道ヲ待テ御送付アルヘシ

第四條 同盟御出金ノ便ヲ謀リ毎月一部ニ付前金壹圓ツヽ結尾一帙ニ至リ金五十錢ヲ御送付アルヘシ然ルトキハ前條名前ヲ以テ其時々領收証書ヲ送呈スヘシ

第五條 書籍ノ遞送東京府内ハ無賃府外各地ハ別ニ遞送現費ヲ請求スヘシ

第六條 凡ソ本書ニ關スル通信ハ總テ報告社内資治通鑑印刷課アテニテ往復スヘシ

第七條 印本ハ極メテ校訂ヲ嚴ニシ毫モ訛謬ナキヲ要スルカ故ニ萬一誤脱アルトキハ其部分ヲ一應郵便端書ヲ以テ御通知アルヘシ然ルトキハ本社ニ於テ之ヲ點撿シ全ク誤謬ナルトキハ速ニ無代價ニテ正刷ノ上交換スヘシ

但誤脱ノ部分御通知ノ期限ハ本社ヨリ書籍發遞ノ日ヨリ六十日以内トス

口上

やはり一つの手段として御樂器師として西京に住み明治の初め東京に移り[illegible]職業を[illegible]
[illegible]

明治十五年二月

東京淺草區[illegible]町二十二番地
御樂器調進所
神田重助

一此品御入用之節ハ 白本ヨリ御送申上候間御注文可被下候
一御進物白木入箱入 金 三十五
一御香料 白木二付 金 一円四十五
署箱入
一同 千本二付 金 二円八十五
右之外品々
御注文之節ハ何本入何銭の品何箱ト御印可被下候 送上候
本所區緑町四丁目
御用 明煙社

佩文韻府出版廣告

小野湖山　林　櫟窻
森　春濤　土岐立齋　校閲

佩文韻府附拾遺全部二百十二卷合本百册　最上等白紙摺美本唐本仕立
正價金四十八圓

今回弊社ニ於テ資治通鑑印刷ノ擧アルニ付此際併セテ佩文韻府印刷ノ一課ヲ設ケ其方法規約ハ概子資治通鑑ニ準シ來ル二月一日ヨリ三ヶ月間ニ於テ同盟五百名ヲ募リ右期限內ト雖ヒ滿員ノ上ハ直ナニ印刷ニ着手シ全部ヲ十五帙ニ分チ十五ヶ月間ニ於テ卒業スルモノトス抑此擧ヤ實ニ一大事業ニシテ一春一秋ノ得テ能クスヘキ所ニアラス故ニ務メテ其期月ニ十分ノ餘裕ヲ與ヘテ反覆校訂遺漏ナカラシメンヿヲ要ス同盟諸彥ハ當初約定金五圓ヲ送付セラレ嗣後每帙前金三圓ツヽ結尾一帙ニ至リ壹圓ヲ御送付アルヘシ其印本ノ鮮明精確ニシテ且ツ典雅ナルハ別紙見本ニ就テ電覽アルヘシ蓋シ淸國舶來一百餘圓ノ原本モ遠ク我カ印本ニ及ハサルヿヲ証スルニ足レリ乞フ陸續加盟アランヿヲ謹白

但御加入ノ諸彥ハ住所姓名ノ下ニ御捺印アル端書郵便ヲ以テ御報知アルヘシ約定金ノ義ハ同盟四百名以上ニ及ヒ候節本社ノ報道ヲ待テ御送付アルヘシ

右謹テ廣告仕候也

明治十五年一月

東京京橋區瀧山町四番地
報告社

追テ佩文韻府出版詳細ノ規約ハ弊社別ニ印刷セルヲ以テ御入用アラハ速ニ送呈スヘシ

佩文韻府卷一　　一東韻

上平聲

○東 德紅切春方也○漢書少陽在｜方｜動也從日在木中會意 也○禮記大明生於｜○又姓陶潛聖賢群輔錄舜友｜不訾

韻藻 南東 詩｜｜其畝○李孝先詩余其歸老兮 沂之｜｜○邵寶詩楚帆連日沮｜ 自｜ 詩我來｜｜ 又自西｜｜ ○在｜ 詩蝃蝀｜｜○蘇 軾詩我言歲｜｜ 徂｜ 詩自西｜｜○ 又駕言｜｜

小｜ 詩｜｜大東杼柚其空 言大小皆取給於東國 大｜ 詩遂荒 ｜｜ 侯｜ 詩乃命魯公 俾｜于｜ 門｜ 詩疏天子迎賓在｜｜○又杜甫詩叫怒索飰啼｜｜ ○又白居易喜錢左丞再除華州詩左轄輟中臺｜｜

倚上才注謂華 在國門之東也 居｜ 書周公｜｜二 年則罪人斯得 闑｜ 禮記賓不入中門公事 自闑西私事自｜｜ 活｜ 爾雅科斗｜｜蝦蟇也○ 唐寅詩青草池塘亂｜｜ 甬｜ 左傳越滅吳使吳 王居｜｜○郭翼

詩江上青山接｜｜○吳 育浩詩故國依然在｜｜ 河｜ 史記｜｜吾股肱郡特召君耳○薛能詩 萬家殘照在｜｜○楊載詩作賦擬｜｜ 易｜ 漢丁寬學易於田何學成辭歸何曰｜以｜矣 ○又李瀚古今品略云楊震關西丁寬｜｜ 膠

｜ 漢書張敞爲｜｜相○ 謝靈運詩置酒飲｜｜ 道｜ 漢宮闕疏長安立九市其 六市在道西三市在｜｜ 墻｜ 後漢書避世｜｜王君公○ 黃庭堅詩老夫直欲臥｜｜ 鎮｜ 三國趙雲胡威諸葛 誕皆爲｜｜將軍 征

｜ 三國馬超張遼 皆爲｜｜將軍 平｜ 晉杜預王濬皆 爲｜｜將軍 勿｜ 晉書劉曜僭帝於長安時有石言於陝 若云｜｜者後曜東與石勒戰果被擒 桑｜ 後周裴俠年十三父沒哀毀若成 人將卜葬空中有人曰童子何悲

葬于｜｜封公侯俠宅側有大 桑林因葬焉後封清河郡公 朔｜ 列子北山愚公欲平太行王屋二山帝命 夸娥氏二子負二山一厝｜｜一厝雍南 欵｜ 急就篇注｜｜即欵冬也亦曰欵凍以其凌寒 叩冰而生故爲此名生水中花紫赤色一名兎

奚亦曰 顆東 乃｜ 本草｜｜ 夏枯草名 來｜ 離騷今逍 遙而｜｜ 母｜ 蔡琰詩天與地 隔兮子西｜｜ 極｜ 海賦舟人漁 子徂南｜｜ 巴｜ 江賦｜｜之峽夏后疏鑿○沈 約詩｜｜三峽猿鳴悲夜鴻一

聲淚霑衣○郎士元 詩年年秋雁過｜｜ 井｜ 梁簡文詩女蘿托 松際甘瓜蔓｜｜ 江｜ 晉王坦之字文度弱冠有名語曰｜｜獨步王文度○南史袁淑謂謝莊曰｜｜ 無我卿當獨秀○又杜甫詩｜｜日暮雲○杜牧詩鱸魚新熟到｜｜○羅隱詩

資治通鑑卷第二

朝散大夫右諫議大夫權御史中丞充理檢使上護軍賜紫金

魚袋臣司馬光奉勑編集

後學　天台胡三省　音註

案每卷首某紀下分書曰起某盡某凡若干年皆係温公原注其曰起某終某者據第一卷之例蓋胡氏所續注注首宜空一格但自此

周紀二

起昭陽赤奮若盡上章困敦凡四十八年起癸丑終庚子

顯王

十一家謚法行見中外曰顯受祿于天曰顯百辟惟刑曰顯周公蓋末有此謚而周之末世謚顯王曰顯意謂後世傳寫周公謚法者遺之

元年、齊伐魏、取觀津、

康曰齊伐魏魏惠王請獻觀以和即觀津余按班志信都國有觀津縣與齊相去甚遠且趙地也又東郡有畔觀縣水經大河故瀆東逕五鹿之野又東逕衛國故城南古斟觀也此其魏之觀津歟徐廣曰觀今衛縣史記正義曰魏州觀城縣古觀國國語[illegible]見國夏太康第五弟之所封也觀工喚翻

趙侵齊、取長城、

劉昭志濟北盧縣有長城史記蘇代說燕王曰齊有長城鉅防即此

三年、魏韓會于宅陽、

水經注曰滎澤之際有沙城世謂水城非也魏冉走芒卯入北宅即此宅陽城括地志曰宅陽故城在鄭州滎陽縣東十七里

秦

地所拂下公告

宮城縣下陸前國桃生郡野蒜港市街ハ裏面圖面黑線區畫之通ニシテ民有地及道路溝渠遊園其他官用ニ供スヘキ土地ヲ除キ宅地坪數凡四萬五千坪餘本年十月一日ヨリ同所ニ於テ糶賣候條望ノ者ハ左之條々相心得實地見分之上同所出張市街地掛ヘ可申出此旨公告候事

明治十五年七月　内務省

市街地拂受人心得

第一條　拂下ク可キ地ハ場所ニヨリ廣狹一ナラスト雖モ相當ニ區畫シテ番號ヲ附シ一番ヲ一筆トシ競賣場ニ公示スヘシ尤一人ニシテ數筆ヲ拂受クルハ勝手タリト雖モ一筆數人ニ分買スルヲ許サス

第二條　繫船溜沿岸荷揚所敷地及ヒ川船溜沿岸納屋敷地ハ拂下ゲズ尤地先地主ノ所望ニ應シ相當借地料ヲ賦シテ貸與スヘシ

但共同物揚場ニ使用スル地ハ貸與ノ限ニアラズ

第三條　地所ヲ拂受ケント欲スル者ハ本人ノ族籍姓名ヲ記シ實印ヲ捺シ本籍或ハ寄留地ノ區（戶）長ニ於テ其區町村内ノ居住者ニ相違ナキ奥書ヲ爲シタル書面（代人ナラバ委任狀ヲ添ヘテ）ヲ係官吏ヘ差出スヘシ

第四條　拂下ク可キ地所ハ自然高低アリト雖モ一様ノ高サニ埋立タル上引渡スヘシ

第五條　道路ハ當初官費ニテ開設スヘシ

第六條　橋梁ハ新鳴瀨川ニ於テ三箇所官費ヲ以テ架設スヘシ

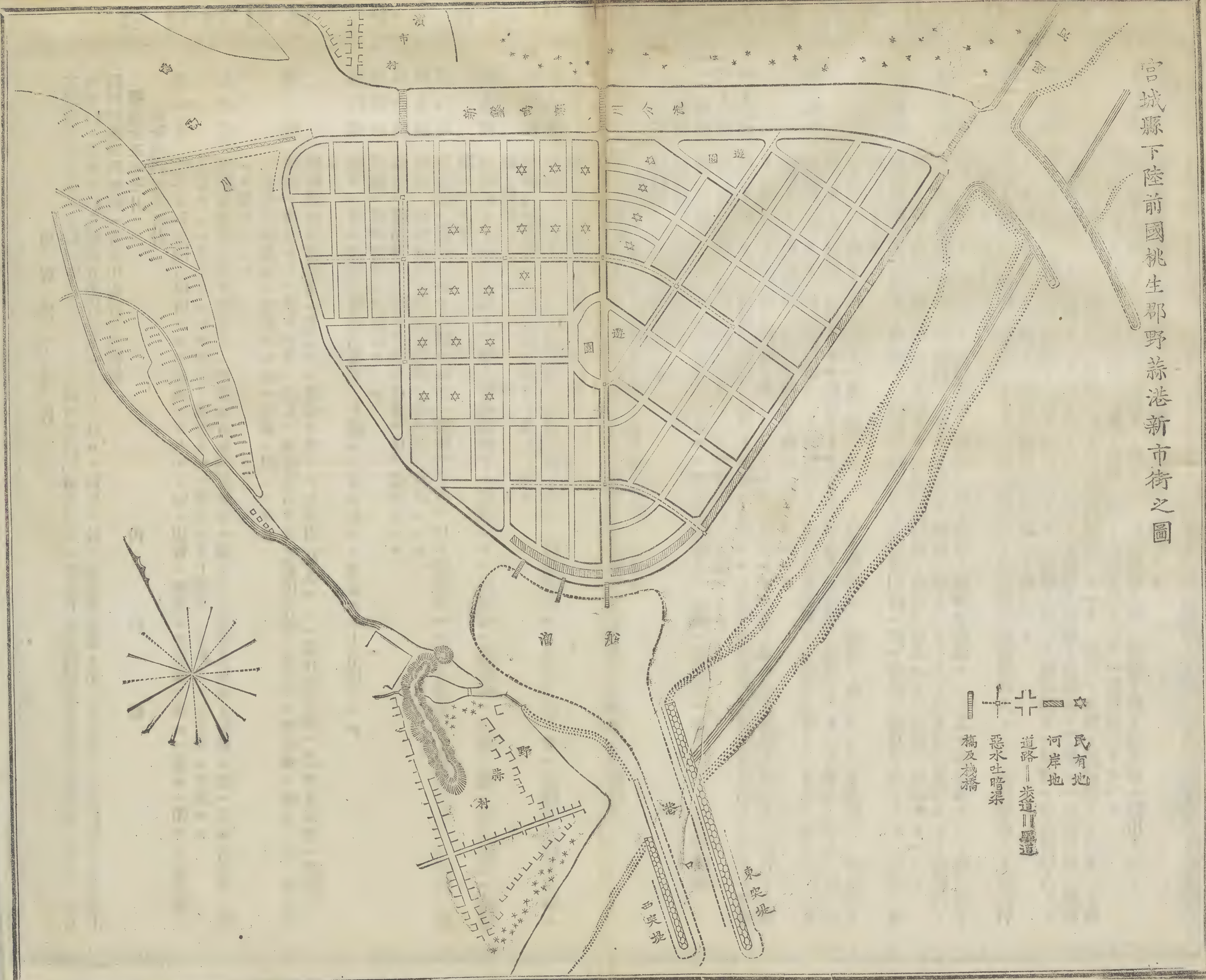
第七條　棧橋ハ船溜沿岸ニ於テ三箇所官費ヲ以テ架設スヘシ

第八條　惡水路ハ暗渠ニシテ大樋及地形一面桝共官費ヲ以テ設置スヘシ但各居宅ヨリ暗渠ニ達スル小溝ハ此限ニアラス

第九條　第五條ヨリ第八條迄ノ工事ハ當初新設ノミ官費タルニ付以後ノ修繕等ハ成規ニ隨ヒ地方稅又ハ協議費ノ負擔タルベシ

第十條　市區内ニ建築シタル家屋ハ草葺ヲ爲スヲ得ス

第十一條　市區内ニ於テハ左ノ營業ヲ爲スヲ禁ズ故ニ是等ノ營業者ニシテ地所ヲ望ム者ハ市區外ニ於テ相當ノ地ヲ撰ミ拂下グル事モアルベシ



正義曰魏州觀城縣古觀國國語云觀國夏太康第五弟之所封也觀工喚翻

城、劉昭志濟北盧縣有長城史記[illegible]代說燕王曰齊有長城鉅防即此

三年、魏韓會于宅陽、水經注曰滎澤之際有沙城世謂水城非也魏冉走芒卯入北宅即此宅陽城括地志曰宅陽故城在鄭州滎陽縣東十七里

秦

地所拂下公告

宮城縣下陸前國桃生郡野蒜港市街ハ裏面圖面黑線區畫之通ニシテ民有地及道路溝渠遊園其他官用ニ供スヘキ土地ヲ除キ宅地坪數凡四萬五千坪餘本年十月一日ヨリ同所ニ於テ糶賣候條望ノ者ハ左之條々相心得實地見分之上同所出張市街地掛ヘ可申出此旨公告候事

明治十五年七月　　内務省

市街地拂受人心得

第一條　拂下クヘキ地ハ場所ニヨリ廣狹一ナラスト雖モ相當ニ區畫シテ番號ヲ附シ一番ヲ一筆トシ競賣場ニ公示スヘシ尤一人ニシテ數筆ヲ拂受クルハ勝手タリト雖モ一筆數人ニ分買スルヲ許サス

第二條　繫船溜沿岸荷揚所敷地及ヒ川船溜沿岸納屋敷地ハ拂下ゲズ尤地先地主ノ所望ニ應シ相當借地料ヲ賦シテ貸與スヘシ

但共同物揚場ニ使用スル地ハ貸與ノ限ニアラズ

第三條　地所ヲ拂受ケント欲スル者ハ本人ノ族籍姓名ヲ記シ實印ヲ捺シ本籍或ハ寄留地ノ區(戸)長ニ於テ其區町村内ノ居住者ニ相違ナキ奧書ヲ爲シタル書面(代人ナラバ委任狀ヲ添ヘテ)ヲ係官吏ヘ差出スヘシ

第四條　拂下クヘキ地所ハ自然高低アリト雖モ一樣ノ高サニ埋立タル上引渡スヘシ

第五條　道路ハ當初官費ニテ開設スヘシ

第六條　橋梁ハ新鳴瀨川ニ於テ三箇所官費ヲ以テ架設スヘシ

第七條　棧橋ハ船溜沿岸ニ於テ三箇所官費ヲ以テ架設スヘシ

第八條　惡水路ハ暗渠ニシテ大樋及地形一面桝共官費ヲ以テ設置スヘシ但各居宅ヨリ暗渠ニ達スル小溝ハ此限ニアラス

第九條　第五條ヨリ第八條迄ノ工事ハ當初新設ノミ官費タルニ付以後ノ修繕等ハ成規ニ隨ヒ地方稅又ハ協議費ノ負擔タルベシ

第十條　市區内ニ建築シタル家屋ハ草葺ヲ爲スヲ得ス

第十一條　市區内ニ於テハ左ノ營業ヲ爲スヲ禁ズ故ニ是等ノ營業者ニシテ地所ヲ望ム者ハ市區外ニ於テ相當ノ地ヲ撰ミ拂下グル事モアルベシ

第一　蒸氣機關ヲ裝置セシ製造所

第二　硝酸硫酸其他揮發性ノ藥劑摺附木花火火藥亞爾格兒揮發油酒類燈油之製造所及貯藏所

但自用小賣ノ爲メ貯藏スル些々タル者ハ此限ニアラズ

第三　鑄物鍛冶金屬分析等ノ諸工場

第四　磚瓦陶器玻璃等ノ製造場

第五　前四項記載ノ外ト雖モ爆烈發火ノ具アル者ヲ製造若クハ貯藏シ及惡臭ヲ放チ劇音ヲ發スル職業

第十二條　地代金ハ糶賣ノ即時全額ノ十分ノ二ヲ手附金トシテ納ムベシ

第十三條　當初上納シタル地代金ノ殘額ハ地所ト引替ニ即納スベシ若シ拂受人住居遠隔其他已ムヲ得ザル事情アル者バ六ケ月以内ノ猶豫ヲ與フルコアルベシ尤六ケ月ヲ過ギ猶地代金皆納セザルトキハ如何ナル事情アリトモ地所拂受ノ効ハ消滅シ手附金ハ損失タルベシ

第十四條　地所引渡後タリモ地代金完納マデハ官有地トス故ニ賣買讓與ハ勿論書入若クハ質入ヲ爲スヲ得ズ又官ニ於テ其地所ヲ進退スルニ障碍トナルベキ工事及土地附帶ノ義務トナルベキ契約ヲ爲スヲ許サズ若其契約ヲ爲スモ官ニ於テハ之ヲ認メザルベシ但代替讓與ハ本文ノ限ニアラズ且期限内ハ借地料ヲ賦課セザルベシ

第十五條　地所引渡ハ係官吏ヨリ指示スル期限ニ從フベシ尤地所引渡ニ際シ坪數ニ差異ヲ生スルトキハ代價ハ增減スト雖モ爲メニ拂受ヲ取消ヲ許サズ且引渡後坪數ノ差異ヲ發見スルモ代價ハ增減セザルベシ

第十六條　地所引渡後遲クモ一ケ年以内ニハ必ラズ家屋ヲ建築シ棟上ヲ了ルベシ若非常天災等ニヨリ期限内ニ棟上シ能ハザルトキハ速カニ係官吏ノ檢查ヲ受ケ相當ノ猶豫ヲ願出ツベシ其手續ヲ爲サヾル者ハ第十七條ニヨリ處分スベシ

第十七條　前條ノ期限内ニ家屋ノ棟上ヲ了ラザル者ハ地所拂下ヲ取消シ猶最前收入シタル地代金中ヨリ違約料トシテ其十分ノ二ニ相當スル金額ヲ徵收シ其剩餘ヲ下附スベシ

第十八條　家屋建築後ニ於テ其營業第十一條ノ制限ニ違フトキハ前條ト同シク地所拂下ヲ取消シ猶最前收入シタル地代金中ヨリ違約料トシテ其十分ノ二ニ相當スル金額ヲ徵收シ其剩餘ヲ下附スベシ其地所ニ建築シタル家屋ハ二ケ月以内ニ取拂ハシメ若シ限内取拂ハザルトキハ官ニテ取拂ヒ其費用ハ下附スベキ地代金ノ中ヨリ引去ルベシ此場合ニ於テ費用金額ノ多寡ヲ論スルモ一切採用セザルベシ

第十九條　地代金ヲ全納シタルトキハ受取證書ヲ下附スルニ付其證書ヲ添ヘ地券下附ヲ地方廳ニ願出ツベシ

第二十條　地所競賣及授受等詳細ノ手續ハ係官吏ノ指示ニ隨フベシ

交友社則

緒言

西哲曰ク博物學ハ恰モ門ヲ啓テ世人ヲ延キ造化ノ智工ヲ蓄藏セル室内ニ入ヲシムルガ如シ

明治十五年八月八日附録

第二、硝酸硫酸其他揮發性ノ藥劑摺附木花火火藥亞爾格兒揮發油酒類燈油之製造所及貯藏所
但自用小賣ノ爲メ貯藏スル些々タル者ハ此限ニアラズ

第三 鑄物鍛冶金屬分析等ノ諸工場

第四 磚瓦陶器玻璃等ノ製造場

第五 前四項記載ノ外ト雖モ爆烈發火ノ具アル者ヲ製造若クハ貯藏シ及惡臭ヲ放チ劇音ヲ發スル職業

第十二條 地代金ハ糶賣ノ即時全額ノ十分ノ二ヲ手附金トシテ納ムベシ

第十三條 當初上納シタル地代金ノ殘額ハ地所ト引替ニ即納スベシ若シ拂受人住居遠隔其他已ムヲ得ザル事情アル者ハ六ケ月以内ノ猶豫ヲ與フルヿアルベシ尤六ケ月ヲ過ギ猶地代金皆納セザルトキハ如何ナル事情アリトモ地所拂受ノ効ハ消滅シ手附金ハ損失タルベシ

第十四條 地所引渡後タリトモ地代金完納マデハ官有地トス故ニ賣買讓與ハ勿論書入若クハ質入ヲ爲スヲ得ズ又官ニ於テ其地所ヲ進退スルニ障碍トナルベキ工事及土地附帶ノ義務トナルベキ契約ヲ爲スヲ許サズ若其契約ヲ爲スモ官ニ於テハ之ヲ認メザルベシ但代替讓與ハ本文ノ限ニアラズ且期限內ハ借地料ヲ賦課セザルベシ

第十五條 地所引渡ハ係官吏ヨリ指示スル期限ニ從フベシ尤地所引渡ニ際シ坪數ニ差異ヲ生スルトキハ代價ハ增減スト雖モ爲メニ拂受ヲ取消ヲ許サズ且引渡後坪數ノ差異ヲ發見スルモ代價ハ增減セザルベシ

第十六條 地所引渡後遲クモ一ケ年以内ニハ必ラズ家屋ヲ建築シ棟上ヲ了ルベシ若非常天災等ニヨリ期限内ニ棟上シ能ハザルトキハ速カニ係官吏ノ檢査ヲ受ケ相當ノ猶豫ヲ願出ツベシ其手續ヲ爲サヾル者ハ第十七條ニヨリ處分スベシ

第十七條 前條ノ期限内ニ家屋ノ棟上ヲ了ラザル者ハ地所拂下ヲ取消シ猶最前取入シタル地代金中ヨリ違約料トシテ其十分ノ二ニ相當スル金額ヲ徵收シ其剩餘ヲ下附スベシ

第十八條 家屋建築後ニ於テ其營業第十一條ノ制限ニ違フトキハ前條ト同ジク地所拂下ヲ取消シ猶最前取入シタル地代金中ヨリ違約料トシテ其十分ノ二ニ相當スル金額ヲ徵收シ其剩餘ヲ下附スベシ其地所ニ建築シタル家屋ハ二ケ月以内ニ取拂ハシメ若シ限内取拂ハザルトキハ官ニテ取拂ヒ其費用ハ下附スベキ地代金ノ中ヨリ引去ルベシ此場合ニ於テ費用金額ノ多寡ヲ論スルモ一切採用セザルベシ

第十九條 地代金ヲ全納シタルトキハ受取証書ヲ下附スルニ付其証書ヲ添ヘ地劵下附ヲ地方廳ニ願出ツベシ

第二十條 地所競賣及授受等詳細ノ手續ハ係官吏ノ指示ニ隨フベシ

交友社則

緒言

西哲曰ク博物學ハ恰モ門ヲ啓テ世人ヲ延キ造化ノ智工ヲ蓄藏セル室内ニ入ヲシムル如シ又言フ萬物ハ造化ノ著述セル一大部ノ書籍ニシテ之ヲ讀ムトキハ以テ其性質ヲ窺ヒ知ルニ至ル可シト偉ナル哉言ヤ蓋シ此學ヲ講スレハ利用厚生ノ道日常需求ノ便否ヲ觀察シ國產ヲ繁殖シ工業ヲ振起スル等萬般ノ基礎日科ノ資料ニシテ經濟上實ニ闕ク可ラサルノ急務タリ夫レ如是洪大無量ノ學ニシテ而シテ未タ世ニ普ク振ハス遺憾モ亦窮レリ是ヲ以テ今回二三ノ嗜士相圖リ一社ヲ設ケ事ニ之ニ從ヒ世ニ答フル所アラントス特リ如何セン余輩ノ淺識寡聞素ヨリ其任ヲ負擔スルノ資ニ乏シ故ニ之レカ同臭ヲ募リ同味ヲ嘗メテ萬般ノ基礎タル動植鑛ノ性質効能ヲ詳示シ事々物々ニ就キ闘論說明シテ以テ彼ノ一大部ノ書ヲ研窮シ遂ニ造化ノ友ニ交ハランコトヲ希望ス諸君幸ニ加盟セヨ

第一條 本社ノ目的ハ博物學ノ進步改良ヲ謀ルニアリ

第二條 本社ハ交友社ト稱ス

第三條 開會ハ每年四回トシ春夏秋冬各一回トス
但會場幷ニ月日等ハ幹事ヨリ通知ス可シ

第四條 社員二名以上ノ請求ニ依リ幹事之ヲ必要ナリト思慮スル時ハ臨時會ヲ開クヿアル可シ

第五條 社員ハ每會必來集シテ博物學上ノ論說討論問答等ヲ爲スモノトス

第六條 論說等ハ口演ノ後各自筆記シテ部長ヘ差出スヘシ
但不得止事故アリテ欠席スルモノハ論說等ノ筆記ヲ差出スヘシ

文雅堂

机掛羅氈　唐製朱肉　文房諸具
繪筆各種　石銅象鈕　極製朱墨
諸國名硯　蠟石印材　懐中硯
南都油煙　唐硯數品　筆巻品々
和漢筆選　唐筆唐墨　唐紙手材

東京日本橋通四町目
友田為光製

第二　硝酸硫酸其他揮發性ノ藥劑摺附木花火火藥亞爾格兒揮發油酒類燈油之製造所及貯藏所

第七條　社員ヲ別ツテ天産農工考證ノ三部ト爲スト雖モ二部以上ヲ兼ヌルモ妨ナシ
第八條　天産員ハ動植鑛物ノ性質効能等ヲ研究スルヲ專務トス
第九條　農工員ハ農工ニ關スル一切ノ事ヲ研究スルヲ專務トス
第十條　考證員ハ數理及ヒ新古器物書畫書籍等ニ關スルコヲ研究スルヲ專務トス
第十一條　社員ノ論說及ヒ本社ノ記事ヲ集メ報告雜誌ヲ印刷スルコアルヘシ
第十二條　社員中ヨリ投票ヲ以テ正副幹事各一名部長三名ヲ撰擧ス可シ
但投票同數ナレハ年長ヲ以テス
第十三條　正副幹事及部長ハ一切無給タル可シ
第十四條　幹事ハ本社一切ノ事務ヲ總理ス
第十五條　部長ハ天産農工考證各部ノ事務ヲ分幹ス
第十六條　正副幹事及部長ハ其任期一ヶ年トシ每年之ヲ改撰ス可シ
第十七條　議事ヲ爲ス時ノ議長ハ幹事之ヲ務ム
第十八條　議事ノ可否ハ出席員ノ過半數ヲ得ルニ非レハ決スヘカラス
但可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル
第十九條　本社ノ費用ハ每會ニ其決算額ヲ社員ノ數ニ依リ醵出スルモノトス
但飮食ノ費用ハ各自辨タル可シ
第二十條　幹事ハ各社員ニ本社々員タルノ証ヲ附與ス可シ
第廿一條　入社又ハ退社セントスル者ハ幹事ノ認可ヲ經可シ
但退社シタルトキハ兼テ交附シタル社員証ヲ返附ス可シ
第廿二條　社員中本社ノ體面ヲ汚スノ言行アル者ハ幹事之ヲ衆員ニ議シ退社セシムルコトアル可シ
第廿三條　社員中死亡又ハ退社スル者或ハ退社セラルヽ者ハ本社一切ノ所有物ニ對シ要求スルコヲ得ス
第廿四條　本社ノ目的ニ關スル事ニ付世人ノ質問ヲ受ルトキハ本社之ニ答フルコアル可シ
第廿五條　本社不審ノ事アルトキハ新聞紙ヲ以テ博ク公衆ニ質スコアル可シ
第廿六條　社員ヨリ本社ニ書籍其他ノ物品ヲ納附スルコヲ得ヘシ
第廿七條　社員外ノ人ト雖モ有益ノ事件ヲ本社ニ通信シ又書籍其他ノ物品ヲ寄贈スルトキハ本社ヨリ報酬ヲ附與スルコアル可シ
第廿八條　社員タルモノハ本社ニ屬スル書籍及ヒ物品ヲ出入縱覽スルコヲ得ヘシ
第廿九條　社員氏名ノ順序ハ以呂波順ニ從フモノトス
第三十條　此規則ヲ改正或ハ加除セントスル時ハ社員半數以上ノ同意ヲ得テ之ヲ行フモノトス

明治十五年五月　　交友社創起員

御所樂雁

加州金澤尾張町
精製御菓子所
森下森八

航海所　函館　野村

蒸氣　兵庫丸

八月廿日出帆
八月二十九日乗込
八月二十七日積切

◎西村新七支店
堀江町二丁目九番地

目印 官許 千金[丹]

抑モ我家傳ノ千金丹ハ往古ヨリ…
セザリシカ御維新ニ從政府賣薬…
明スル處ノ佳良ノ藥品ヲ加ヘ之…
所トナリタリ然ルニ弊製ハ他ノ…
知スル所トナリ日ニ月ニ深ク御…
ケシヤ其千金丹ノ藥名ノ起リ始…
ク弊製ノ千金丹ヲ味ハルニ最モ…
フルニ今回朝鮮國貴顯紳士來リ…
千金丹ハ朝鮮國ニ於テ其元祖タ…
ト謂ツベシト頻リニ賞美セラレ…
シ調製シテ廣ク江湖ニ販賣ス然…
賣藥致候間冀クハ愛顧諸君目印…

○主治用法○胃の弱○溜飲○食…○眩暈○立くらみ○胸痛○痰咳○口中不浄○暴瀉○痢疾○氣付○毒消
右の諸症に大効あり用方ハ朝夕三切づゝ兩度或ハ一日に三度白湯又ハ冷水にて用ゆ凡そ小兒ハ大人の三分一を用ゆべし最も下腹の如き症にハ一度に五切づゝ用てよろし總て諸飲食にさし合なし

一 下り腹にぶり腹にハ起初に速かに用ゆれバ其効驗神の如し
一 旅行乘船の輩ハ勿論軍陣練兵等のせつかならずこの藥を時へ時々一切づゝ用ゆれば中暑霍亂又ハ水害等の患ひなし
一 惡き病流行時此藥を一切づゝ一日に二三回用ゆれバ惡氣を去り傳染の患なし暑中ハ別してはやり病あるが故に常に用ゐて豫防をすべし
一 氣欝眩暈たちくらみ或ハ酒船車の醉を治す又氣附毒消に最も奇効あり此諸症にハ用

…丁目…成三堂
東京神田橋外美土代町 早川金鱗堂
同神田佐柄木町 小園文花堂
大坂府西區江戸堀貳丁目 鳳潤金兵衛
横濱太田町貳丁目 栗山緣雲堂
宮城縣仙臺古河驛 小林音治
朝鮮釜山浦居留地 黒岩喜三郎

明治八年十二月二十日官許

朝鮮大醫李延年氏直傳

千金丹

大袋五十五片入 定價金拾錢
小袋二十五片入 定價金五錢

主治 ○氣付○解毒○中暑○中濕○霍亂○嘔吐○泄瀉○頭痛○眩暈○痰咳○留飲○虚胃○宿酒○食傷○欝悶○積聚○歯痛○腹痛○心痛○船暈○注車○口痛○聲嗄○獸咬○蟲螫

用法 ○大人ハ一二片小兒ハ半片乃至一片を白湯または清水にて嚥み下せバ百も禁忌ことなし急病にハ五六片を湯に溶き或ハ煎じて用ふべし頭痛にハ二片を唾に和し兩處の顳顬に貼てよし○歯痛にハ噛碎て其患處に爽みてよし○傳染病ある家に到んとするときハ口中に含てよし○諸獸に咬れ毒蟲に螫れたるときハ噛み碎きて其患處に擦摩てよし

來歴 此丹ハ寛永年間祖家盛吉か藥骨となりて朝鮮にありし時一日その國の大醫李延年の一族小舟に乘り玉浦より釜山浦に向ひ入來る際俄に大風雨に値ひ波濤に覆きて殆んど沈まんとせしを家祖帆檣を伐り苦うじて命を助しことありけれバ其恩を報ひんとて此聖劑を傳へしものなりその後此法を弟盛祐につたへ世々綿きて今にも及べりその效驗ことごとく述ぶべうらず先つ朝夕に服用せバ食を消し毒を解き痰を化し聲を爽にし渇を止め津を生し欝を開き脾を健にし胃を調へ血を養ひ氣を和げいつも傳染の惡病に感受ことなし或は瘴霧を侵し寒暑を凌き或は山海旅行或は軍陣練

神田須田町

衛生良劑

官許

東京神田錦町

千金丹

本家 大野錦盛堂製

四十粒入定價十錢

明治八年十二月二十日

官許

朝鮮大醫李延年氏直傳

千金丹

東京府下麹町區富士見町一丁目八番地住
舊長崎縣下對馬國厳原日吉町住籍

本舗 延齢堂石田直助謹製

二十五片入 定價五錢

官許 千金丹

目印

定價 四十五切入 金拾錢
定價 二十切入 金五錢

抑モ我家傳ノ千金丹ハ往古ヨリ製藥セシガ舊幕府ヨリ少錄ト雖ヒ食之カ故ニ更ニ販賣セザリシカ御維新ノ後政府賣藥規則御布告アリシニ依リ古來家傳ノ藥劑ヲ尚亦我カ發明スル處ノ佳良ノ藥品ヲ加ヘ之ヲ精製シ御規則ニ基キ内務省ノ御許可ヲ得テ販賣スル所トナリタリ然ルニ弊製ハ他ノ類藥ト異ナリ其功能ノ著シキ良劑タル〻江湖諸彦ノ熟知スル所トナリ日ニ月ニ深ク御愛顧ヲ受ケ商業倍々盛大ニ至ル實ニ幸福ト云ハザルベケンヤ其千金丹ノ藥名ノ起リ始メタリシ對州嚴原國分町豪士某ナル人我家ニ來リ親シク弊製ノ千金丹ヲ味ノルニ最モ精良ノ佳藥ナリ未タ如此千金丹ハ味ハズト感賞セリ加フルニ今回朝鮮國貴顯紳士來リテ我家ニ滯在ス即我家製ノ千金丹ヲ味フテ賞嘆シテ曰千金丹ハ朝鮮國ニ於テ其元祖タリキ今ヤ如此良劑ノ佳品ヲ日本國ニ於テ味フ實ニ良藥ト謂ツベシト頻リニ賞美セラレタリ因テ倍々精神ヲコラシ尚ホ一層藥品ノ純良ヲ精選シ調製シテ廣ク江湖ニ販賣ス然ルニ世上類藥夥シ因テ今回包袋ノ表面ヘ印紙ヲ貼用シ賣鬻致候間冀クハ愛顧諸君目印ト印紙ヲ御認可ノ上御購求アランヿヲ奉希望候

○主治用法○胃の弱○溜飲○食滯○服痛○癪聚○一切食傷○中暑○霍亂○氣鬱○頭痛○眩暈○立くらみ○胸痛○痰咳○口中不淨○暴瀉○痢疾○氣付○毒消

右の諸症ニ大効あり用方ハ朝夕三切つ〻兩度或ハ一日ニ三度白湯又ハ冷水にて用ゆ凡そ小兒ハ大人の三分一を用ゆべし最も下腹の如き症ニハ一度ニ五切づ〻用てよろし總て諸飲食にさし合なし

一下り腹或ぶり腹ニハ起初ニ速かニ用ゆれハ其効驗神の如し

一旅行乘船の輩ハ勿論軍陣練兵等のせつかならずこの藥を貯へ時々一切づ〻用ゆれば中暑霍亂又ハ水害等の患ひなし

一惡き病流行時此藥を一切づ〻一日ニ二三回用ゆれバ惡氣を去り傳染の患なし暑中ハ別してはやり病あるが故ニ常ニ用ゐて豫防そべし

一氣欝眩暈立ちくらみ或ハ酒船車の酔を治す又氣附毒消ニ最も奇効あり此諸症ニハ用

東京神田橋外美土代町	早川金鯱堂
同神田佐柄木町	小園文花堂
大阪府西區江戸堀貳丁目	鳳間金兵衛
横濱太田町貳丁目	栗山綠雲堂
宮城縣仙臺右河驛	小林音治
朝鮮釜山浦居留地	黑岩喜三郎

官許 本家

朝鮮大醫李延年氏直傳

廣告

兵の時ニ臨ミ假令風氣の異る土地ニ至るとも百惱千苦更に畏ニ足らず依りて江湖の諸君ニ常に此藥を袖ニして豫め病難を防がんことを冀ふ且つ近來類藥多く出ざれバ弊舖の舍號商標○印鑑等を能く照査して求め賜らバ幸ひ甚たし又販賣を希む諸君は府縣國郡地名番號族籍等を詳細ニ書記し照會さるべし然ると刄には願書の書類を付へて必す販賣規則をも遞送るべし。

東京麴町區富士見町一丁目八番地住
舊長崎縣下對馬國下縣郡嚴原日吉町住籍

本舖 延齡堂主人 石田直助敬白

大坂次各地賣弘所

東京京橋區銀坐二丁目	岸田吟香
同日本橋區兩國吉川町	五十嵐治兵衛
同日本橋區本町三丁目	本多周之助
同神田區裏神保町	岩瀨かう
同麴町區麴町三丁目	河村謙吉
同日本橋區橫山町	宮崎重兵衛
東京下谷區池之端仲町	守田治兵衛
同下谷池之端仲町	芝大助
同麴町區三番町	雨宮藤吉
同神田區田代町	石原巖
同神田區鍋町	立田四郎吉
同神田區裏神保町	渡邊平三郎

一頭痛まハ左右のこめかみへつばよてはりてよろし
一大人小兒の虫服痛ま用ひて其効神の如し
一此藥の眞劑たると世の人の能く知る所なり常ま之を服すれバ四季の瘴氣を拂ひ百毒と解し健全無病なり

官許千金丹ノ儀ハ內務省ノ賣藥規則ヲ遵奉シ精選ノ眞藥ヲ調製シ藥方ノ調査ヲ仰ギ今回同省ノ免狀ヲ奉戴シ成規ニ從ヒ受賣所ヲ大小ノ二分トシ一層勉勵シ以テ其販賣ノ普盛ナラン事ヲ四方ノ諸君陸續御恩求奉希望候且ツ大小取次賣弘方御望ノ御方ハ府縣國郡地名番号御姓名等詳細御認メ御申越シ被下候得バ取次規則ノ書類御送リ可申候間何卒御愛顧ノ程偏ニ奉冀望候也

東京府神田區錦町壹丁目
大野錦盛堂謹白

同所壹丁目拾番地住居
若林彦兵衛

本家製藥所

賣藥所

官許 千金丹諸國大取次

京都府下京區南門前町 南幸一
大坂府北區堂島中二丁目 勝田利右衛門
千葉縣下總國千葉郡千葉町 三輪彌三郎
同縣下東葛飾郡船橋驛 鳥光長右衛門
同縣下長柄郡高師驛藥舗 吉野吉平
同縣下山邊郡東金町 若林八郎兵衛
同縣下市原郡八幡宿 鈴木清七
茨城縣常陸國新治郡土浦町 堀越安藏
静岡縣下濱松神明町 山下仁兵衛
長野縣下上田下之條 若林利金太
開拓使管下函館相生町 竹內三次郎
神奈川縣下横濱元町一丁目 田村吉右衛門
同所太田町四丁目 池田菊

此外府縣取次所有之候得共數多ニ付略ス
目印ヲ以御購求ヲ冀フ

大醫李延年氏直傳

…も白惱千苦更に畏ふ足らず依りて江湖の
…んことを冀ふ且つ近來類藥多く出でバ弊
…賜らバ幸ひ甚たし又販賣を望む諸君は府
…照會さるべし然ると元には願書の書類を

…富士見町一丁目八番地住
…馬國下縣郡巖原日吉町住籍
…堂主人 石田直助敬白

…所
東京下谷區池之端仲町 守田治兵衛
同下谷池之端仲町 芝大助
同麹町區三番町 雨宮藤吉
同神田區田代町 石原巖
同神田區鍋町 立田四郎吉
同神田區裏神保町 渡邊平三郎

千金丹延齡堂活版部九

千金丹

四十五角入 定價十錢
二十角入 仝五錢

目印 ◎

主治 ○霍亂○痰咳○下り腹○しぶり腹○鬱氣○氣絶○積氣○胸痛○腹痛○溜飲○水害○酒醉○船車醉○眩暈○頭痛○口中不淨

用法 ○頭痛には左右のこめかみにつばにてはりてよし

抑此千金丹は我先祖代より對馬國に於て精製し此藥劑お世に施行事殆ど二百余年に及り患者是を用いて験効を爲し諸彥希望すれ共絶海の離島にして其便を求るを得ず因て購求販賣便利を謀り假に東京便利の場所に於て尚一層製錬に入念し大政府の撿査を經て以免許を得茲に販賣す四方の諸彥求て其効を實驗し玉ハゞ幸甚々

近來類藥多きに付◎目印を付し發賣仕來候千金丹の元祖弊店の家法効能の貴重なるを御信認被下御求の節ハ目印御吟味之上御求之程奉願上候

最予千金丹の藥効世人皆知る處にして日増に盛大相成旨に我千金丹摸似◎印等付け賣出者もあるにしもあらざれバ住永回春堂よく御吟味之上御求被下度奉希候

錫入千金丹

大錫入 價貳拾錢
中錫入 價拾貳錢
小錫入 價六錢

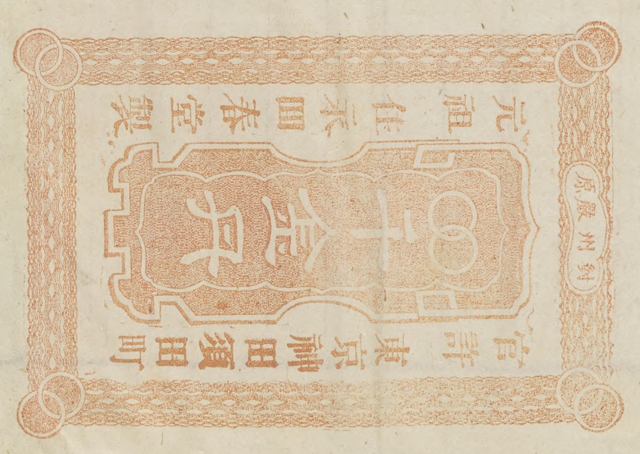
附言本紙千金丹愛顧諸君の御好も有之危急の症を救んが爲先今般錫入千金丹を發賣仕候効能等ハ本紙千金丹ま毫も異なるとなし短書なから御披露仕候

官許 元祖 住永回春堂
東京神田區須田町十六番

同日本橋區本石町十軒店 住永同店

各支店

東京淺艸並木町五番地
同四ツ谷麹町拾貳丁目 森回成堂
東京神田橋外美土代町 早川金鯱堂
同神田佐柄木町 小園文花堂
西京府下京區第拾貳組 堀出昇
大坂府西區江戸堀貳丁目 風間金兵衛
横濱太田町貳丁目 栗山緑雲堂
宮城縣仙臺古河驛 小林音治
朝鮮釜山浦居留地 黒岩喜三郎



志摩 國産 鮑粕漬發賣廣告

抑志摩國産鮑の義は皇國著名の品位にして諸君の良知せらるゝ處なり粕漬は明治の新發明にして暑寒の進物或は旅行に携へ至極適當の佳品なり今般弊店におゐて廣く各國に發賣せんとを計畫店は素より各地の諸君多少を論ぜず御購求あらんとを冀望す

但し賣捌き御望の諸君は割引御約定仕候間御来車あらんとをこふ

月 日 本舗 阪上重助

大阪西横堀呉服橋西詰

各君

製造本舖 志摩國 [illegible]

[illegible]

廣告

[illegible]

上天 中地 下人

口演

御客様愈御精意奉敬賀候隨テ弊店義御蔭ヲ以繁榮ニ赴キ難有奉鳴謝候尚當地御通過之節ハ不相變御來宿奉希上候敬白

盛岡六日町旅舍
齋藤市太郎

眞誠謹
仙台鎮台
御定宿
川舟乘客取繼所

再述聊御客様ノ御手許ニ供スルタメ當地ヨリ各地ヘ里程左ニ

郡山 四里十三丁余	花巻 九里九丁余	黒澤尻 十二里二十七丁余
水澤 十七里十四丁余	一ノ關 二十四里一丁余	澁民 四里二十七丁余
沼宮内 八里三十二丁余	一ノ戸 十七里七丁余	福岡 十九里五丁余
乙部 二里三十二丁余	大迫 七里二十八丁余	遠野 十七里十七丁余
簗川 五里七丁余	一本木 四里三丁余	田頭 六里二十丁余
雫石 四里八丁余	生保内 十三里余	數川 十一里三丁余
釜石 二十八里余	宮古 二十七里余	
○東京 百四十里十六丁余	○宮城 四十七里二十三丁余	○函館 百十里八丁余
○青森 五十一里八丁余	○秋田 三十五里六丁余	○八戸 三十二里余 但三戸ヲ經テ

名産
一南部紬　一鉄瓶 有阪製 小泉製 高橋製　一カタクリ粉 但シ同製菓子

盛岡新山河岸ヨリ陸前石港ヘ川舟御乗客様ハ御申入被下度一ノ關ヨリ同港ヘ川氣舟モ御座候

御用ひ被下度
御客様
御揚枝
齋藤旅店